志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書13

神　原　Ⅱ　遺　跡

―― 1997年の調査成果 ――

（第１分冊）

2002年3月

国土交通省中国地方整備局
島　根　県　教　育　委　員　会

志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書13

神　原　Ⅱ　遺　跡

―― 1997年の調査成果 ――

（第１分冊）

2002年3月

国土交通省中国地方整備局
島 根 県 教 育 委 員 会

序

当事務所ではいわゆる斐伊川・神戸川治水計画３点セットの一翼を担う事業として神戸川の上流に平成22年度完成を目標に志津見ダムの建設事業を進めています。このダムにより、頓原町大字角井・志津見・八神にわたり面積約2.3㎢もの貯水池ができることになりますが、神戸川流域では古くから鈩製鉄が行われていたように、ダムによる水没予定地内にもこれらを含め多くの遺跡の存在が予想されたことから、ダム建設に先立ち、島根県教育委員会を始め関係各位の御協力を頂き、これら遺跡についての調査を計画的に実施してきております。

当報告書は、そのうち神原Ⅱ遺跡の調査結果をとりまとめていただいたものです。当遺跡からは、縄文時代から江戸時代にかけての遺構・遺物のほか近世大鍛冶場も確認されるなど、地域の歴史を解明する上で貴重な資料となるものと考えられます。

当遺跡の場所は、志津見ダム建設工事に関連する国道184号線の付け替え部分に位置することから、現状での保存は困難と言わざるをえない状況です。そのような意味からも、ダム事業を契機として得られたこの貴重な資料をできるだけ正確かつ詳細に記録し後世に残すことが、せめてもの我々の務めでもあり、この報告書はその成果とも言えるものです。

最後になりましたが、当遺跡の発掘並びに報告書のとりまとめに関係された皆様に深く感謝申し上げます。

平成14年３月

国土交通省中国地方整備局
斐伊川・神戸川総合開発工事事務所
所　長　田　中　　靖

序

島根県教育委員会では、国土交通省中国地方整備局（旧建設省中国地方建設局）の委託を受けて、平成元（1989）年度から志津見ダム建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を実施してまいりました。

志津見ダムが建設される神戸川は中国山地に源を発し、斐伊川とともに出雲平野を形成しており、一方では古くから陰陽を結ぶ交通路としての役割を担ってきました。また当流域は、良質な砂鉄や豊富な森林資源より産出される木炭を背景とした「鈩製鉄」が盛んな所で、当時を代表する一大産業として人々の生活を支えていました。

本書で報告する神原Ⅱ遺跡は、平成９年度に発掘調査を実施したもので、近世大鍛冶場をはじめ縄文時代から江戸時代にかけての遺構・遺物が確認され、この地域の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができました。本書がこの地域の歴史を解明していく糸口となり、郷土の歴史と文化財に対する理解や関心を高める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成にあたり、地元の皆様及び頓原町教育委員会をはじめ、国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所ならびに関係各方面から御協力・御指導賜りましたことに対し、心よりお礼申し上げます。

平成14年３月

島根県教育委員会

教育長　山　﨑　悠　雄

例　　言

1　本書は、平成９（1997）年度に島根県教育委員会が建設省中国地方建設局（現国土交通省中国地方整備局）より委託を受けて実施した志津見ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2　本書に掲載した遺跡とその地番は下記の通りである。

神原Ⅱ遺跡　　島根県飯石郡頓原町大字志津見269－3 外

3　調査組織は次の通りである。（役職名については当時の呼称を用いた）

調査主体　島根県教育委員会

（平成９年度）現地調査

事　務　局　　勝部　　昭（文化財課長）　　島地　徳郎（同課長補佐）
　　宍道　正年（埋蔵文化財調査センター長）　　古崎　蔵治（同課長補佐）
調　査　員　　田原　淳史（埋蔵文化財調査センター主事）　　錦織　稔之（同教諭兼主事）
　　佐藤　幸子（同調査補助員）

（平成12年度）報告書作成

事　務　局　　宍道　正年（埋蔵文化財調査センター所長）　　内田　　融（同総務課長）
　　松本　岩雄（同調査課長）　　今岡　　宏（同総務係長）
調　査　員　　田原　淳史（埋蔵文化財調査センター主事）
　　和田　康宏（同教諭兼文化財保護主事）

（平成13年度）報告書作成

事　務　局　　宍道　正年（埋蔵文化財センター所長）　　内田　　融（同総務課長）
　　川原　和人（同調査第二課長）　　今岡　　宏（同総務係長）
調　査　員　　田原　淳史（埋蔵文化財調査センター主事）

整理作業員　　金森千勢子　　和田　初子　　野中　洋子　　羽島ひとみ　　西　　郁子
　　土谷　美鈴　　柳原　準子　　神谷登喜美

4　発掘調査（発掘作業員雇用・重機借り上げ・発掘用具調達・測量発注）については、島根県教育委員会から中国建設弘済会へ委託して実施した。

社団法人　中国建設弘済会島根支部

〔現場担当〕　持田　明典　　金山　浩司

〔事務担当〕　市川　美奈

5　発掘調査並びに報告書作成にあたっては、次の方々から有益な指導・助言をいただいた。記して感謝を表したい。（敬称略・五十音順）

穴澤　義功（たたら研究会委員）　稲垣　寿彦（庄原市教育委員会）
大澤　正己（たたら研究会委員）　河瀬　正利（広島大学文学部教授）
杉原　清一（島根県文化財保護指導委員）
松井　整司（島根大学汽水域研究センター客員研究員）

6　調査に関する自然科学分析については、次の機関・方々に委託した。

地磁気年代測定：時枝　克安（島根大学総合理工学部教授）
製鉄関連遺物金属学的調査：㈱九州テクノリサーチ　大澤　正己　・　鈴木　瑞穂

7　本報告書に記載した遺物の実測は主として調査員が行い、以下の者の協力を得た。

今岡　一三　川﨑　英司　板倉　芳朗　岩崎　健　寺尾　令
田原　修一　西　郁子

8　本書の執筆・編集は調査員が協議して行い、文責は目次に明示した。また以下の者の協力を得た。

川﨑　英司　寺尾　令

9　本書に記載した写真撮影は、調査員及び板倉が行った。

10　本書に記載した「神原Ⅱ遺跡と周辺の遺跡」に使用した図は国土交通省国土地理院発行の地形図を使用した。

11　図中の方位は、測量法による第Ⅲ座標系Ｘ軸の方向を指す。従って、磁北より７°15′、真北より０°25′東の方向を指す。

12　挿図の縮尺は、図中に明示した。

13　出土遺物及び実測図、写真は島根県教育委員会（埋蔵文化財調査センター）で保管している。

本　文　目　次

本文編（第１分冊）

第１章　調査に至る経緯と調査の経過……（田原）……　1
第２章　位置・環境と周辺の遺跡……（寺尾）……　3
第３章　調査の結果　(1)……（田原）……　5
　第１節　遺跡の概要……　5
　第２節　１区の調査　(1)　－第１黒色土・第１ハイカ上面－……　5
　第３節　１区の調査　(2)　－第２黒色土・第２ハイカ上面－……　26
　第４節　２区の調査……　28
　第５節　３区の調査……　54
　第６節　ま　と　め……　66

本文編（第２分冊）

第４章　調査の結果　(2)……（田原）……　1
　第１節　大鍛冶場の調査……　1
　第２節　まとめ……　31
第５章　製鉄関連遺物の考古学的観察……（穴澤義功・田原）……　33
第６章　自然科学分析……　79
　第１節　神原Ⅱ遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査……（大澤正己・鈴木瑞穂）……　79
　第２節　神原Ⅱ遺跡１区大鍛冶炉の地磁気年代……（時枝克安）……　155

挿　図　目　次

（第１分冊）

第１図　頓原町位置図 ……　1
第２図　斐伊川・神戸川と志津見ダム建設予定地位置図 ……　1
第３図　神原Ⅱ・神原Ⅰ遺跡　97・98年度　調査区位置図　（Ｓ＝１／4,000）……　2
第４図　神原Ⅱ遺跡と周辺の遺跡 ……　4
第５図　１区　遺構配置図・地形測量図（Ｓ＝１／400）……　6
第６図　１区ＳＩ０１実測図　(2)　遺物出土状況　（Ｓ＝１／30）……　7
第７図　１区ＳＩ０１実測図　(1)　（Ｓ＝１／60）……　7
第８図　１区ＳＩ０１出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）……　8
第９図　１区ＳＩ０２実測図（Ｓ＝１／60）……　9
第10図　１区ＳＩ０３実測図（Ｓ＝１／60）……　9
第11図　１区ＳＢ０１実測図（Ｓ＝１／60）……　10

第12図　1区ＳＢ０２実測図（Ｓ＝１／80）…… 11
第13図　1区ＳＢ０３実測図（Ｓ＝１／60）…… 12
第14図　1区ＳＢ０４実測図（Ｓ＝１／60）…… 12
第15図　1区ＳＫ０１実測図（Ｓ＝１／40）…… 12
第16図　1区ＳＫ０１出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 12
第17図　1区ＳＫ０２実測図　（Ｓ＝１／30）…… 13
第18図　1区ＳＫ０２出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 14
第19図　1区ＳＫ０４出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 15
第20図　1区ＳＫ０３～ＳＫ０５実測図　（Ｓ＝１／40）…… 15
第21図　1区箱式石棺実測図　（Ｓ＝１／30）…… 16
第22図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(1)　縄文土器　（Ｓ＝１／３）…… 18
第23図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(2)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 18
第24図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(3)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 19
第25図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(4)　土師器　（Ｓ＝１／３）…… 20
第26図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(5)　須恵器・土師器・その他　（Ｓ＝１／３）…… 21
第27図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(6)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 22
第28図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(7)　石器　（Ｓ＝１／３）…… 22
第29図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図　(8)　陶磁器類・その他　（Ｓ＝１／３）…… 22
第30図　1区遺構に伴わない出土遺物実測図（第２黒色土）（Ｓ＝１／３、４はＳ＝１／４）…… 26
第31図　1区第２ハイカ上面地形測量図　（Ｓ＝１／300）…… 27
第32図　1区土層図　（Ｓ＝１／120）…… 27
第33図　2区土層図　（Ｓ＝１／80）…… 28
第34図　2区遺構配置図・地形測量図　（Ｓ＝１／400）…… 29
第35図　2区ＳＩ０１実測図　（Ｓ＝１／60）…… 30
第36図　2区ＳＩ０１出土遺物実測図　（１はＳ＝１／３、２～10はＳ＝１／１）…… 31
第37図　2区ＳＩ０２出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 32
第38図　2区ＳＩ０２実測図　（Ｓ＝１／60）…… 32
第39図　2区ＳＩ０３実測図　（Ｓ＝１／60）…… 33
第40図　2区ＳＩ０４実測図　(1)　（Ｓ＝１／60）…… 34
第41図　2区ＳＩ０４実測図　(2)　遺物出土状況　（Ｓ＝１／60）…… 34
第42図　2区ＳＩ０４出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 35
第43図　2区ＳＢ０１実測図　(1)　（Ｓ＝１／60）…… 36
第44図　2区ＳＢ０１実測図　(2)　遺物出土状況　（Ｓ＝１／60）…… 37
第45図　2区ＳＢ０１出土遺物実測図　(1)　（Ｓ＝１／３）…… 38
第46図　2区ＳＢ０１出土遺物実測図　(2)　（Ｓ＝１／３）…… 39
第47図　2区ＳＫ０２出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 40
第48図　2区ＳＫ０３出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）…… 40
第49図　2区ＳＫ０１～ＳＫ０７実測図　（Ｓ＝１／60）…… 41
第50図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(1)　縄文土器　（Ｓ＝１／３）…… 43
第51図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(2)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 43
第52図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(3)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 44
第53図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(4)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 45
第54図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(5)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 46
第55図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(6)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 47
第56図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図　(7)　弥生土器　（Ｓ＝１／３）…… 48

第57図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図 ⑻ 土師器 （Ｓ＝１／３）…… 48
第58図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図 ⑼ その他 （Ｓ＝１／３）…… 49
第59図　３区遺構配置図・地形測量図 （Ｓ＝１／300）…… 54
第60図　３区ＳＫ０１実測図 （Ｓ＝１／60）…… 55
第61図　３区ＳＫ０２実測図 （Ｓ＝１／60）…… 55
第62図　３区ＳＫ０３実測図 （Ｓ＝１／40）…… 56
第63図　３区ＳＫ０４～ＳＫ０９実測図 （Ｓ＝１／40）…… 57
第64図　３区ＳＫ０４出土遺物実測図 （Ｓ＝１／２）…… 58
第65図　３区ＳＫ０５出土遺物実測図 （Ｓ＝１／２）…… 58
第66図　３区ＳＫ０６出土遺物実測図 （Ｓ＝１／２）…… 58
第67図　３区ＳＫ０５出土銭貨拓本 （Ｓ＝１／１）…… 59
第68図　３区ＳＫ０６出土銭貨拓本 （Ｓ＝１／１）…… 60
第69図　３区ＳＫ０７・ＳＫ０８出土銭貨拓本 （Ｓ＝１／１）…… 61
第70図　３区ＳＸ０１実測図 ⑴ （Ｓ＝１／60）…… 62
第71図　３区ＳＸ０１実測図 ⑵ （Ｓ＝１／60）…… 63
第72図　３区遺構に伴わない出土遺物実測図 （Ｓ＝１／３）…… 64

（第２分冊）

第73図　大鍛冶場　遺構配置図 （Ｓ＝１／60）…… 1
第74図　大鍛冶場　1号炉実測図 （Ｓ＝１／30）…… 2
第75図　大鍛冶場　２号炉実測図 ⑴ （Ｓ＝１／30）…… 3
第76図　大鍛冶場　２号炉実測図 ⑵ （Ｓ＝１／30）…… 4
第77図　大鍛冶場　土坑(鉄床・鉄床石)実測図 （Ｓ＝１／30）…… 5
第78図　大鍛冶場　製鉄関連遺物　取り上げ用メッシュ範囲 …… 6
第79図　製鉄関連遺物構成図 ⑴ …… 7
第80図　製鉄関連遺物構成図 ⑵ …… 8
第81図　製鉄関連遺物構成図 ⑶ …… 9
第82図　製鉄関連遺物実測図 ⑴ 炉壁(製錬炉)・椀形鍛冶滓(１号炉) （Ｓ＝１／４）…… 10
第83図　製鉄関連遺物実測図 ⑵ 炉壁(鍛冶炉) （２号炉） （Ｓ＝１／４）…… 10
第84図　製鉄関連遺物実測図 ⑶ 羽口(２号炉より、２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 11
第85図　製鉄関連遺物実測図 ⑷ 羽口(２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 12
第86図　製鉄関連遺物実測図 ⑸ 椀形鍛冶滓(２号炉より) （Ｓ＝１／６）…… 12
第87図　製鉄関連遺物実測図 ⑹ 椀形鍛冶滓・鉄滓(２号炉より) （Ｓ＝１／４）…… 13
第88図　製鉄関連遺物実測図 ⑺ 椀形鍛冶滓(２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 14
第89図　製鉄関連遺物実測図 ⑻ 椀形鍛冶滓・含鉄Ｈ(○)(２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 15
第90図　製鉄関連遺物実測図 ⑼ 椀形鍛冶滓・含鉄Ｈ(○)
・鉄滓？流動滓・鍛冶滓？流動滓(２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 16
第91図　製鉄関連遺物実測図 ⑽ 鉄滓・流動滓
・椀形鍛冶滓（工具痕付）(２号炉？) （Ｓ＝１／４）…… 17
第92図　製鉄関連遺物実測図 ⑾ 椀形鍛冶滓（工具痕付）含鉄Ｈ(Ｏ) （Ｓ＝１／４）…… 18
第93図　製鉄関連遺物実測図 ⑿ 鉄塊系遺物　特Ｌ(☆) （２号炉・２号炉？） （Ｓ＝１／４）…… 19
第94図　製鉄関連遺物実測図 ⒀ 鉄塊系遺物　特Ｌ(☆) （２号炉？） （Ｓ＝１／４）…… 20
第95図　製鉄関連遺物実測図 ⒁ 鉄塊系遺物　特Ｌ(☆) （２号炉？） （Ｓ＝１／４）…… 21
第96図　製鉄関連遺物実測図 ⒂ 鉄塊系遺物　Ｌ(●) （２号炉より） （Ｓ＝１／４）…… 21
第97図　製鉄関連遺物実測図 ⒃ 鉄塊系遺物　Ｌ(●) （２号炉？） （Ｓ＝１／４）…… 22
第98図　製鉄関連遺物実測図 ⒄ 鉄塊系遺物　Ｌ(●) （２号炉？） （Ｓ＝１／４）…… 23

第99図　製鉄関連遺物実測図　⒅　含鉄鉄滓（鉄塊系遺物）M(◎)（２号炉？）（S＝１／４）…… 24
第100図　製鉄関連遺物実測図　⒆　含鉄鉄滓（鉄塊系遺物）M(◎)（２号炉？）（S＝１／４）…… 25
第101図　製鉄関連遺物実測図　⒇　含鉄鉄滓（鉄塊系遺物）H(○)（２号炉より）（S＝１／４）…… 25
第102図　製鉄関連遺物実測図　(21)　含鉄鉄滓　（鉄塊系遺物）　H(○)　（２号炉？）（S＝１／４）…… 26
第103図　製鉄関連遺物実測図　(22)　箸ずり止め釘（２号炉)、鉄製品（２号炉？）（S＝１／２）…… 26

表　目　次

第１表　神原Ⅱ遺跡と周辺の遺跡 …… 4
第２表　１区ＳＩ０１出土遺物観察表　(1) …… 9
第３表　１区ＳＩ０１出土遺物観察表　(2) …… 9
第４表　１区ＳＫ０１出土遺物観察表 …… 13
第５表　１区ＳＫ０２出土遺物観察表　(1) …… 14
第６表　１区ＳＫ０２出土遺物観察表　(2) …… 14
第７表　１区ＳＫ０４出土遺物観察表 …… 15
第８表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(1) …… 23
第９表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(2) …… 23
第10表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(3) …… 23
第11表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(4) …… 24
第12表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(5) …… 24
第13表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(6) …… 25
第14表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(7) …… 25
第15表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(8) …… 25
第16表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表　(9) …… 26
第17表　２区ＳＩ０１出土遺物観察表　(1) …… 30
第18表　２区ＳＩ０１出土遺物観察表　(2) …… 30
第19表　２区ＳＩ０２出土遺物観察表 …… 32
第20表　２区ＳＩ０４出土遺物観察表　(1) …… 35
第21表　２区ＳＩ０４出土遺物観察表　(2) …… 36
第22表　２区ＳＢ０１出土遺物観察表　(1) …… 39
第23表　２区ＳＢ０１出土遺物観察表　(2) …… 40
第24表　２区ＳＫ０２・ＳＫ０３出土遺物観察表 …… 40
第25表　２区ＳＫ０１～０７計測表 …… 40
第26表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(1) …… 49
第27表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(2) …… 50
第28表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(3) …… 50
第29表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(4) …… 51
第30表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(5) …… 51
第31表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(6) …… 52
第32表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(7) …… 53
第33表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(8) …… 53
第34表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　(9) …… 53

第35表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　⑽ …… 53
第36表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表　⑾ …… 53
第37表　３区ＳＫ０１・ＳＫ０２計測表 …… 55
第38表　３区ＳＫ０３計測表 …… 56
第39表　３区ＳＫ０４～０９計測表 …… 56
第40表　ＳＫ０５出土銭貨計測表 …… 59
第41表　ＳＫ０６出土銭貨計測表 …… 60
第42表　ＳＫ０７出土銭貨計測表 …… 61
第43表　ＳＫ０８出土銭貨計測表 …… 61
第44表　３区遺構に伴わない出土遺物観察表　(1) …… 65
第45表　３区遺構に伴わない出土遺物観察表　(2) …… 65
第46表　３区遺構に伴わない出土遺物観察表　(3) …… 65

写真図版目次

図版１　神原Ⅱ遺跡全景（南から），神原Ⅱ遺跡97年度調査区及びその周辺
図版２　１区ＳＩ０１，１区ＳＢ０２及び箱式石棺，１区ＳＫ０１
図版３　１区ＳＫ０２（検出状況），１区ＳＫ０２，１区ＳＫ０３
図版４　１区箱式石棺，１区箱式石棺，１区土層
図版５　２区ＳＩ０４，２区ＳＢ０１（遺物出土状況）
図版６　２区ＳＩ０１，２区ＳＩ０２，２区ＳＩ０３
図版７　２区ＳＩ０４（遺物出土状況），２区ＳＢ０１，２区ＳＫ０２
図版８　３区下段（遺構検出状況），３区ＳＫ０１，３区ＳＫ０３
図版９　３区上段，ＳＸ０１
図版10　３区ＳＸ０１（土層），３区ＳＸ０１（側石），３区ＳＸ０１（石除去後）
図版11　１区ＳＩ０１出土遺物，１区ＳＫ０１出土遺物，１区ＳＫ０２出土遺物，１区ＳＫ０４出土遺物
図版12　１区遺構に伴わない出土遺物（縄文土器），１区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版13　１区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），１区遺構に伴わない出土遺物（土師器）
図版14　１区遺構に伴わない出土遺物（須恵器・土師器）
図版15　１区遺構に伴わない出土遺物（石器・弥生土器・陶磁器），
　　１区遺構に伴わない出土遺物　第２黒色土（縄文土器）
図版16　２区ＳＩ０１出土遺物，２区ＳＩ０４出土遺物，２区ＳＩ０４出土遺物
図版17　２区ＳＢ０１出土遺物
図版18　２区ＳＢ０１出土遺物，２区ＳＫ０２・ＳＫ０３出土遺物，２区遺構に伴わない出土遺物（縄文土器）
図版19　２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版20　２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版21　２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版22　２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版23　２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器），２区遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）
図版24　３区ＳＫ０４出土遺物，３区ＳＫ０５出土遺物，３区ＳＫ０６出土遺物
図版25　３区遺構に伴わない出土遺物
図版26　大鍛冶場跡全景（南から），大鍛冶場２号炉（西から）

図版27　大鍛冶場２号炉（南から），大鍛冶場２号炉・断面
図版28　大鍛冶場１号炉（南から），大鍛冶場１号炉（西から），２号炉粘土面
図版29　鉄床石周辺鉄滓検出状況，鉄床石・鉄床，大鍛冶場鉄滓出土状況

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

志津見ダムは、斐伊川・神戸川治水計画の一環として建設される洪水防御及び工業用水の供給等を目的とした多目的ダムである。湛水地域は、島根県飯石郡頓原町大字角井から大字志津見・大字八神にまたがり、その総面積は230haにおよぶ。

この湛水地域内には多くの埋蔵文化財の存在が想定されたため、島根県教育委員会と頓原町教育委員会によって昭和63（1988）年に分布調査が行われ、その結果をもとに平成元（1989）年より建設省中国地方建設局（現　国土交通省中国地方整備局）から委託を受けてのダム建設予定地内及び関連事業地内埋蔵文化財発掘調査が進められている。

今回報告する神原Ⅱ遺跡（旧称 森脇遺跡[註1]）は平成９年度から調査を開始した遺跡である。

平成９（1997）年度は、この他に神原Ⅰ遺跡（旧称 神原遺跡[註2]）、小丸遺跡の３遺跡についても調査を実施した。３遺跡は、前年度の段階で建設省より、調査対象地のうちトンネル工事とそれに伴う工事用道路、および道路建設に伴う橋脚工事部分が急がれるとして、山裾部分を早急に調査調査して欲しい旨の協議があったため、遺跡内の当該箇所を優先して調査を実施した。なお、いずれの遺跡も面積が広いため複数年にわたっての調査となっている。

第１図　頓原町位置図

第２図　斐伊川・神戸川と志津見ダム建設予定地位置図

（註１）神原Ⅱ遺跡、神原Ⅰ遺跡はともに先述の分布調査によって確認されたもので当初は所在地の地名をとって北側（下流側）の遺跡を「森脇遺跡」、南側（上流側）の遺跡を「神原遺跡」と呼んでいた。しかし今回の発掘調査を実施中に再度字名を確認したところ「森脇」は本来、対岸の地点を呼ぶ字名であることが判明したため、両遺跡地内が字名「神原」で同一であることを確認したうえで、遺跡名を変更、それまでの「森脇遺跡」を「神原Ⅱ遺跡」に、「神原遺跡」を「神原Ⅰ遺跡」に改めた経緯がある。なお、分布調査では両遺跡とも集落遺跡の可能性が高いとされたところで、その面積は神原Ⅱ遺跡が32,000㎡、神原Ⅰ遺跡が20,000㎡あるものと推定された。遺跡は名称上二つに分かれているが、両遺跡が立地する地形等から考えて一連の遺跡と捉えて差し支えないといえよう。

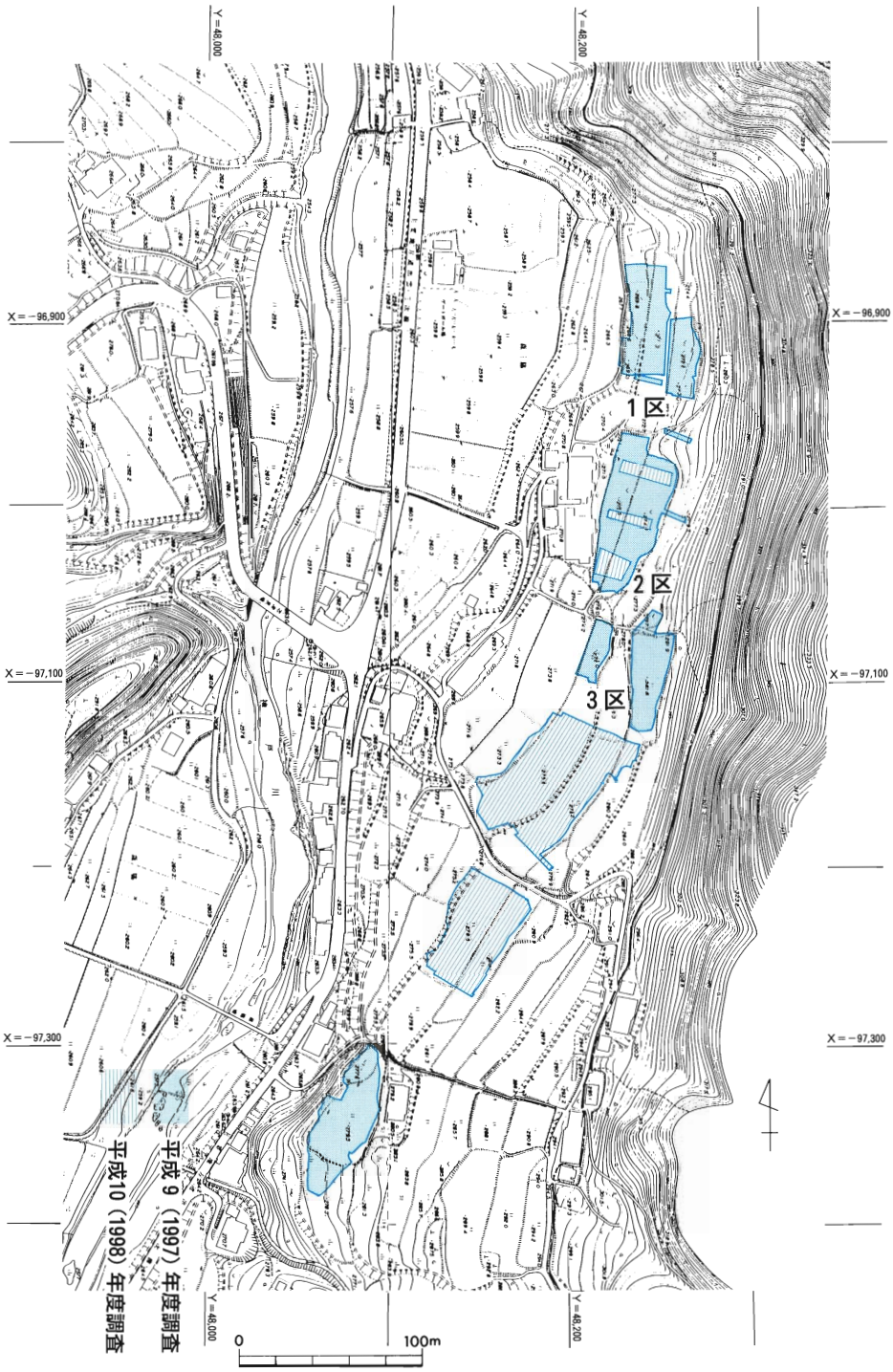
（註２）註１に同じ

第２節　調査の経過

現地調査　神原Ⅱ遺跡の調査は平成９（1997）年４月より開始した。前年度の協議をふまえて、遺跡の東側の山裾部分を水田の区画をもとに１区・２区と区分けし、１区から調査を行った。途中、再度建設省から、２区の南側部分も工事の進行上調査を至急行って欲しい旨の協議があり、これを受けて新たにその部分を３区として追加、平行して調査を行った。６月～７月には１区において奈良時代頃の建物跡を検出したほか、大鍛冶場の存在も明らかとなった。この段階で調査指導会を実施し有益な指導、指摘を得ている。８月からは２区・３区の調査を平行して行った。２区からは弥生時代を中心とする建物跡が検出されたほか、３区においても遺構・遺物が確認された。すべての現地調査が終了したのは12月26日である。

現地調査期間中は、時間等の関係上現地説明会の開催はしなかったが毎年春秋に行われるポピー祭、コスモス祭において本遺跡出土遺物の展示や遺構のパネル展示を行い、多数の方々に見学していただいた。

報告書作成　平成12～13年にかけて報告書の作成をおこなった。この間、製鉄関連遺物について二度の調査指導を受け、分析の必要な遺物については㈱九州テクノリサーチに委託した。



第３図　神原Ⅱ・神原Ⅰ遺跡　97・98年度　調査区位置図（Ｓ＝１／4,000）

第２章　位置・環境と周辺の遺跡

神原Ⅱ遺跡は島根県飯石郡頓原町志津見に所在する。志津見は、「源は飯石郡の琴引山より出て…」と『出雲国風土記』にも記載のある神戸川の中流域、標高500～600ｍの吉備高原面が開析され、そこにわずかな氾濫原とそれに伴う河岸段丘からなる谷底平野が形成されているところで、遺跡は神戸川右岸のそうした河岸段丘上に立地している。これらの平坦地は、冬期に季節風による積雪があるものの、比較的温暖な気候と周囲の山地に広く分布する落葉広葉樹林とにより、古来より重要な生活の場であったと考えられ、以下に報告するように多くの遺跡が確認されている。なお、これらの遺跡を含むこの地域の西６㎞のところには三瓶山があり、過去に幾度となく噴火を繰り返している。志津見においてもその影響をうかがうことができ、地元で「ハイカ」と呼ばれる数層の火山噴出物の堆積層が確認されている。

旧石器時代

現在までのところ旧石器時代に関係する遺跡や遺物は確認されていない。

縄文時代

縄文時代の遺跡は数多く確認されている。前期の建物跡をはじめとする多くの遺構や、草創期末から晩期に至るまでの土器が連続して確認された板屋Ⅲ遺跡、また、後期初頭から前葉にかけての建物跡や後期前葉の磨消縄文土器が良好な状態で多量に確認された五明田遺跡などのほか、東北地方からもたらされたと考えられる「屈折像土偶」や後期の配石遺構の確認された下山遺跡などがある。

弥生時代

弥生時代の遺跡としては、森遺跡、板屋Ⅲ遺跡、門遺跡、下山遺跡などがあげられる。前期のものとしては、配石遺構群が確認された板屋Ⅲ遺跡のほか数遺跡において土器が前期の土器が出土しているが数は多くない。中期から後期にかけては、門遺跡や森遺跡など拠点的な集落跡と考えられる遺跡が代表的である。特に森遺跡においては、竪穴住居跡や溝状遺構のほか土坑墓群も確認され重要な遺跡となっている。またこの時期には、広島県北部を中心に分布する塩町式土器に類似する土器も出土しており交流をうかがわせている。

古墳時代

古墳時代の遺跡としては前述の遺跡に加え比丘尼塚古墳、中原遺跡、小丸遺跡などがあげられる。前期のものはその初頭に弥生時代より継続して営まれるものが認められる程度であまり確認されていない。中期のものも同様で、当地域において確認される遺跡のほとんどは後期のものである。後期の集落跡としては神原Ⅰ遺跡や小丸遺跡などがあり、石組みの造り付け竈を備えた住居跡が確認されている。またこの時期には横穴式石室を内蔵した古墳や横穴墓も造られており、比丘尼塚古墳や中原遺跡の中原古墳、堂の原横穴墓などが確認されている。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡としては神原Ⅱ遺跡や森遺跡、門遺跡などがあげられる。特に門遺跡からは大型柱穴の掘建柱建物跡が確認されており注目される。

中　　世

中世の遺跡としては森脇山城跡や森遺跡などのほかに、多くの製鉄関連遺跡が確認されている。近世の高殿鈩成立以前と推定される製鉄関連遺跡は、板屋Ⅲ遺跡や戸井谷尻遺跡など20ヶ所近くに及ぶ。また森遺跡、門遺跡、板屋Ⅲ遺跡などからは貿易陶磁や信楽、備前といった国産陶器が出土しており、当時の経済的活動をうかがわせている。

近　　世

近世の遺跡としては製鉄関連遺跡の数が断然多いものの、当地域における産業のうちの一つである麻生産に関係すると考えられる遺構なども確認されている。製鉄関連遺跡としては高殿鈩とよばれる大型炉の地下構造が確認された壇原遺跡や大槇遺跡などがあり、麻生産に関係する遺構は神原Ⅱ遺跡などで確認されている。

主な参考文献

頓原町『頓原町史』1997

島根県『土地分類基本調査―三瓶山―』1981

島根県埋蔵文化財調査センター『かんどの流れ－特別号－』2000

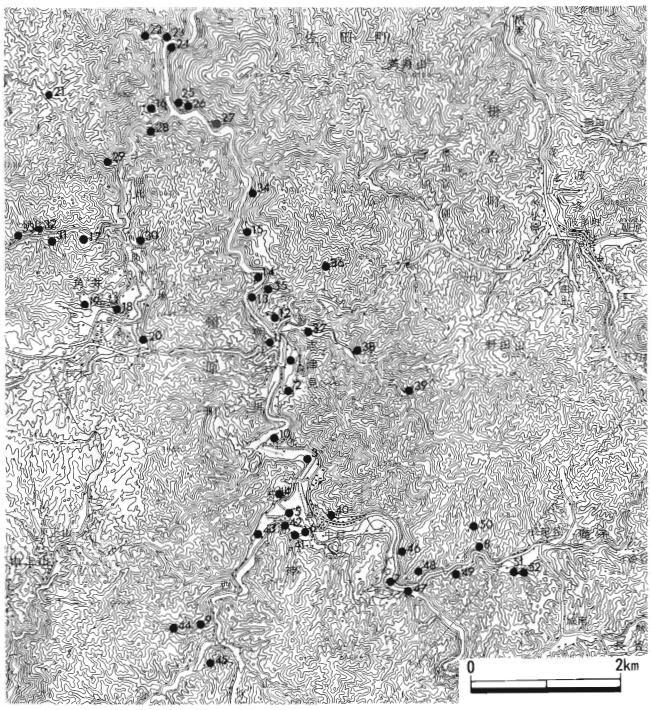
島根県教育委員会『阿丹谷辻堂跡・森脇山城跡・板屋Ⅰ遺跡・森遺跡』1994

島根県教育委員会『門遺跡』1996

島根県教育委員会『板屋Ⅲ遺跡』1998

島根県教育委員会『中原遺跡』1999

島根県教育委員会『戸井谷尻遺跡・長老畑遺跡』2001



第４図　神原Ⅱ遺跡と周辺の遺跡

第１表　神原Ⅱ遺跡と周辺の遺跡

遺跡名			
1	神原Ⅱ遺跡	2	神原Ⅰ遺跡
3	中原遺跡	4	谷川遺跡
5	森遺跡群	6	五明田遺跡
7	比丘尼塚古墳	8	竹谷遺跡
9	三代木遺跡	10	小丸遺跡
11	門　遺跡	12	板屋遺跡群
13	徳原遺跡群	14	後平遺跡
15	貝谷遺跡	16	下山遺跡
17	伊比谷遺跡	18	角井遺跡
19	堂ノ原横穴墓	20	杉戸遺跡
21	獅子谷遺跡	22	戸井谷遺跡
23	戸井谷尻遺跡	24	長老畑遺跡
25	殿淵山毛宅前鈩跡	26	殿淵カナクソ畑鈩跡
27	大槇鈩跡	28	権現上鈩跡
29	獅子谷遺跡(大鍛冶場跡)	30	向原鈩跡
31	伊比谷１号鈩跡	32	伊比谷２号炉跡
33	伊比谷３号鈩跡	34	丸山鈩跡
35	徳原鈩跡	36	板屋奥鈩跡
37	弓谷尻鈩跡	38	弓谷鈩跡
39	弓谷奥鈩跡	40	慶雲寺鈩跡
41	段原鍛冶跡	42	土井ノ上鈩跡
43	坂根鍛冶跡	44	三代木鈩跡
45	大歳鈩跡	46	鈩原鈩跡
47	落合製練所跡	48	獅子尻鈩跡
49	獅子古鈩跡	50	梅ヶ迫谷鈩跡
51	市場鈩跡	52	仁井屋鈩跡

第３章　調査の結果（１）

第１節　遺跡の概要

神原Ⅱ遺跡は、飯石郡頓原町大字志津見に所在する遺跡である。遺跡は神戸川右岸の河岸段丘上にあり、ダム建設計画の中では国道184号線と県道川本波多線の付け替え予定地とされた箇所にあたる。遺跡の面積は32,000㎡と広大である。周辺には、同一河岸段丘の南側にある神原Ⅰ遺跡や対岸にある門遺跡など多くの遺跡が存在する。

調査は平成９年度より数箇年にわたって行われている。第１章において述べたとおり、平成９年度における調査では、遺跡東側にあたる山裾部分を対象とし水田の区画を基本に３つの調査区にわけておこなった。

その結果、縄文時代から近世にかけての多くの遺構・遺物を検出した。検出した主な遺構は以下のとおりである。

（１区）　建物跡（竪穴・掘建柱）５以上・土坑５・箱式石棺１・大鍛冶場跡（炉跡・土坑・粘土面）・ピット多数

（２区）　建物跡（竪穴・掘建柱）５・土坑７・ピット多数

（３区）　炭窯１・土坑９　ピット多数

検出した遺構のうち、建物跡は基本的に弥生時代と奈良～平安時代頃のものがあり、２つの時期が認められる。土坑の多くは近世の墓と想定されるものであるが、古墳時代のものと考えられる石蓋土坑や当地域における産業の１つ「麻」の生産に関わると想定される石・炭を多量に含んだ土坑も確認された。また大鍛冶場からは、２基の炉跡のほか、鉄床石・鉄床、当時の作業面と考えられる粘土面を確認した。鉄生産は当地域における一大産業であり、これまでにも多くの製鉄関連遺構が調査されているが、今回大鍛冶場が確認されたことは新たに資料を追加することとなった。

今回の調査では以上のような遺構のほかに多量の遺物も出土した。その多くは弥生土器と土師器である。弥生土器の多くは中期と考えられる時期のものが多数を占め、中には広島県三次市塩町遺跡出土の土器を指標とする「塩町式」土器の特徴をそなえた土器や、流水紋が施された土器など特徴的なものも確認された。

第２節　１区の調査 (1) －第１黒色土・第１ハイカ上面－

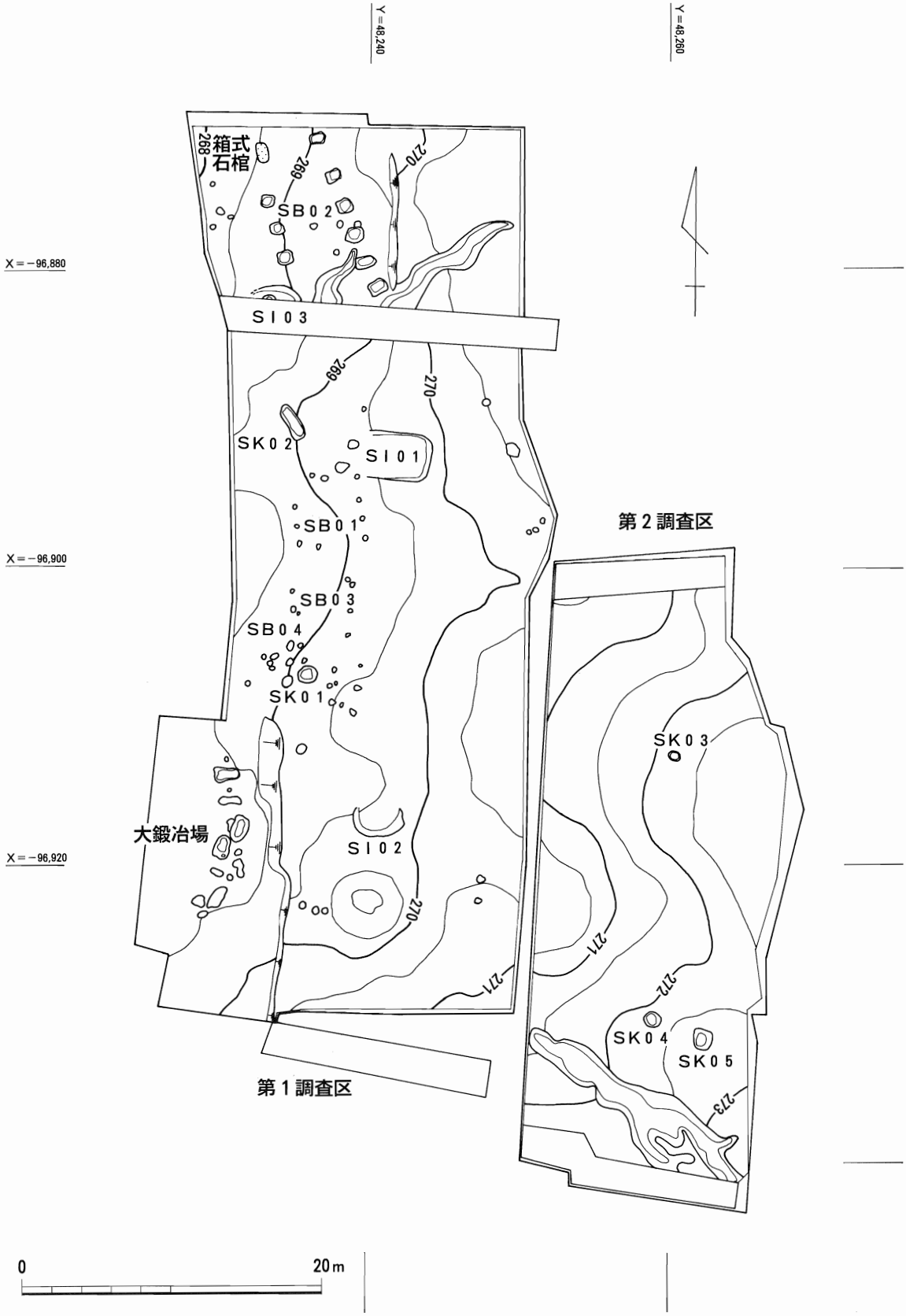
１区は今回調査した調査区のうち最も北側に位置する調査区である。神戸川からの比高は約11～16ｍで、尾根からの急な斜面が緩やかな斜面に変化する付近にあたる。調査前は水田が営まれていた。

１区の基本的な層序は水田耕作土、水田面造成時の盛土、黒色土（第１黒色土）、ハイカ（第１ハイカ）となっている。周辺の遺跡において既に確認されているように、ハイカ（第１ハイカ）の下には黒色土（第２黒色土）が存在していることが考えられたためトレンチにより確認したところ、ハイカの厚い堆積の下に厚さ約30～50㎝の黒色土層が認められたため、一部その部分まで掘り下げて調査を行った。

調査の結果、第１黒色土から第１ハイカ上面にかけては主に奈良～平安時代頃の建物跡や近世の

大鍛冶場跡などを確認した。また、第2黒色土から第2ハイカ上面にかけては、顕著な遺構は確認されなかったものの縄文土器片を検出した。

以下、各遺構について報告する。なお大鍛冶場跡については別章において報告することとする。

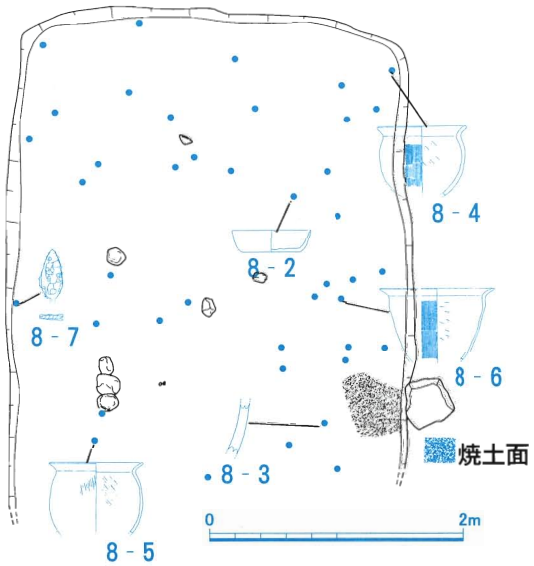


第5図　1区　遺構配置図・地形測量図（S＝1／400）

ＳＩ０１（第６～８図、第２・３表）

（立地）標高約269.5ｍに立地する。神戸川からの比高は約12.5ｍを測る。

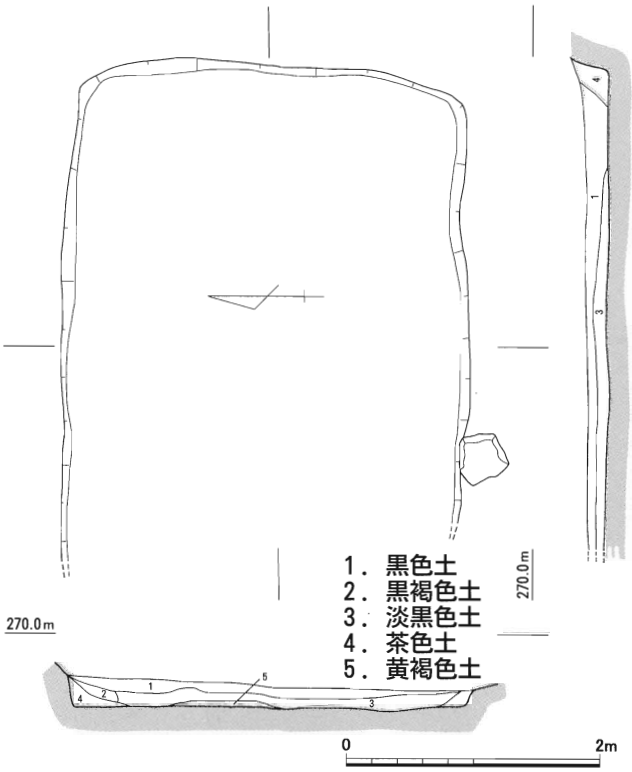
（規模・概要）（第７図）この建物跡は、調査段階で既に斜面下方側にあたる西側の壁が失われており全容は明らかでないが、残存部分から平面形が長方形で、規模が南北方向3.0ｍ、東西方向3.4ｍ以上を測るものと推測される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており高さは30㎝前後を測るが、上面はかなり削平されているものと考えられる。建物床面からは柱穴に相当するようなピット等は確認されておらず、建物の柱数などは不明である。また建物内南西側床面では、幅約50㎝の焼土面が認められた。なお、この焼土面の周辺からは板状の石を数点検出しており、竈等の施設が存在したことも考えられる。



第６図　１区ＳＩ０１実測図(2)　遺物出土状況（Ｓ＝1／60）

※出土遺物は縮尺任意

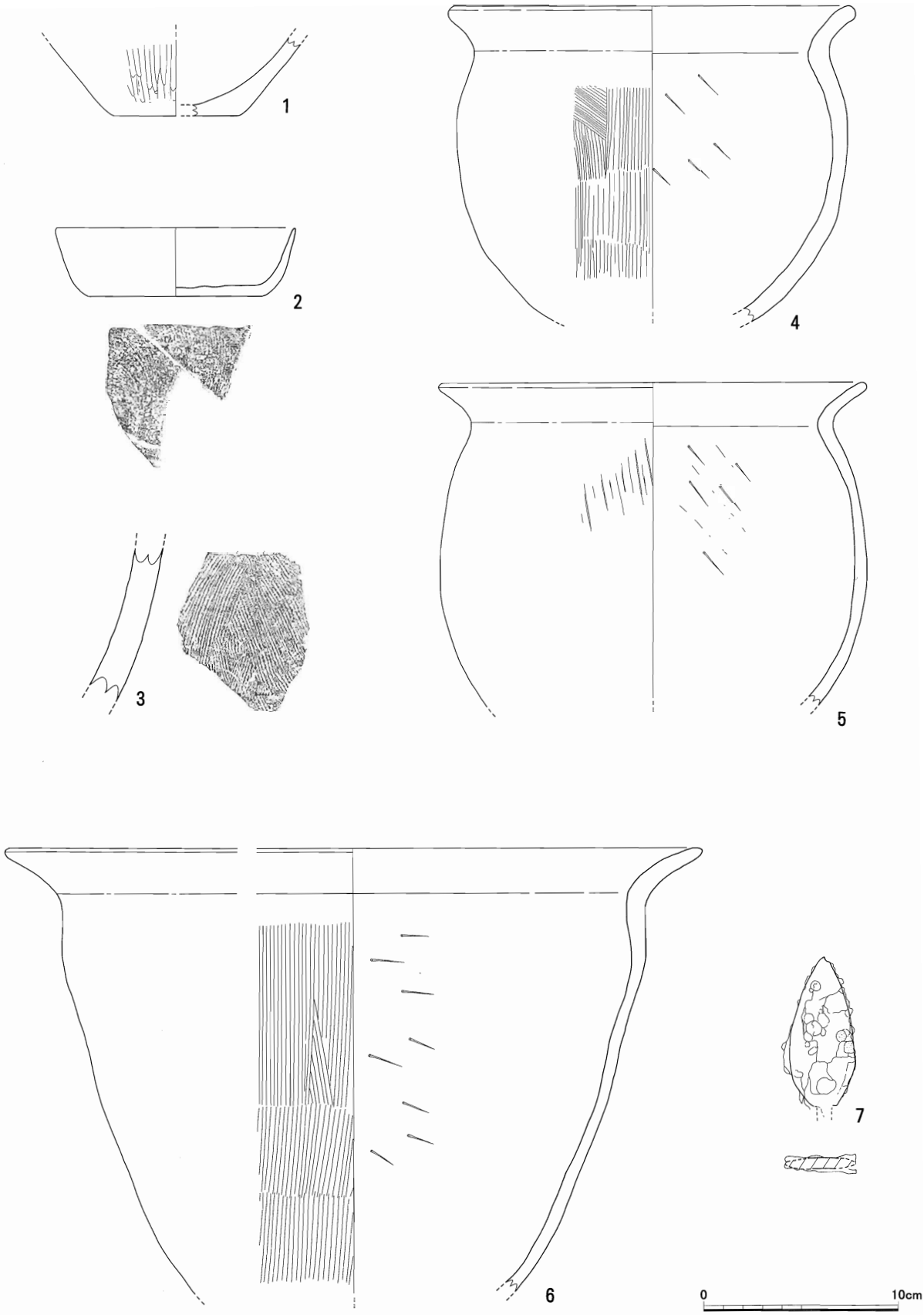
（遺物出土状況）（第６図）須恵器や土師器などが床面近くから出土した。全面的な出土で場所による粗密はほとんど認められない。遺物はほとんどが破片である。建物北側の壁沿いからは鉄鏃が１点出土した。



第７図　１区ＳＩ０１実測図(1)　（Ｓ＝１／60）

（出土遺物）（第８図、第２・３表）出土遺物のうち実測が可能だったものについて掲載した。１は弥生土器の甕または壺の底部と考えられるもので、周辺から流入したものと思われる。２は須恵器坏である。体部は直線的に開き、底部には糸切り痕が残る。３は土師器甕の破片と考えられるもので、器壁がかなり厚みを持つ。４～６は土師器甕である。いずれのものも外面の調整はハケメ、内面の調整はヘラケズリがなされている。６は鉢状に口縁が開き、胴部が張らない形で４、５と器形に違いをみせている。

（時期）出土遺物のうち２などから判断して、奈良時代頃の建物と考えられる。



第８図　１区ＳＩ０１出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）

第２表　１区ＳＩ０１出土遺物観察表　(1)

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
8-1		ＳＩ０１（覆土中）	甕（弥生土器）	底径:（ 6.6）	外面：ヘラミガキ、ナデ 内面：ナデ		１㎜程度の砂粒を含む	良	淡黒茶色	一部のみ残存
8-2	11	ＳＩ０１（床面近く）	杯（須恵器）	口径:(12.2) 器高:　3.5 底径:　9.0	外面：回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	体部は外方に直線的に開く	１㎜程度の砂粒を含む	良	淡茶桃色	残存率40％
8-3		ＳＩ０１（床面近く）	甕？（土師器）		外面:ハケメ、ナデ 内面:ヘラケズリ	器壁が厚い	１～４㎜程度の砂粒を含む	良	淡黒茶色	一部のみ残存
8-4	11	ＳＩ０１（床面近く）	甕（土師器）	口径: 20.0	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄褐色	残存率40％
8-5	11	ＳＩ０１（床面近く）	甕（土師器）	口径: 21.5	外面:ナデ、一部ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	淡茶桃色	残存率40％
8-6	11	ＳＩ０１（床面近く）	甕（土師器）	口径:(35.2)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ	胴部が張らない	１㎜程度の砂粒を含む	良	淡黒茶色	残存率20％

第３表　１区ＳＩ０１出土遺物観察表　(2)

（ ）の数値は現存長

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(cm)	幅(cm)	重量(ｇ)	備　　考
8-7		ＳＩ０１（床面近く）	鉄　鏃	(7.9)	(3.4)		錆化により破損

ＳＩ０２（第９図）

（立地）標高約270.0ｍに立地する。神戸川からの比高は約13ｍを測る。

（規模・概要）北側半分が既に流出しており残存状況が良くないため建物跡かどうか判断が難しい。平面形・規模とも明らかでないが、円形で径３～４ｍ前後と推測される。壁は緩やかな傾斜をもって掘り込まれており、床面との境は明瞭でない。また床面からはピット等は検出されなかった。

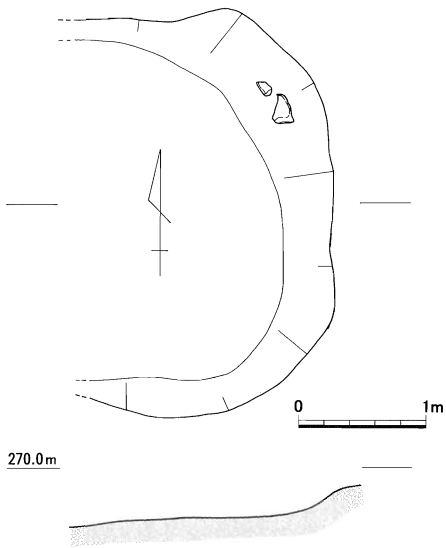
（出土遺物・時期）遺構に伴う遺物は出土していない。したがって時期も明らかでない。

ＳＩ０３（第10図）

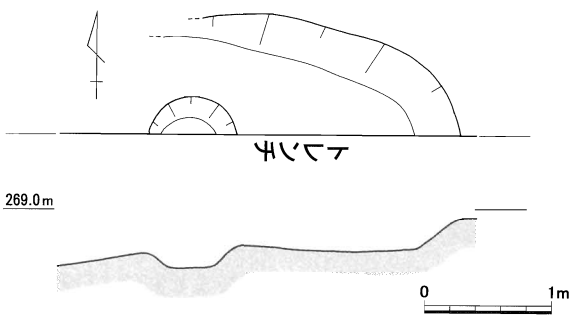
（立地）標高約269.0ｍに立地する。神戸川からの比高は約12ｍを測る。

（規模・概要）調査前のトレンチで遺構の大部分を破壊してしまったためその詳細については明らかにできなかった。残存部分からは平面が方形状の建物跡になる可能性が考えられるが、推測の域をでない。壁は緩やかな傾斜をもって掘り込まれている。床面ではピットを一基確認しているが、土層の様子からピットはほかにも数基存在したものと考えられる。

（出土遺物・時期）本遺構に伴う遺物は出土していない。したがって時期も明らかでない。



第９図　１区ＳＩ０２実測図（Ｓ＝１／60）



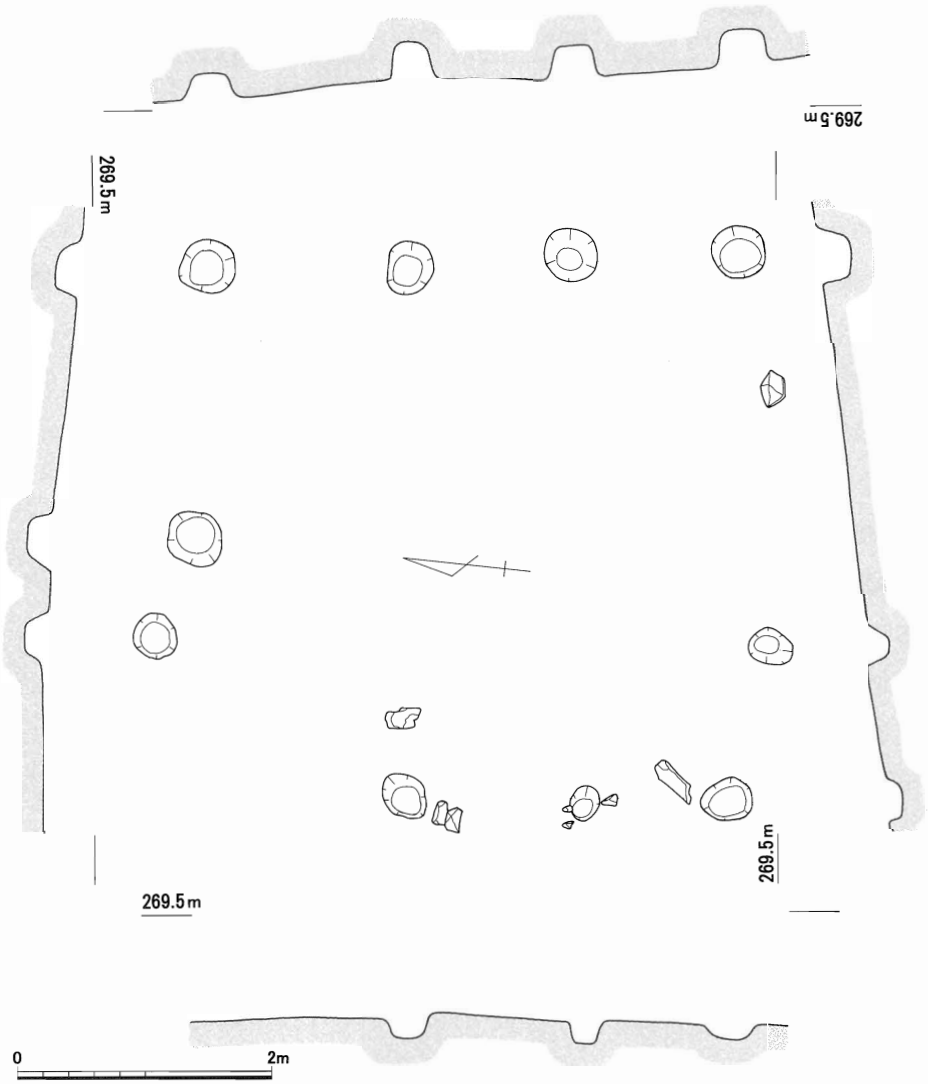
第10図　１区ＳＩ０３実測図　（Ｓ＝１／60）

ＳＢ０１（第11図）

（立地）標高約269.0ｍに立地する。神戸川からの比高は約12ｍを測る。ＳＩ０１の南西に隣接して存在するが、主軸はそれからややずれている。

（規模・概要）柱穴と想定されるピットは全部で９基検出している。北西側のピットが認められないが、基本的には３間×２間の建物跡と想定される。各柱間は南北方向が1.3ｍ前後、東西方向が2.0ｍ前後で、全体として約4.2ｍ×4.1の規模である。ピットは径が約40㎝、深さは約20～30㎝であったが、ピット上面は既に失われているものと考えられる。

（出土遺物）本遺構付近では包含層も含めて多量の土師器片が出土している。その中にこの建物に伴う遺物もあると考えられるが、厳密に区別することはできなかったため、本遺構付近の遺物は包含層出土の遺物として別に掲載している。



第11図　１区ＳＢ０１実測図　（Ｓ＝１／60）

ＳＢ０２（第12図）

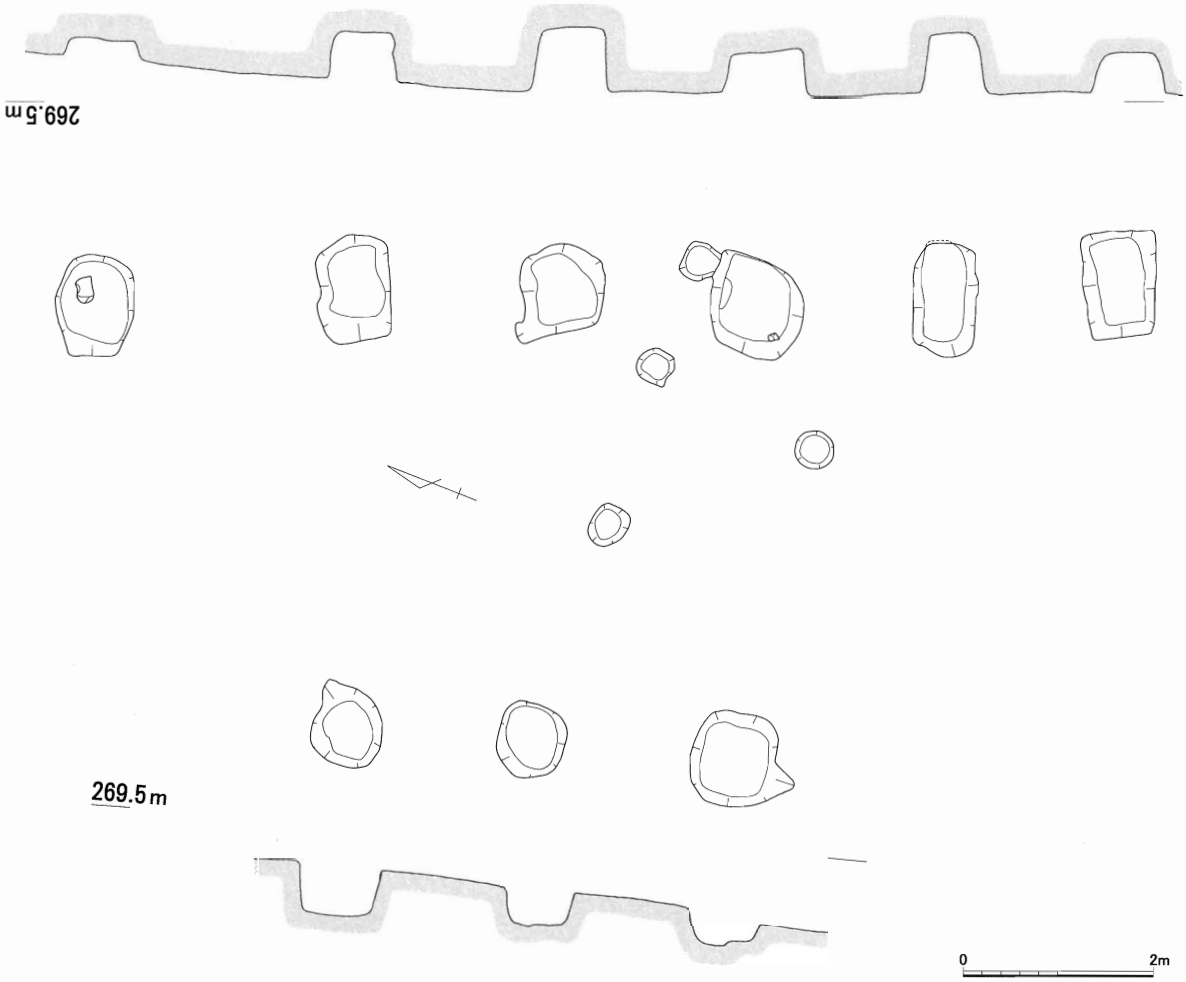
（立地）調査区の北側、標高約269.0ｍに立地する。神戸川からの標高は約12ｍを測る。

（規模・概要）柱穴と想定されるピットは東側で６基、西側で３基の計９基を検出した。このうち東側のピット１基は他のものと比べて浅い上に柱間が若干長いことから直接関係したものではない

ことも考えられる。また西側のピットが３基しか検出されていないため疑問も残るが、１間×４間（または１間×５間）の建物であったものと考えられる。ピットは平面形が長方形状を呈するものが多く、その規模は約1.2ｍ×0.6ｍ、深さは40～80㎝と大型である。各柱間は1.8～2.0ｍを測り、全体では南北方向約11.0ｍ、東西方向約5.0ｍの規模になる。

（出土遺物）本遺構に伴う遺物は出土していない。

（時期）本遺構に直接伴う遺物がないため明確な時期を特定することは難しいが、隣接する神原Ⅰ遺跡[註1]の例などから近世以降のものである可能性が高いと考えられる。



第12図　１区ＳＢ０２実測図　（Ｓ＝１／80）

ＳＢ０３（第13図）

（立地）ＳＢ０１から南に約５ｍの所に立地する。標高は約269.0ｍである。

（規模・概要）確認された柱穴は基本的に建物東側の柱穴と考えられるものである。西側の柱穴は一部に可能性のあるものも認められるが、残存状況が良くなく明らかでない。柱間はＳＢ０１とほぼ同じ約1.3ｍで、２間以上の建物であったと考えられる。

（出土遺物・時期）ＳＢ０１同様、本遺構付近では須恵器や土師器の破片が多く出土している。これらの遺物の中にはこの建物跡に伴うものもあると考えられるが、厳密な区分はできなかったため別に包含層出土の遺物として掲載している。これら遺物の多くが奈良時代頃のものと考えられることから、奈良時代頃の建物である可能性が高い。

ＳＢ０４（第14図）

（立地）標高約269.0ｍの所に立地している。

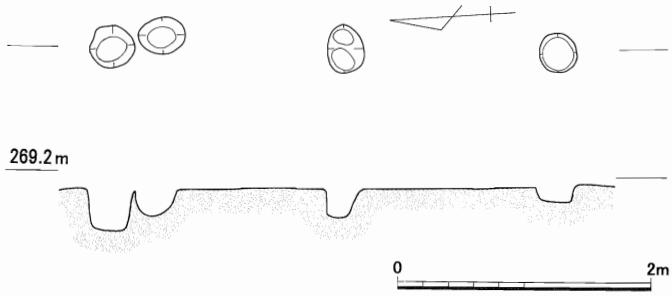
（規模・概要）ほぼ同規模のピットが３基直線的に並んでおり、調査段階ではこれに対応する辺のピット列は確認できなかったものの掘建柱建物跡の可能性が高いものと判断した。ピットは径が約70㎝を測り若干大きめで、またピット間の距離も１ｍ前後でほかの建物跡より短い。これを建物跡とした場合、柱穴の規模や各柱間の距離が異なる建物であったと考えられるが詳細は不明である。

（出土遺物・時期）ＳＢ０１、ＳＢ０３と同様に周辺から多くの遺物が出土している。それらからは同じく奈良時代頃と想定されるが、遺構の様相が違うことから時期が異なる可能性も考えられる。

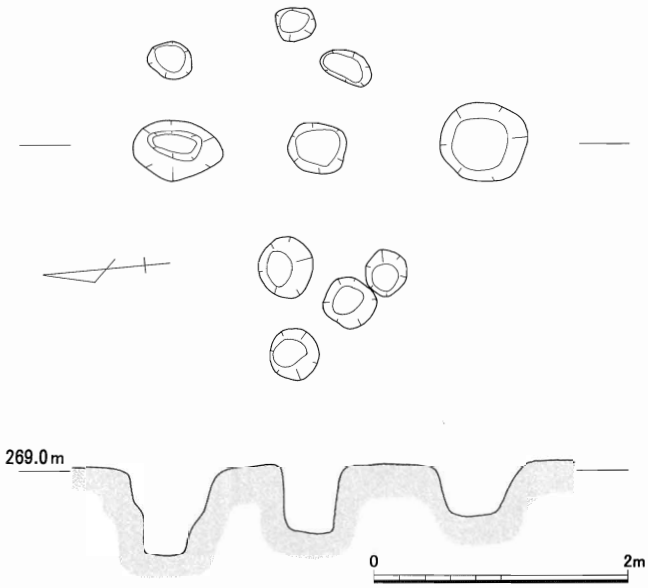
ＳＫ０１（第15・16図、第４表）

標高約269.0ｍ地点に位置する。平面形はほぼ円形で、径約1.2ｍ、深さ約60㎝を測る。土坑内からは土師器片が出土しており、このうち実測が可能だったものについては第16図に掲載した。土師器はどちらも器壁の比較的薄いもので、外面はハケ目、内面はヘラ削りを施している。

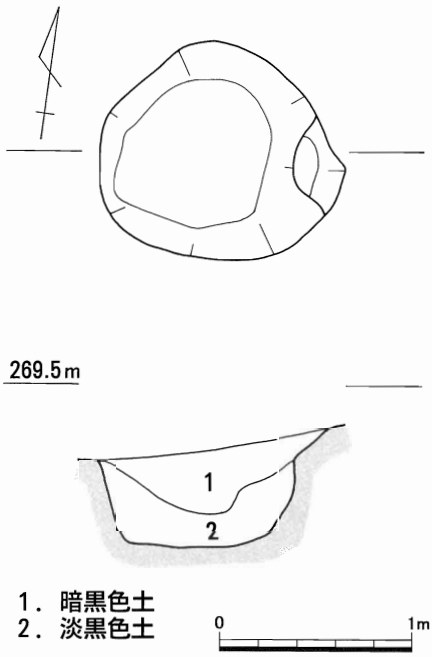
古墳時代以降のものであると思われるが、明確な時期は不明である。



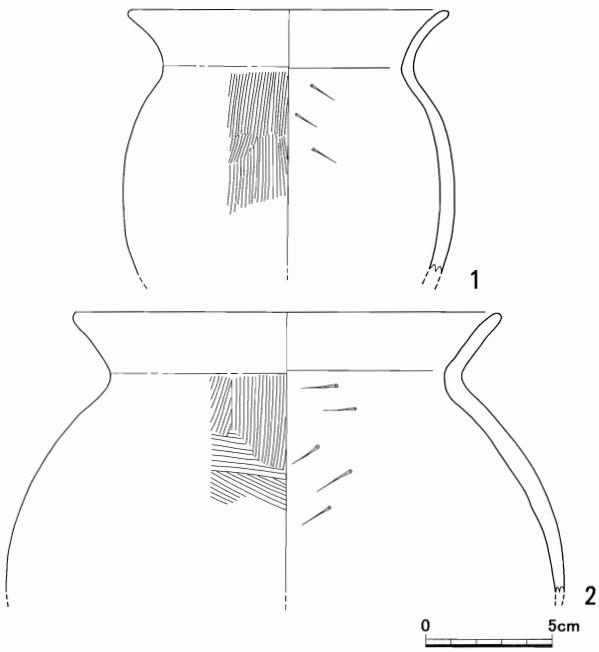
第13図　１区ＳＢ０３実測図　（Ｓ＝１／60）



第14図　１区ＳＢ０４実測図　（Ｓ＝１／60）



第15図　１区ＳＫ０１実測図（Ｓ＝１／40）



第16図　１区ＳＫ０１出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

第４表　１区ＳＫ０１出土遺物観察表

口径（ ）の数値は復元径

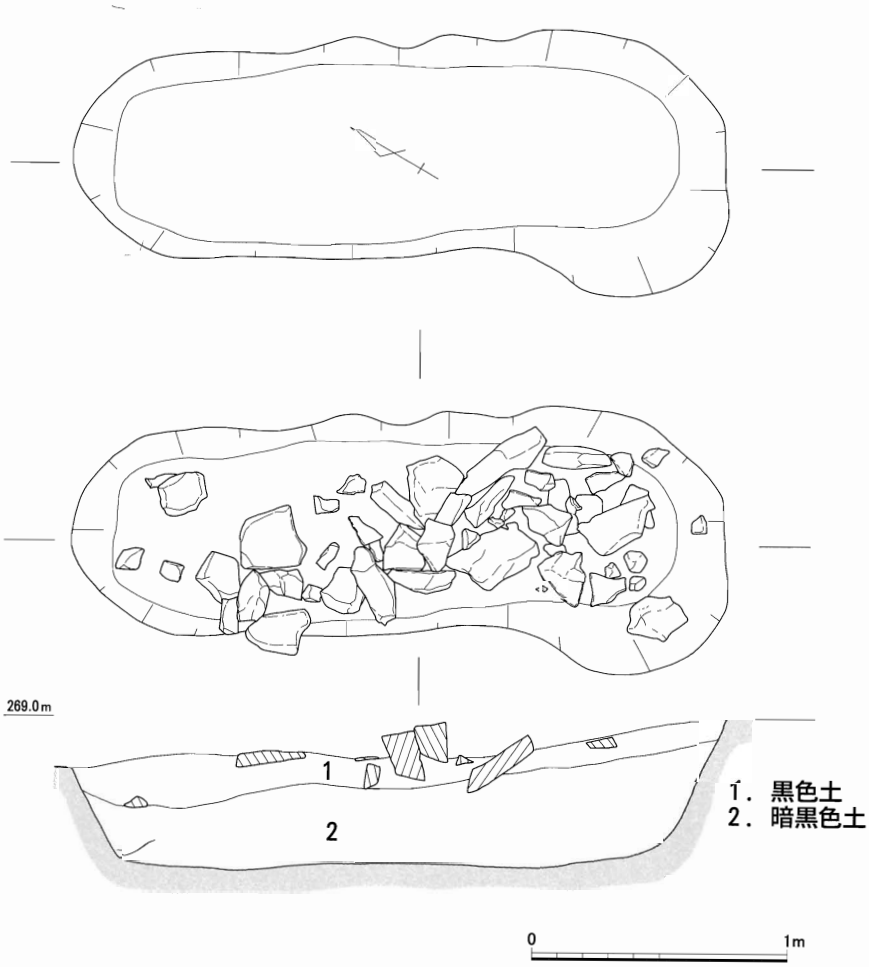
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
16-1	11	ＳＫ０１（覆土中）	甕（土師器）	口径:(12.2)	外面：ナデ、ハケメ 内面：ナデ、ヘラケズリ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	明黄褐色	表面が一部風化 残存率20%
16-2	11	ＳＫ０１（覆土中）	甕（土師器）	口径:(16.6)	外面：ナデ、ハケメ 内面：ナデ、ヘラケズリ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄褐色	残存率30%

ＳＫ０２（第17・18図、第５・６表）

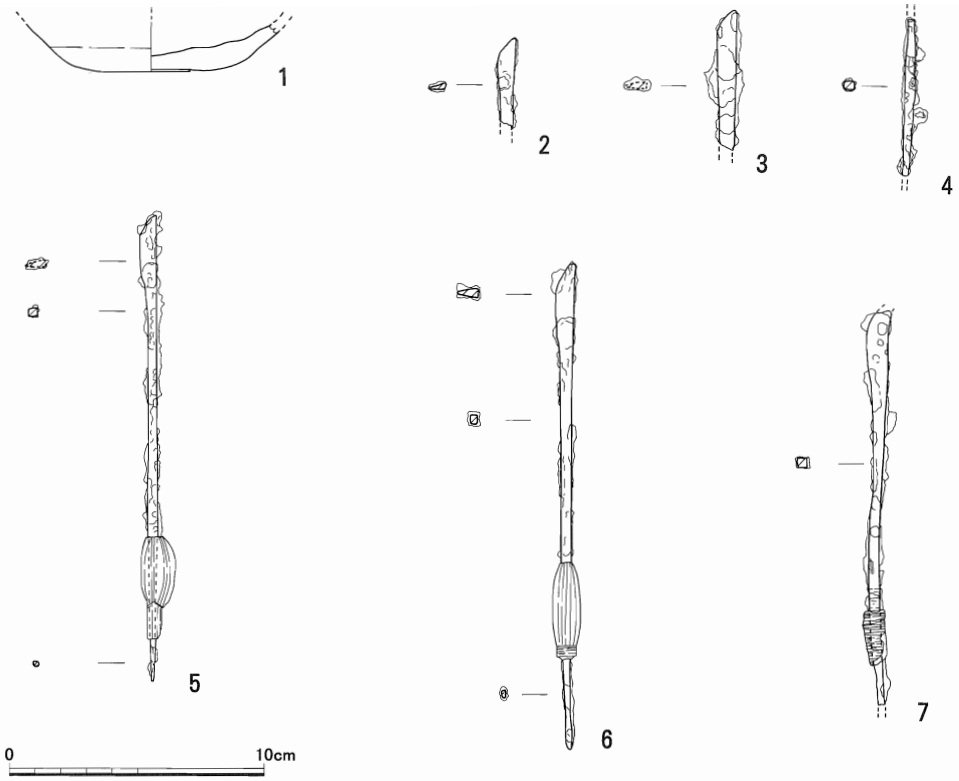
標高269.0ｍ地点に立地している。斜面に対してほぼ平行につくられており、規模は長軸が2.6ｍ、短軸80㎝～１ｍ、深さ約30㎝を測る。この土坑は、その上面に大きさが30㎝前後の石が散乱した状態で検出されており、原形は留めていないものの、土坑の上面を石で覆ったいわゆる石蓋土坑とよばれるものと考えられる。

土坑からは須恵器や土師器の破片のほか、底面付近で５点以上の鉄鏃が出土した。これらのうち実測が可能だったものについては、第18図に掲載した。１は須恵器坏と考えられるが別のものの可能性もある。２～７は鉄鏃である。すべて長茎の鏃で片刃箭式であると考えられるが、全体的に錆化しているために鏃身や関の形態など不明瞭な部分も多い。

時期については直接遺構に伴う土器が出土していないため明らかでないが、底面近くから出土した鉄鏃から古墳時代後期前半代のものである可能性を考えておきたい。(註２)



第17図　１区ＳＫ０２実測図　（Ｓ＝１／30）



第18図　１区ＳＫ０２出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）

第５表　ＳＫ０２出土遺物観察表　(1)

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
18-1		ＳＫ０２（覆土中）	坏？（須恵器）	底径：4.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ		１㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色	底部のみ残存

第６表　ＳＫ０２出土遺物観察表　(2)

（ ）の数値は現存長及び現存幅

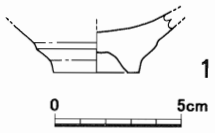
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	全長(cm)	刃部幅(cm)	備　　考
18-2		ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	(3.5)	0.8	長茎鏃、刃部の一部のみ残存
18-3		ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	(5.6)	0.8	長茎鏃、刃部の一部のみ残存
18-4		ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	(6.5)	0.4	長茎鏃、茎部の一部のみ残存
18-5	11	ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	18.6	0.8	長茎鏃
18-6	11	ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	19.3	0.8	長茎鏃
18-7	11	ＳＫ０２（床面近く）	鉄　鏃	(15.7)	0.9	長茎鏃

ＳＫ０３（第20図）

１区第２調査区の中央より北側に、周辺の遺構とやや離れて存在している。平面形は円形を呈し、規模は径1.4ｍを測るが掘りこみは浅い。土坑は一部に粘土が貼られ、その周囲を10～20㎝ほどの大きさの石が不規則に囲んでいた。炉の可能性も考えたが、粘土は熱を受けている様子もないことから別の性格のものと想定される。

ＳＫ０４（第19・20図、第７表）

１区第２調査区の南側、標高272ｍの所に位置している。平面形は円形で、径1.1ｍ、深さ0.6ｍを測る。土坑内からは肥前系と考えられる陶器碗が出土している。



第19図　１区ＳＫ０４出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

この土坑の性格については明らかでないが、近世の墓である可能性も考えられる。

ＳＫ０５（第20図）

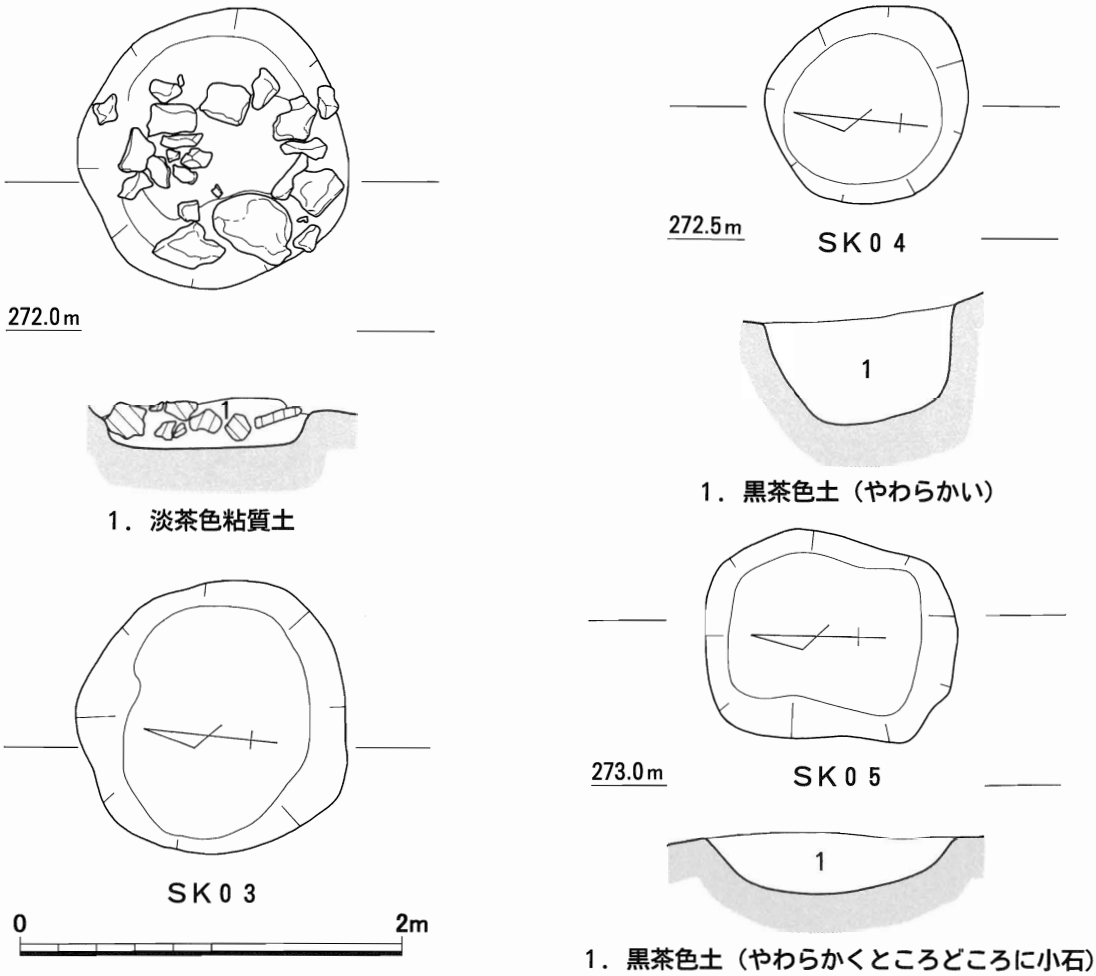
１区第２調査区の南側、ＳＫ０４の東隣に位置している。平面形は方形と考えられ、長軸1.3ｍ、短軸1.1ｍ、深さ30㎝を測る。遺物等は出土していない。

この土坑の性格については明らかでないが、ＳＫ０４と同じく近世の墓である可能性も考えられる。

第７表　ＳＫ０４出土遺物観察表

口径（ ）の数値は復元径

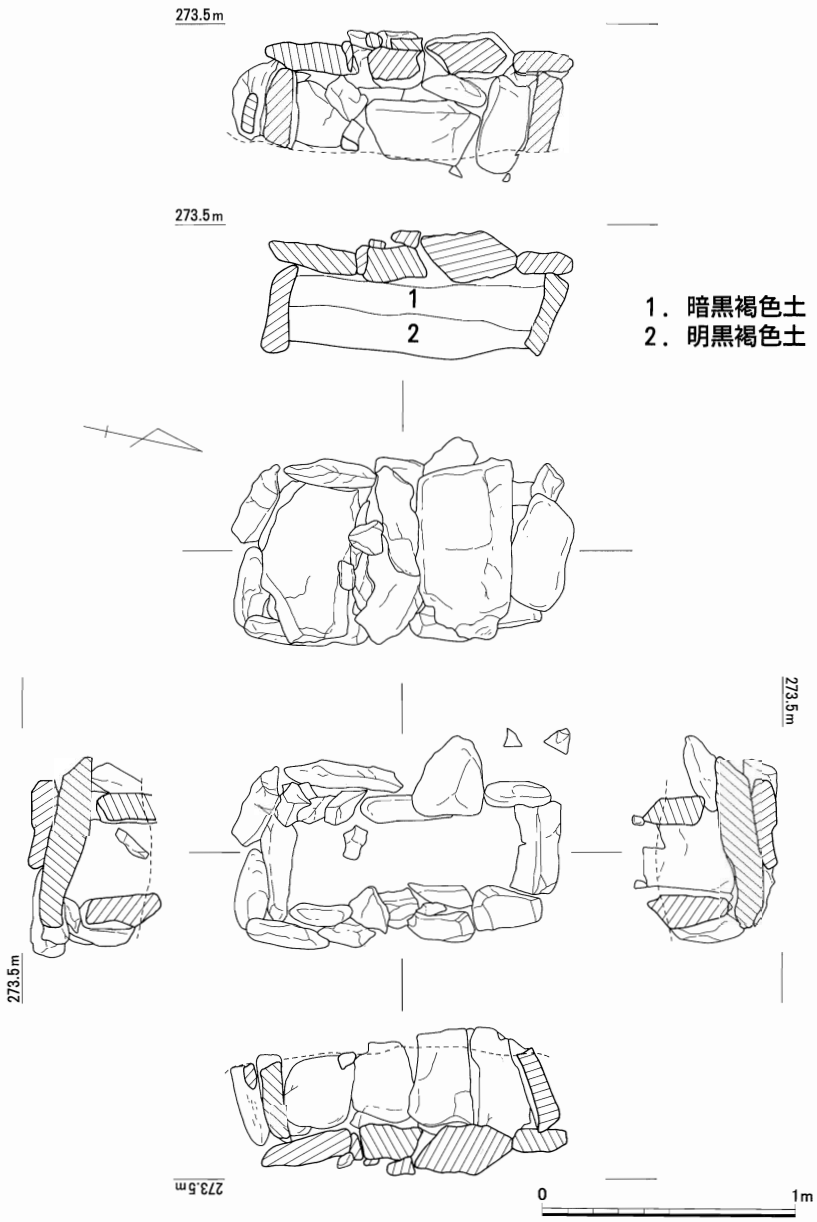
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	器　種	法量(㎝)			特徴および文様・施釉	推定生産地	残存量
					口径	底径	器高			
19-1	11	ＳＫ０４（覆土中）	陶器	碗		(3.5)		削り出し高台 内面に施釉	肥前	底部の半分が残存



第20図　１区ＳＫ０３～０５実測図　（Ｓ＝１／40）

箱式石棺（第21図）

調査区の最も北側、標高268.5ｍの地点に立地している。石棺は割石を用いて造られた箱式石棺で、規模が内法で測って長さ1.0ｍ、幅0.3ｍ、床面からの高さは0.25ｍ前後と小型である。これに伴う墳丘や溝などは確認できなかった。石棺の蓋石は基本的に４枚の石で構成され、一部蓋石と蓋石との間隙を塞ぐように小さな石が配されていた。また棺身は10個以上の石で構成されており、東側は４石、西側は３石立て並べられている。側石の一部は二重に石が置かれているところも見られた。粘土等による目張りなどは認められず、調査時点で棺内には既に土砂が流入していた。遺物などは一切出土しておらず、したがって時期などは明らかでないが、古墳時代のものである可能性がある。



第21図　１区箱式石棺実測図　（Ｓ＝１／30）

遺構に伴わない遺物（第22～29図、第８～15表）

１区では包含層中から多くの遺物が検出されている。中でも土師器片が多く出土しており、ＳＢ０１、ＳＢ０３付近では集中的に出土した。先に報告したとおり、出土した土師器のうちいくつかはこれらの遺構に直接伴うものと考えられるが、厳密に区分する事ができなかったので、ここで合わせて報告することとする。

第22図には縄文土器(註３)を掲載した。１は口縁部内面に２段の刺突列を有するもので、端部にもキザミが施される。２～６はキザミのある突帯文を有する土器、７～10は粗製の深鉢と考えられる。

縄文土器は出土量が少なく、また時期も後期～晩期と考えられるものがほとんどを占めるようである。

第23図には弥生土器(註４)のうち内面・外面とも無文の土器を掲載した。１～５のように口縁部の屈曲が弱いものと、６～８のように比較的強いものとがある。調整はヘラミガキやナデによるものがほとんどである。

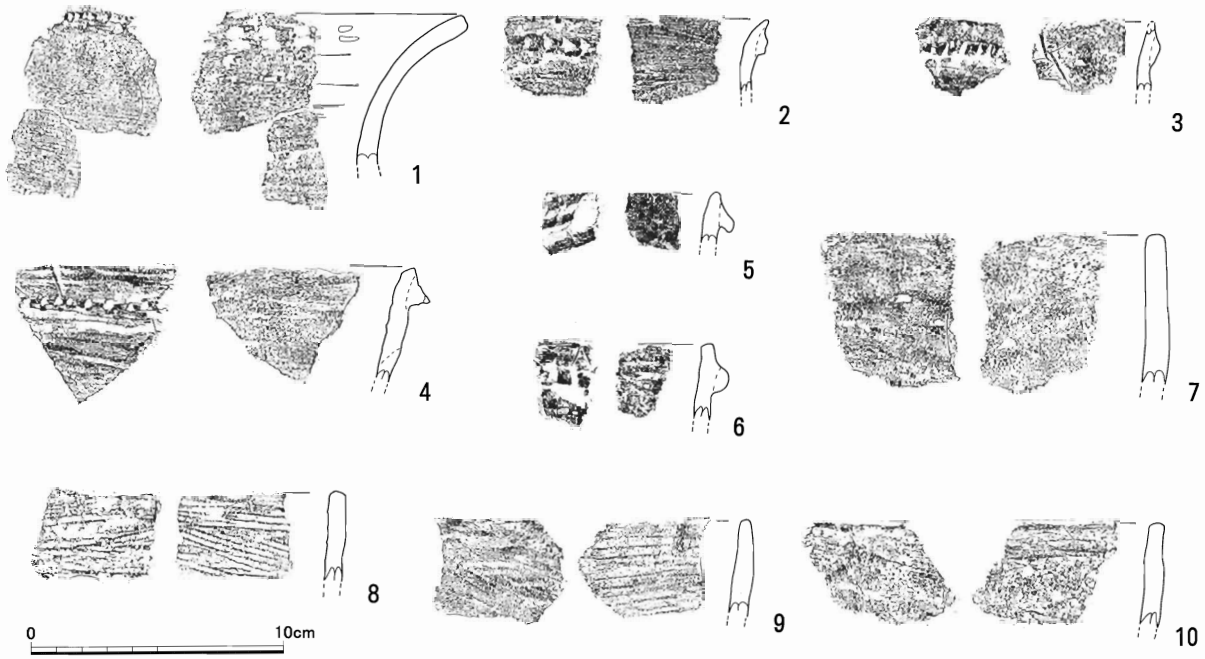
第24図も弥生土器である。１は壺の肩～胴部にかけての破片と考えられるもので、直線文・斜格子文が描かれている。２～５は壺の口縁部～頸部の破片と考えられるものである。２は口縁部に平坦面を有するもので、そこに斜格子文や円形浮文が、端部にはキザミが施されている。また口縁部～頸部にかけても外面にキザミのある断面三角突帯や斜格子文が施され装飾度が強い。３もほぼ同様の形態の壺の口縁部で、平坦面には斜格子文、外面には波状文が描かれている。４・５は壺の頸部で、４にはキザミのある断面三角突帯や棒状浮文が、５にはキザミのない断面三角突帯が施される。６は高坏である。口縁部は平坦面を有し内面・外面ともヘラミガキされている。７～15は壺・甕類である。７・８は器壁が全体的に薄く、口縁部の強く屈曲する形態のものである。９～13は口縁端部が拡張され、そこに数条の凹線文が施されるもので、内面は頸部屈曲部までヘラケズリがなされる。14は壺と考えられるもので、口縁端部は丸く、無文である。15は甕と考えられるもので、口縁部は無文で端部は尖り気味である。

これらの土器の時期は、第24図の１～８が中期中葉頃、９～13が後期前葉頃、14・15が後期後葉のものと考えられる。第23図に掲載した土器については時期がはっきりとしないが、中期後半代以前と考えておきたい。

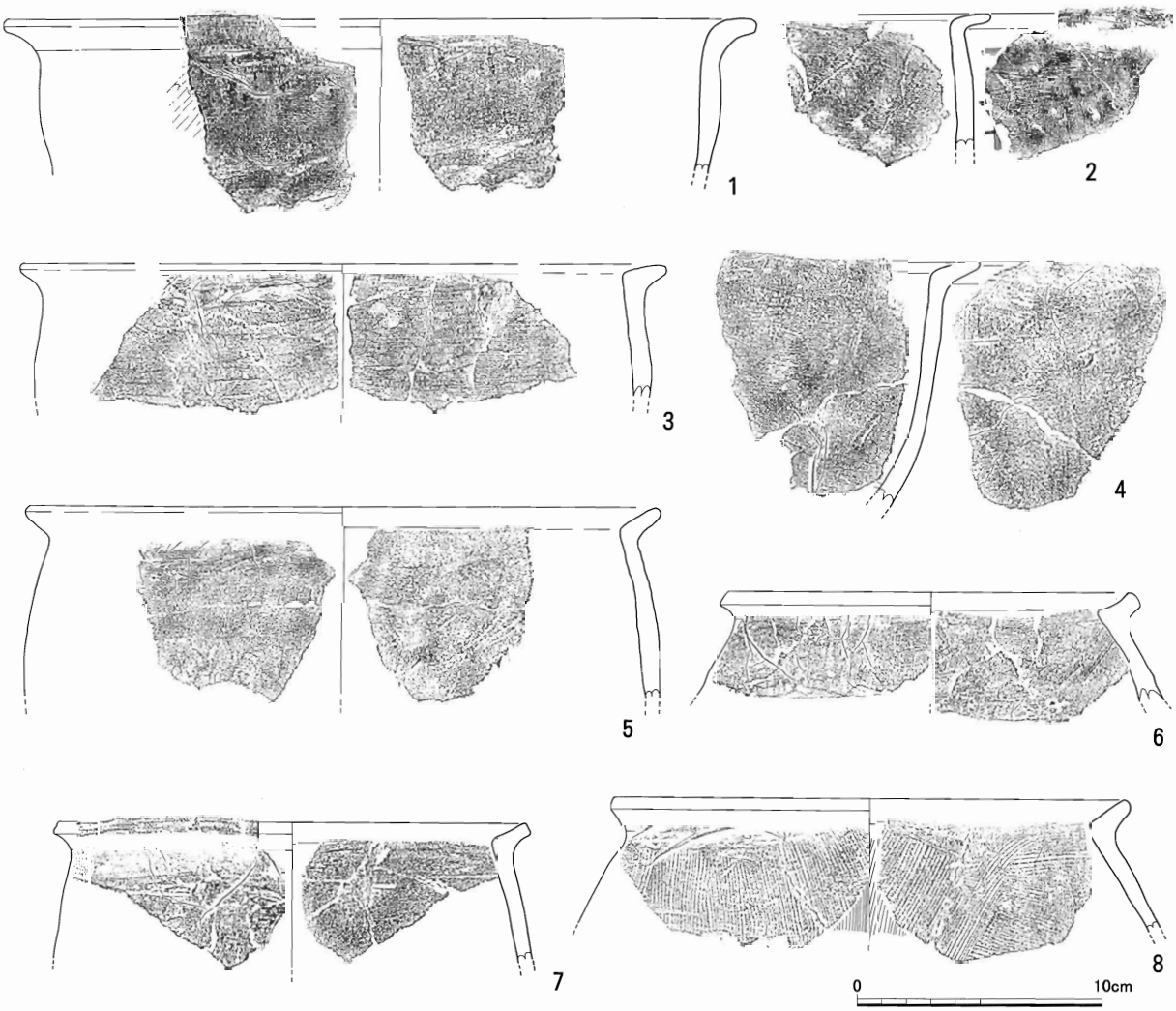
第25図・26図は土師器・須恵器類を掲載した。第25図は土師器甕である。全体の形がわかるものはないが、胴部が張るものやその反対で胴部が張らないもの、長めの胴部になると考えられるものなどが見られる。第26図１は破片のため推測の域をでないが、須恵器蓋と考えられるものである。外面はヘラケズリが認められることから、他の須恵器よりも時期がさかのぼるものと考えられる。２も須恵器蓋である。口縁部の内側にはかえりがつく。３～６は須恵器坏である。いずれも高台のつくもので、３・４は体部が丸みをもち、６は直線的に立ち上がる。８は土師器坏である。内面・外面とも丁寧にヘラミガキがされ、また内面には暗文が見られる。９・10は土師器の高坏と考えられるものである。10は内面・外面とも赤色塗彩されている。11～13は甑の把手部分と考えられ、様々な形態のものがみられる。14・15は甑である。14は把手がつき脚部には円形の孔が穿たれている。

第27図は弥生土器壺・甕類の底部、第28図は石器を掲載した。第28図１は黒曜石製の石鏃である。

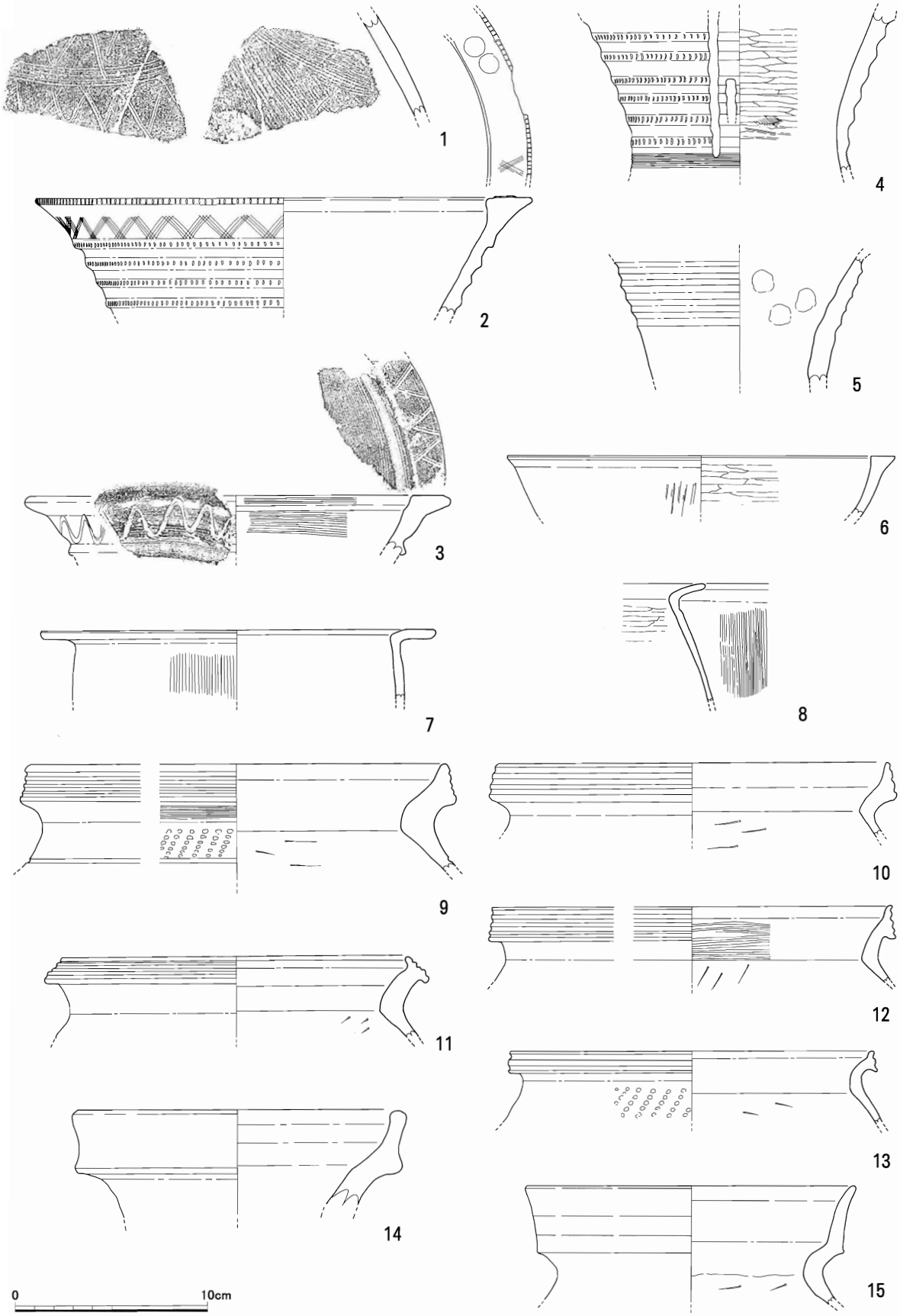
第29図は陶磁器類(註５)を掲載した。１は備前の鉢で、15世紀代のものと推測される。また２は青磁で剣先の鎬連弁文が認められる。３～５はいずれも肥前系の碗や皿と考えられるものである。掲載遺物以外でも肥前系と考えられるものが多く出土した。



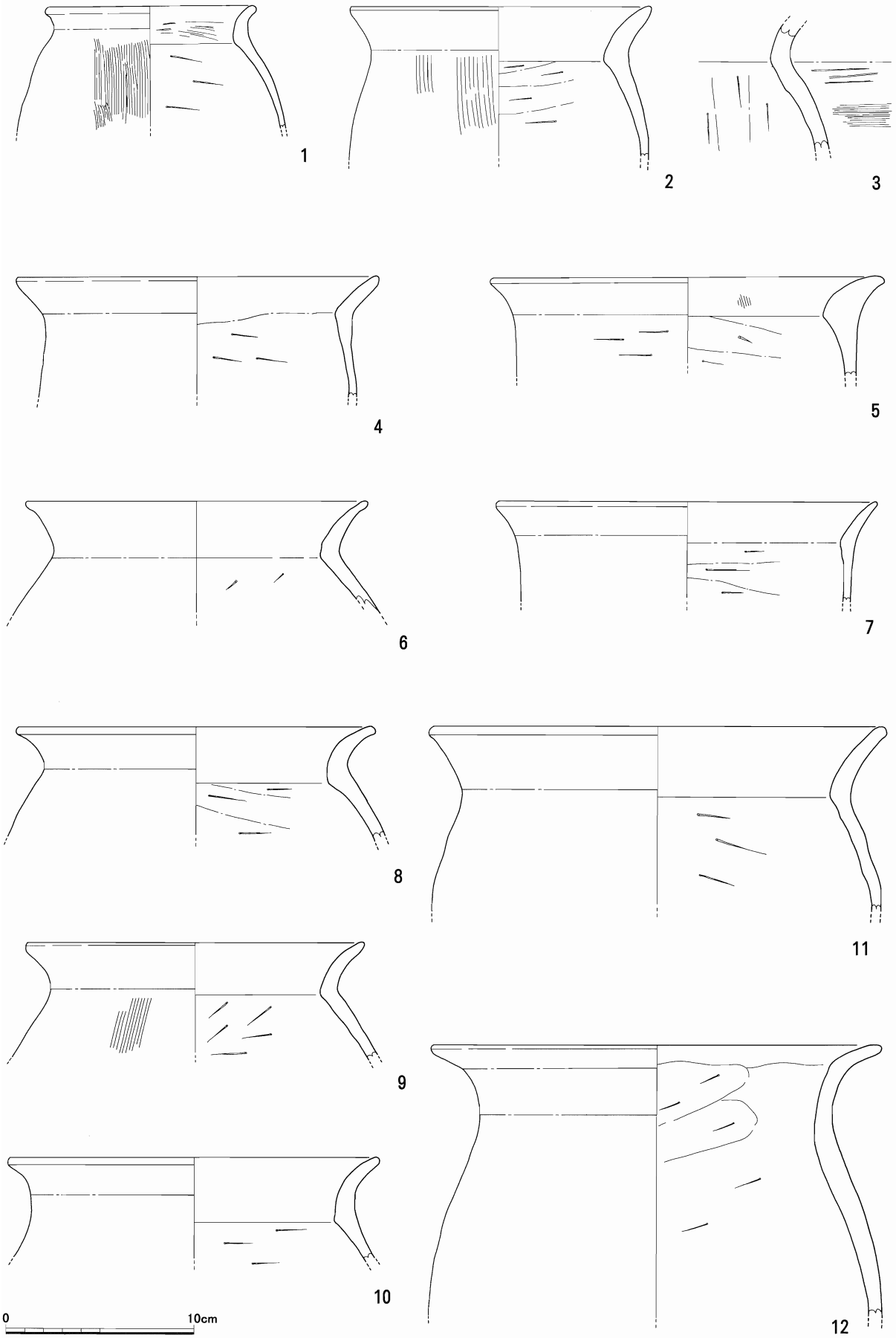
第22図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(1) 縄文土器　（Ｓ＝１／３）



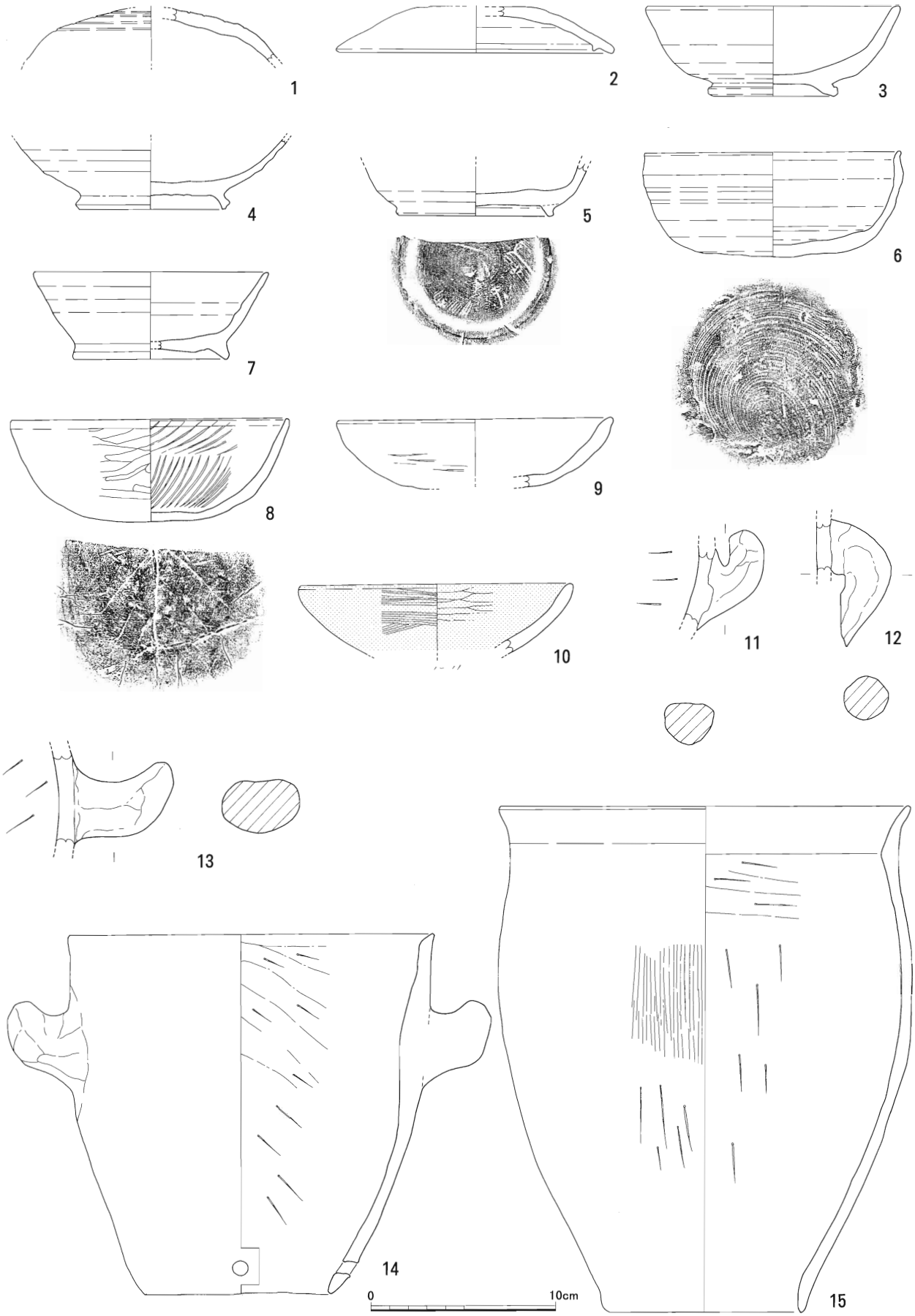
第23図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(2) 弥生土器　（Ｓ＝１／３）



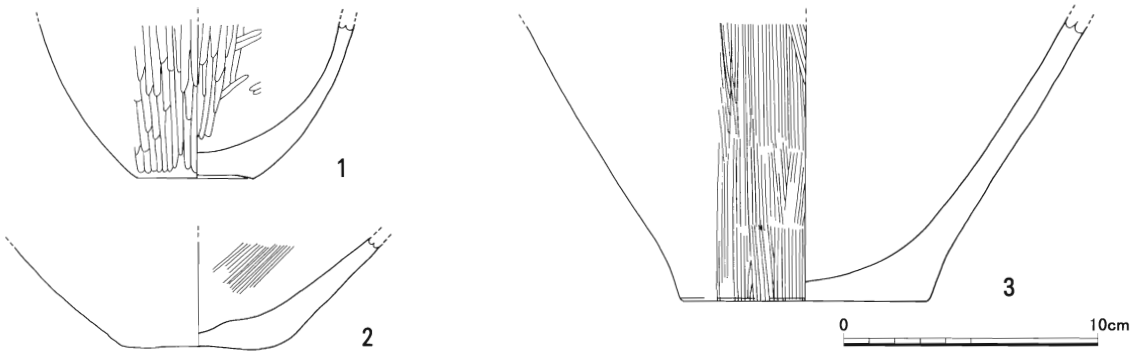
第24図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(3) 弥生土器　（Ｓ＝１／３）



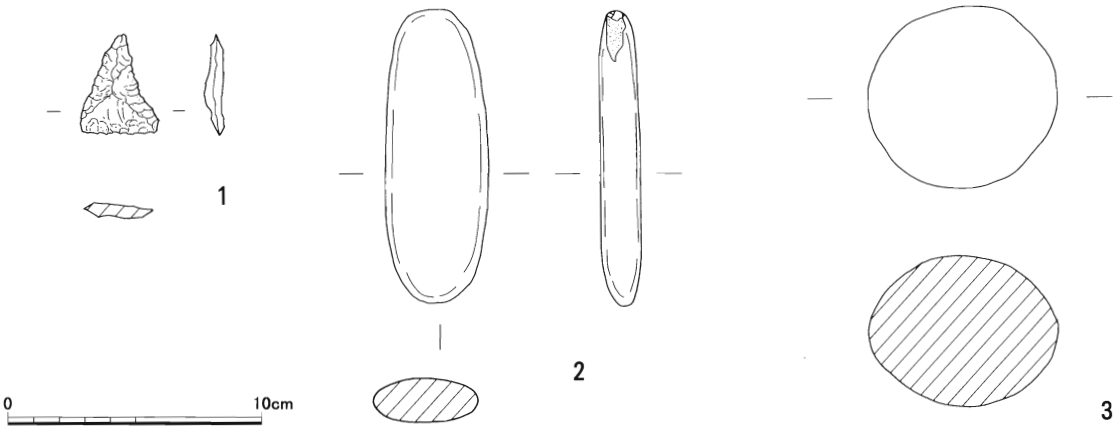
第25図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(4) 土師器　（S＝１／３）



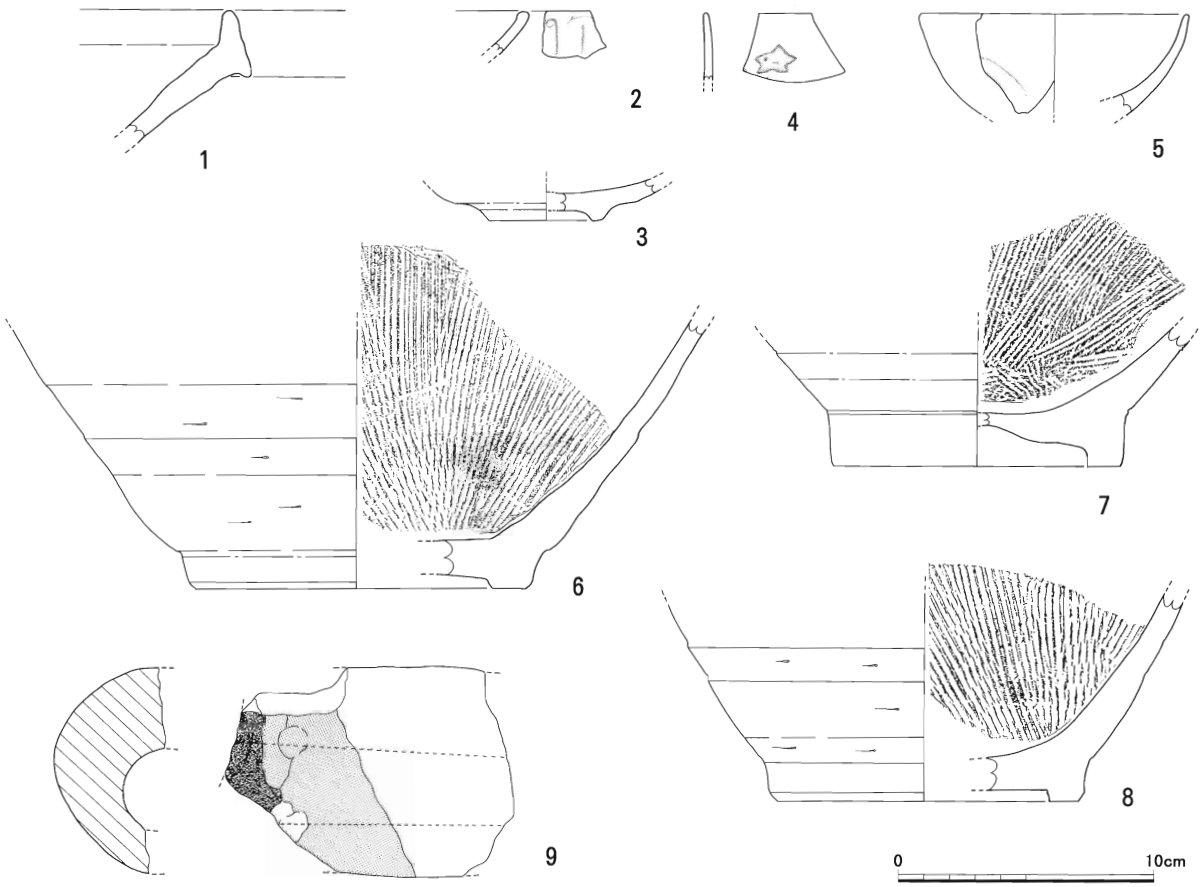
第26図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(5) 須恵器・土師器・その他　（S＝１／３）



第27図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(6) 弥生土器　（Ｓ＝１／３）



第28図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(7) 石器　（Ｓ＝１／３）



第29図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図(8) 陶磁器類・その他　（Ｓ＝１／３）

第８表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表（１）（第22図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
22-1	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ、ミガキ 内面:ナデ、ケズリ	口縁内部に刺突文 口縁端部にキザミ	１～２㎜程度の砂粒を多く含む	良	茶　色	口縁部の一部のみ残存
22-2	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	黒茶色	口縁部の一部のみ残存
22-3	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	１～３㎜程度の砂粒を含む	良	外側:黒褐色 内側:茶褐色	口縁部の一部のみ残存
22-4	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ、(条痕？) 内面:ナデ	キザミのある突帯	１㎜程度の砂粒を含む	良	黒褐色	口縁部の一部のみ残存
22-5	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	茶褐色	口縁部の一部のみ残存
22-6	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	口縁部の一部のみ残存
22-7	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	口縁部の一部のみ残存
22-8	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:条痕？ 内面:条痕？		１～２㎜程度の砂粒を含む	良	外側:黒褐色 内側:淡茶褐色	口縁部の一部のみ残存
22-9	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:条痕 内面:ナデ		１㎜程度の砂粒を含む	良	外側:黒褐色 内側:淡茶褐色	口縁部の一部のみ残存
22-10	12	１区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:ナデ 内面:ナデ		１～３㎜程度の砂粒を含む	良	茶褐色	口縁部の一部のみ残存

第９表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表（２）（第23図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
23-1		１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(30.8)	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ヘラミガキ、ナデ 指頭圧痕	口縁部が外方に緩やかに屈折	１～２㎜程度の砂粒を多く含む	良	褐　色	口縁部の一部のみ残存
23-2	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１～２㎜程度の砂粒を多く含む	良	淡黒茶色	
23-3	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(25.8)	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	幅の広いヘラミガキ、口縁部が外方に強く屈折	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	褐　色	
23-4	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラミガキ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒を含む	良	茶　色	
23-5	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(25.2)	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	淡褐色	
23-6	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(16.2)	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ	口縁部が外方に強く屈折	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	茶褐色	
23-7		１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(19.0)	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	口縁部が外方に強く屈折、口縁端部に平坦面を有する	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	茶褐色	
23-8	12	１区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(20.6)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ハケメ	口縁部が外方に強く屈折	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	茶褐色	

第10表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表（３）（第24図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
24-1		１区 (包含層)	壺？ (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ハケメ	直線文(へら描き?) 斜格子文	１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	
24-2	13	１区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(25.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯 斜格子文、円形浮文 口縁部は上面が平坦面となり、端部にキザミを有する	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	暗褐色	
24-3	13	１区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(22.0)	外面:ハケメ、ナデ 内面:ハケメ	ヘラ描き波状文 斜格子文	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	暗褐色	
24-4	13	１区 (包含層)	壺 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ミガキ	キザミのある突帯 櫛描直線文？棒状浮文	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	黄褐色	
24-5	13	１区 (包含層)	壺 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのない三角突帯	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	灰白色	
24-6	13	１区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	口径:(20.0)	外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	口縁部は上面が平坦面となる	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	黒褐色	

24-7	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(20.4)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折 器壁が薄い	1㎜程度の砂粒 をわずかに含む	良	黄褐色	
24-8	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ハケメ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折 器壁が薄い	1㎜程度の砂粒 をわずかに含む	良	黄褐色	
24-9	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(21.4)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	口縁部に凹線文(4条) 列点文、肩部に沈線?	1㎜程度の砂粒 を多く含む	良	淡黄色	
24-10	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	口縁部に凹線文 (3条)	1㎜程度の砂粒 を含む	良	淡黄褐色	
24-11	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(17.8)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	口縁部に凹線文 (4条?)	1～4㎜程度の 砂粒を含む	良	灰白色	
24-12		1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(20.5)	外面:ナデ 内面:ナデ、ハケメ ヘラケズリ	口縁部に凹線文 (4条)	1㎜程度の砂粒 を多く含む	良	灰白色	
24-13	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(18.6)	外面:ナデ、ヘラケズリ 内面:ナデ	口縁部に凹線文状 の窪み 列点文	1㎜程度の砂粒 を含む	良	淡黄色	
24-14	13	1区 (包含層)	壷 (弥生土器)	口径:(17.2)	外面:ナデ 内面:ナデ		1～3㎜程度の 砂粒を含む	良	褐　色	
24-15	13	1区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(17.0)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	口縁端部断面は薄 め	1～2㎜程度の 白色の砂粒を含 む	良	外部:黄褐色 内部:褐　色	

第11表　1区遺構に伴わない出土遺物観察表(4)(第25図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
25-1	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(11.0)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ		1～2㎜程度の 砂粒を含む	良	明褐色	口縁部の一部の み残存
25-2	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(15.6)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～3㎜程度の 砂粒を含む	良	赤褐色	口縁部の一部の み残存
25-3		1区 (包含層)	甕 (土師器)		外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒 を含む	良	灰白色	口縁部の一部の み残存
25-4	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(19.0)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	胴部があまり張ら ない形か?	1～2㎜程度の 砂粒を含む	良	黄褐色	残存率20%
25-5		1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(20.8)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～3㎜程度の 砂粒を含む	良	褐　色	口縁部の一部の み残存
25-6	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(18.2)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～4㎜程度の 砂粒を含む	良	黄褐色	口縁部の一部の み残存
25-7	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(20.2)	外面:ナデ 内面:ナデ、ケズリ	胴部があまり張ら ない	1㎜程度の砂粒 を含む	良	淡黄色	口縁部の一部の み残存
25-8		1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(18.7)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～2㎜程度の 砂粒を含む	良	黄褐色	口縁部の一部の み残存
25-9	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(19.3)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒 を含む	良	黄褐色	残存率20%
25-10	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(17.8)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒 を含む	良	黄褐色	口縁部の一部の み残存
25-11	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(23.6)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～3㎜程度の 砂粒を含む	良	淡黄色	残存率30%
25-12	13	1区 (包含層)	甕 (土師器)	口径:(25.0)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	やや長めの胴部	1～2㎜程度の 砂粒を含む	良	黒褐色～褐色	残存率40%

第12表　1区遺構に伴わない出土遺物観察表(5)(第26図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
26-1	14	1区 (包含層)	坏蓋? (須恵器)		外面:回転ナデ、 回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ		1㎜程度の砂粒 をわずかに含む	良	青灰色	
26-2	14	1区 (包含層)	蓋 (須恵器)	口径:(15.0) 器高:(2.5)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ		1㎜弱の砂粒を 含む	良	青灰色	
26-3		1区 (包含層)	坏(高台付) (須恵器)	口径:(13.8) 器高:　4.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ		2㎜大の砂粒を 含む	良	青灰色	
26-4	14	1区 (包含層)	坏(高台付) (須恵器)	底径:　7.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、ナデ		1㎜程度の砂粒 を含む	良	青灰色	器壁が薄い
26-5	14	1区 (包含層)	坏(高台付) (須恵器)	底径:　8.2	外面:回転ナデ、ナデ、 回転糸切り 内面:回転ナデ		1㎜大の砂粒を 含む	普通	灰白色	

26-6	14	1区 (包含層)	坏 (須恵器)	口径:(13.8) 器高: 5.7	外面:回転ナデ、ナデ、 回転糸切り 内面:回転ナデ、ナデ	体部が緩やかに屈曲	2㎜大の砂粒を含む	良	灰　色	
26-7		1区 (包含層)	坏(高台付) (須恵器)	口径:(12.6) 器高: 4.8 底径:(8.3)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	体部が直線的に開く	1㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色	
26-8	14	1区 (包含層)	坏 (土師器)	口径: 14.9 器高: 5.6	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ		1㎜大の砂粒を含む	良	橙　色	暗文が認められる
26-9	14	1区 (包含層)	高坏? (土師器)	口径:(14.5)	外面:ナデ 内面:ナデ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	高坏の坏部か?
26-10	14	1区 (包含層)	高坏? (土師器)	口径:(14.6)	外面:ハケメ 内面:ヘラミガキ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	赤褐色	内外面とも赤色顔料塗彩
26-11	14	1区 (包含層)	(把手) (土師器)		外面 :ナデ (内面):ヘラケズリ		1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黒褐色	甑の把手か?
26-12	14	1区 (包含層)	(把手) (土師器)		外面:ナデ		1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	甑の把手か?
26-13	14	1区 (包含層)	(把手) (土師器)		外面 :ナデ (内面):ヘラケズリ		1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	甑の把手か?
26-14	14	1区 (包含層)	甑 (土師器)	口径:(19.6) 器高: 19.5 底径:(10.1)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	把手がある 脚部には円孔	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	
26-15	14	1区 (包含層)	甑 (土師器)	口径:(20.0) 器高: 27.4 底径:(10.4)	外面:ナデ、ハケメ、 一部ヘラケズリ 内面:ナデ、ヘラケズリ	把手・円孔は、認められない	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	橙　色	

第13表　1区遺構に伴わない出土遺物観察表(6)(第27図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
27-1		1区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径: 4.6	外面:ナデ、ミガキ 内面:ミガキ		1～2㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	黄褐色	
27-2		1区 (包含層)	壺? (弥生土器)	底径: 6.0	外面:ナデ 内面:ナデ		1～2㎜程度の砂粒を含む	普通	黄褐色	
27-3	15	1区 (包含層)	壺? (弥生土器)	底径: 9.5	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ、一部ハケメ		1～2㎜程度の砂粒を多く含む	良	黄褐色	胎土中に石英を多く含む

第14表　1区遺構に伴わない出土遺物観察表(7)(第28図)

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)	備　考
28-1	15	1区 (包含層)	石　鏃	2.0	1.5		平基式の石鏃、材質は黒曜石である
28-2	15	1区 (包含層)		11.9	4.1		
28-3	15	1区 (包含層)	磨　石	7.7	7.5		

第15表　1区遺構に伴わない出土遺物観察表(8)(第29図)

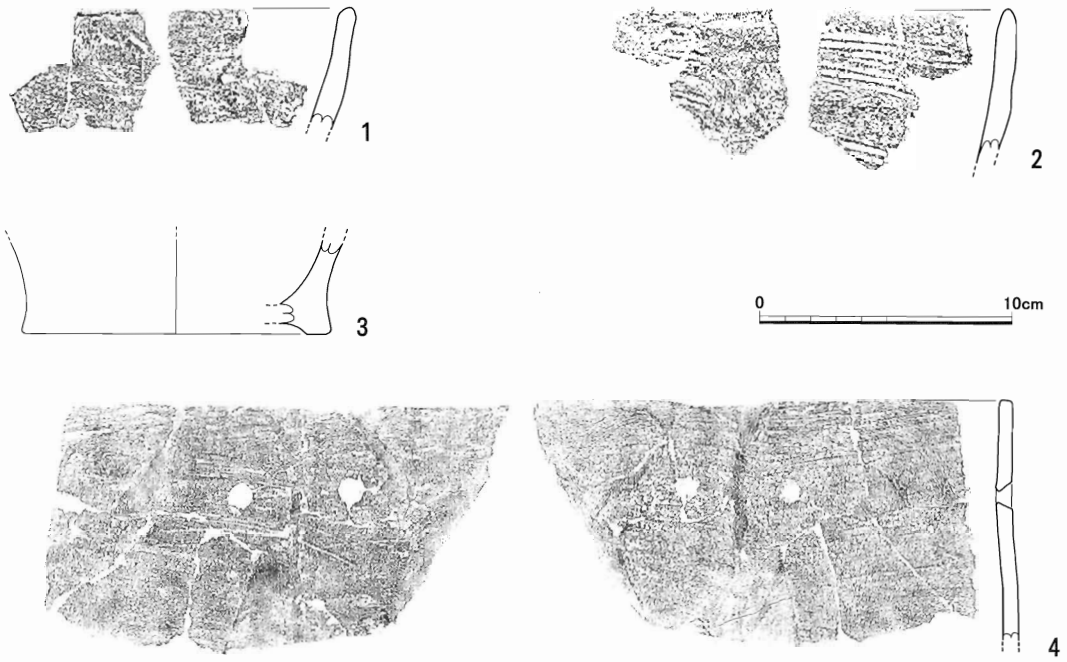
口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	器　種	法　量(cm)			特徴および文様・施釉	推定生産地	残　存　量
					口径	底径	器高			
29-1	15	1区 (包含層)	炻器	鉢?					備　前	口縁部の一部のみ残存
29-2	15	1区 (包含層)	磁器	碗				青磁、剣先の鎬蓮弁文	中　国 (龍泉窯系?)	口縁部の一部のみ残存
29-3	15	1区 (包含層)	陶器	皿		(4.5)		見込みに胎土目痕	肥　前	底部の一部が残存
29-4		1区 (包含層)	磁器	碗					肥　前	口縁部の一部のみ残存
29-5		1区 (包含層)	磁器	碗	(10.6)				肥前?	
29-6		1区 (包含層)	陶器	鉢		13.0			在地系	
29-7		1区 (包含層)	陶器	鉢		11.4		外面は施釉	在地系	
29-8		1区 (包含層)	陶器	鉢		(12.0)			在地系	
29-9		1区 (包含層)		羽口						

第３節　１区の調査 (2) －第２黒色土・第２ハイカ上面－

神原Ⅱ遺跡においては、第２黒色土層が2.5ｍにも及ぶ厚いハイカ層の下にわずかに存在していることが確認された。これまでの調査においても、この層に縄文時代の遺構や遺物が包含されていることが分かっており、掘り下げて調査をおこなった。ただし調査期間の関係上、平成９（1997）年度は１区部分のみ行い、２・３区の部分については平成10（1998）年度に行っている。(註６)

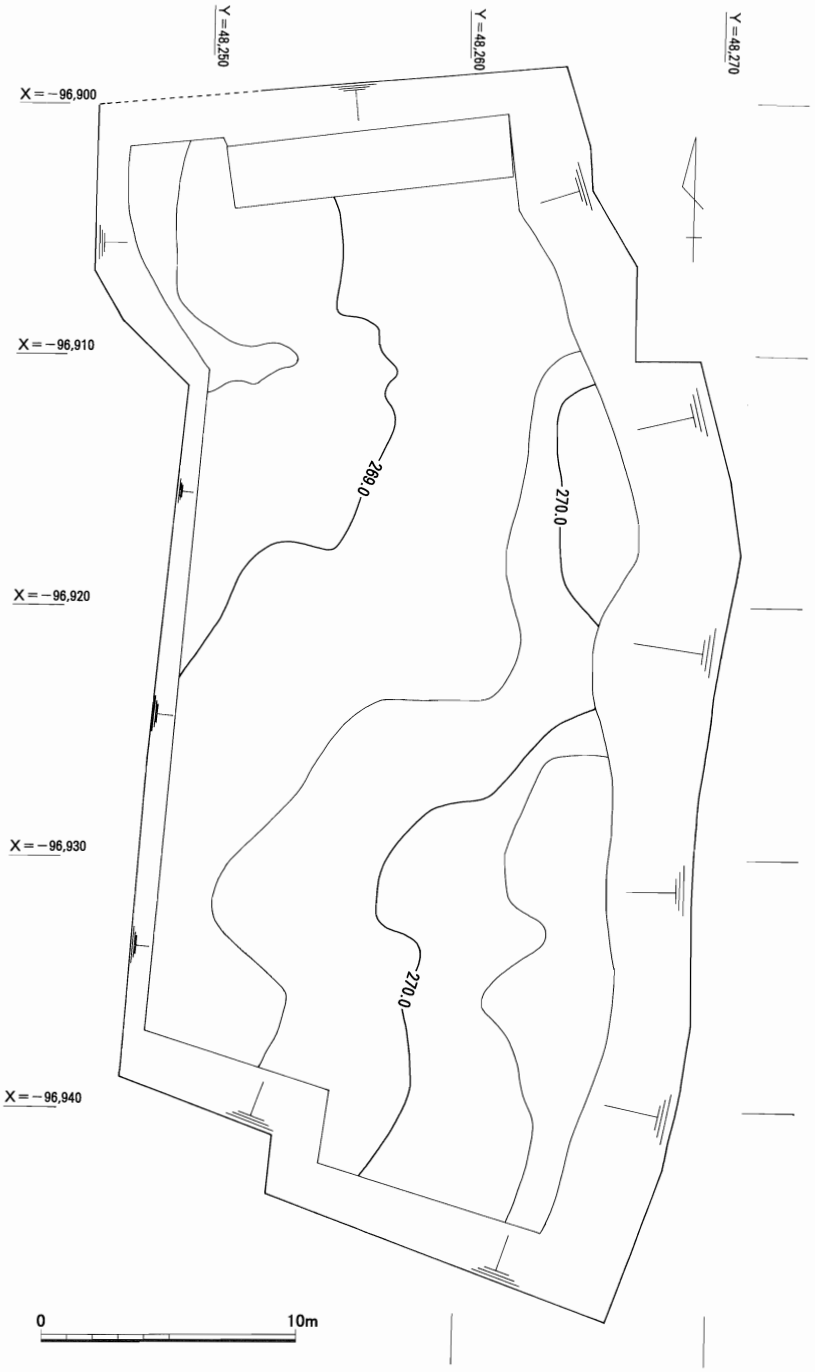
調査の結果、本調査区における第２黒色土層からは顕著な遺構・遺物とも確認されず、第30図に掲載した縄文土器片などがわずかに確認されたのみである。出土した遺物は４を除き小片で、いずれも粗製の深鉢と考えられる。４は口縁端部に面を有するもので、口縁部よりやや下がったところに円形の穿孔がみられる。



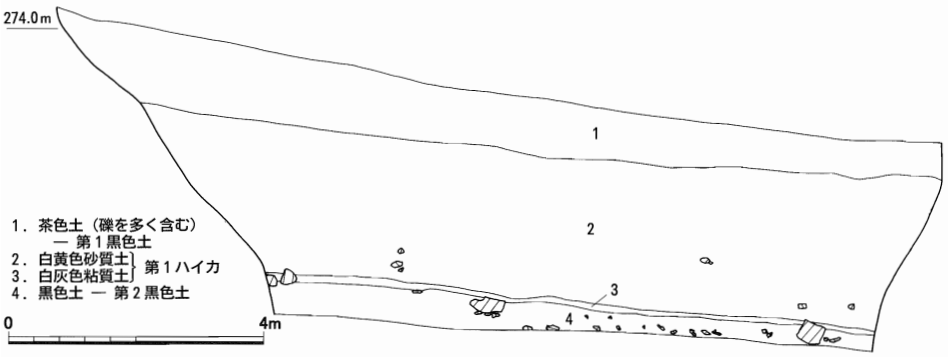
第30図　１区遺構に伴わない出土遺物実測図（第２黒色土）（Ｓ＝１／３，４はＳ＝１／４）

第16表　１区遺構に伴わない出土遺物観察表 (9)（第30図）　口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備　考
30-1	15	１区（第２黒色土）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ 内面:ケズリ		１㎜大の砂粒を含む	良	外側:黒褐色 内側:淡褐色	口縁部の一部のみが残存
30-2	15	１区（第２黒色土）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ、条痕 内面:ナデ、条痕		1.5㎜大の砂粒を含む	良	淡褐色	口縁部の一部のみが残存
30-3	15	１区（第２黒色土）	深鉢（縄文土器）	底径:12.2	外面:ナデ？ 内面:ナデ？		1.5㎜大の砂粒を含む	良	外側:灰色 内側:灰白色	底部の一部のみ残存
30-4	15	１区（第２黒色土）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ、条痕？ 内面:ナデ	円孔が穿たれる、口縁端部は面を有する	１㎜程度の砂粒を含む	良	灰黄色	残存率20%



第31図　1区第2ハイカ上面地形測量図　（S＝1／300）



第32図　1区土層図　（S＝1／120）

第４節　２区の調査

２区は１区の南側、標高272～275ｍにかけてに位置する調査区で、調査以前はは水田であったところである。基本層序は水田耕作土、水田造成時の盛土、黒色土、ハイカ層となっている。

調査の結果、建物跡や土坑など遺構のほか多くの弥生土器をはじめとする遺物を確認した。中心となる時期は出土遺物から弥生時代と奈良～平安時代にかけての２つの時期であると考えられる。なお、本調査区北側では調査前より多量の鉄滓が散乱しており製鉄関連遺構の存在が想定されていたが、今回調査した範囲においては確認されなかった。

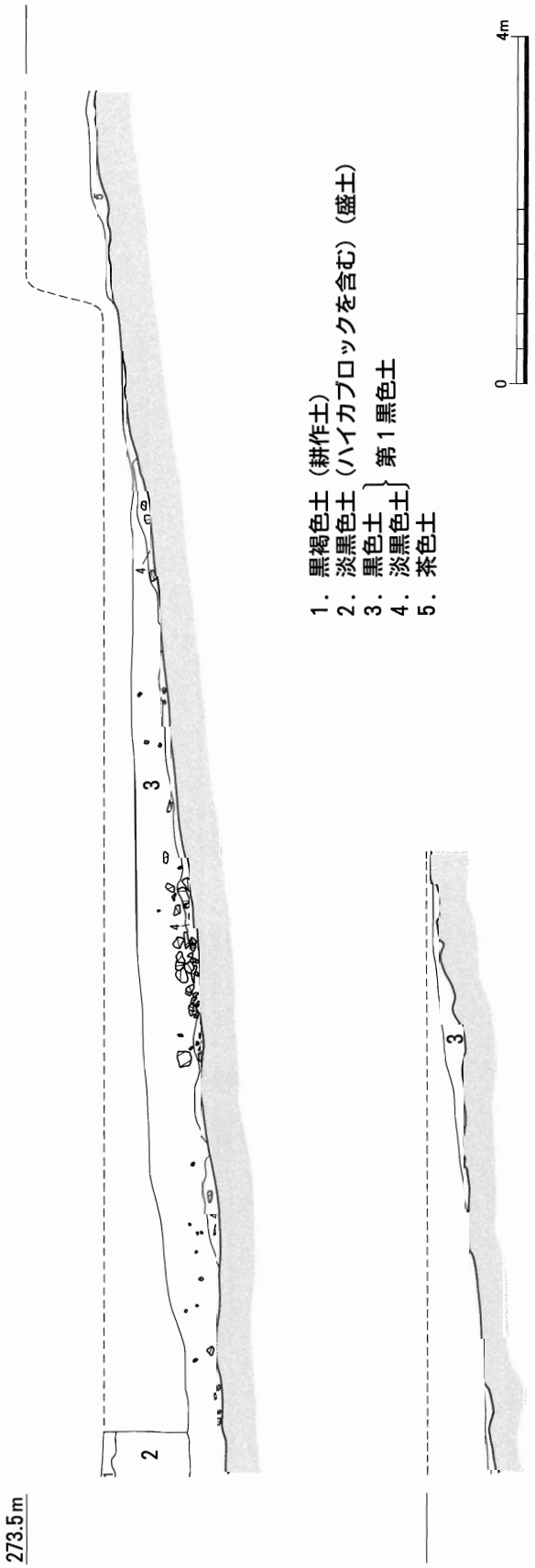
また、ハイカ層以下の調査については時間の関係上平成９（1997）年度には行わなかったが、翌年度にトレンチにより遺構・遺物の有無についての確認がなされ、一部調査がされている。それについては既に報告されているため、ここでは省略する。(註７)

以下、各遺構・遺物について報告することとする。ただし、いずれのものも残存状況が良くなく、また時期の判断が可能な遺物が少ないなど、時期の推測が難しいものもあるため、基本的に調査順に報告することとする。

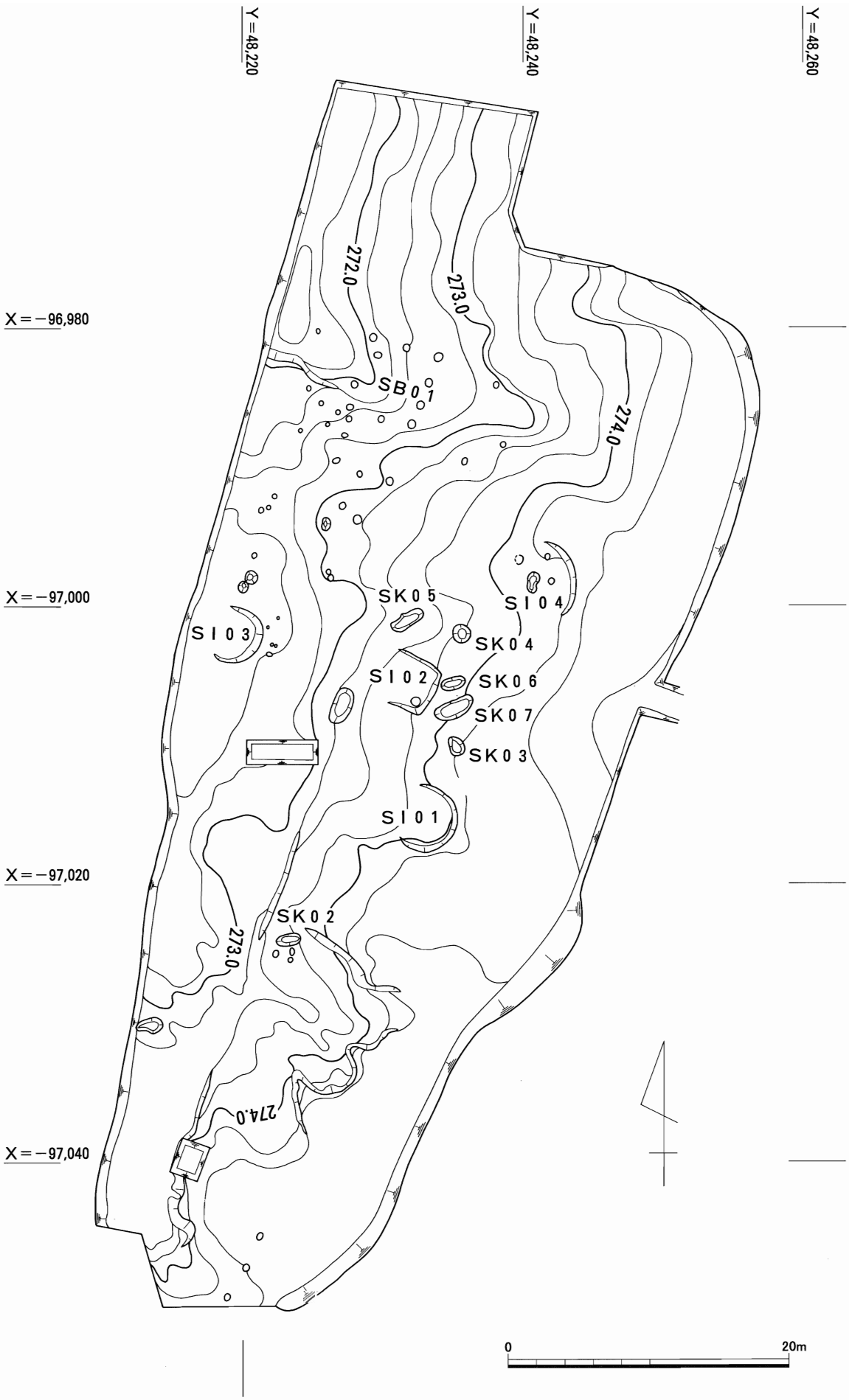
ＳＩ０１（第35・36図、第16・17表）

（立地）２区の中央よりやや南側、標高274ｍ地点で検出した。この付近は比較的平坦な面となっていた。

（規模・概要）（第35図）調査段階ですでに西側が流出しており残存状況は良くないが、平面が円形で、径は４ｍ前後のものと推測される。壁高は現状で20㎝程度を測るが、上面はかなり削平されている

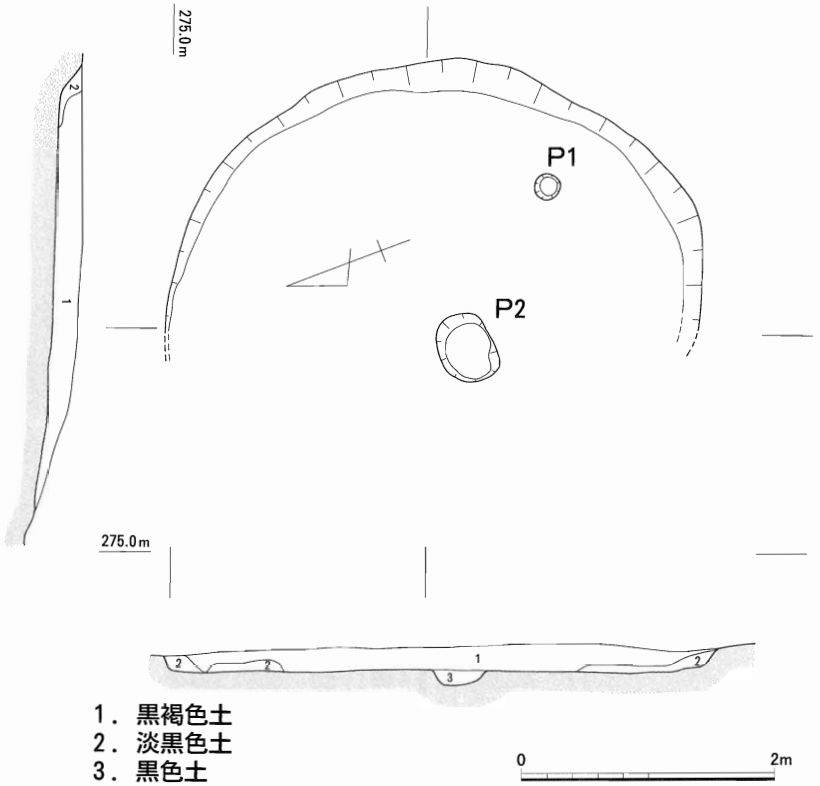


第33図　２区土層図（Ｓ＝１／80）



第34図　2区遺構配置図・地形測量図　（S＝1／400）

ものと考えられる。床面ではピットを２基確認した。そのうちの１基は幅55㎝を測る比較的大きなピットで、いわゆる中央ピットであろう。残りの１基は径が約20㎝を測るもので柱穴と考えられる。しかしこの他に柱穴に相当するようなピットは確認されなかった。したがってこの建物の柱数は不明である。



第35図　２区ＳＩ０１実測図　（Ｓ＝１／60）

（出土遺物）（第36図、第17・18表）遺物は床面付近で全面的に出土している。土器はほとんどが小片で、図化が可能であったのは第36図に掲載したもののみである。また主に建物内南側を中心として、剥片と考えられる石が散乱していた。剥片と考えられる石は、大きさが２～３㎝程度の厚みがほとんどないもので、一部には二次的な加工が認められるものもある。石鏃の素材またはそれを作成する際に生じた剥片である可能性が考えられる。

（時期）時期の推測できる遺物が少ないが、１や遺構の平面形態および周辺で検出した遺構・遺物等から、弥生時代中期後半のものである可能性が高いと思われる。

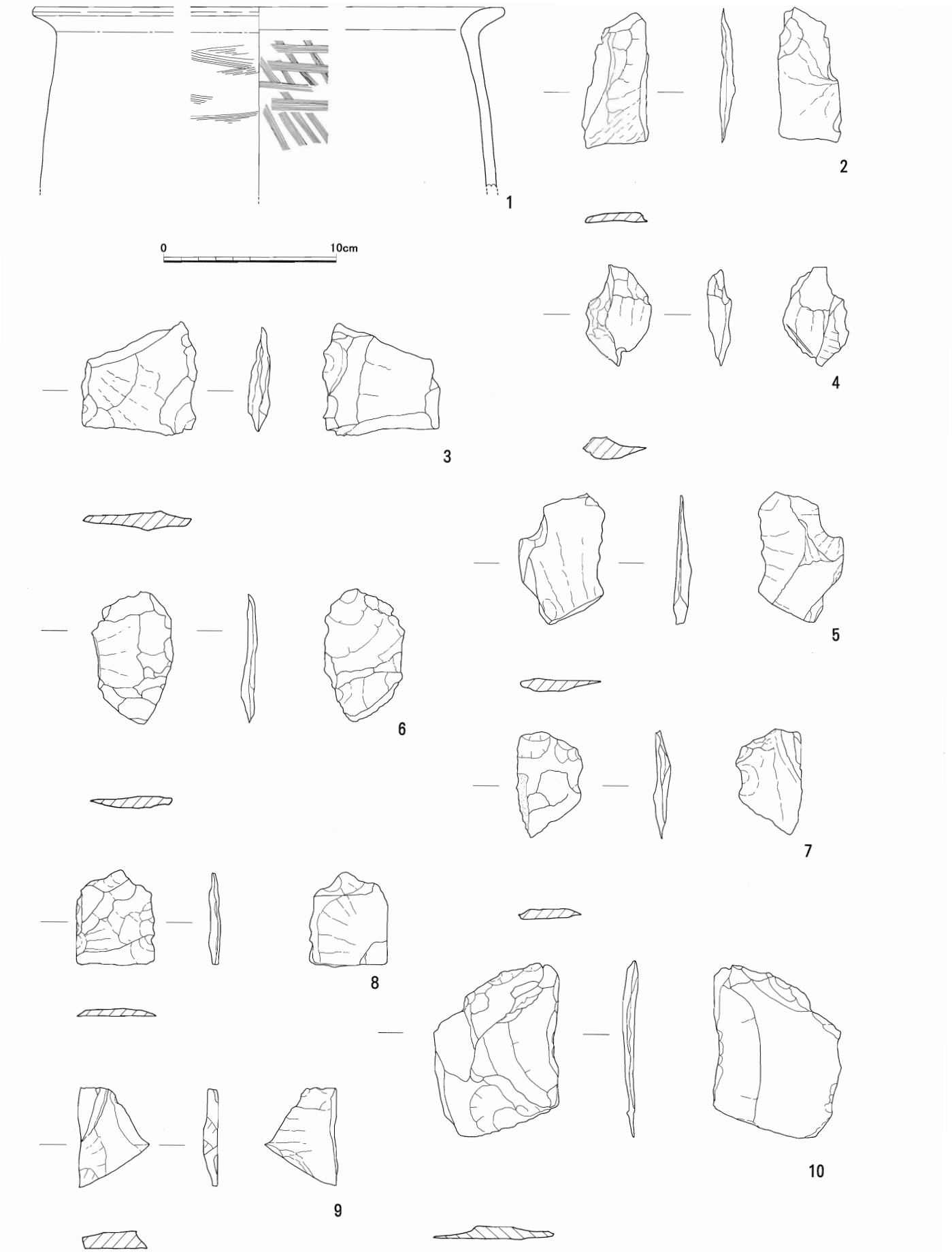
第17表　２区ＳＩ０１出土遺物観察表　(1)

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(㎝)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
36-1	16	ＳＩ０１（床面）	甕（弥生土器）		外面：ナデ・ハケメ 内面：ナデ・ハケメ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒を含む	良	赤褐色	一部に修復痕？が見られる

第18表　２区ＳＩ０１出土遺物観察表　(2)

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎜)	重量(ｇ)	備　　考
36-2		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.5	1.2	2.3	0.77	
36-3		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.2	2.2	3.2	1.85	
36-4		ＳＩ０１（床面）	剥　片	1.9	1.3	4.7	1.04	
36-5		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.5	1.7	2.6	0.95	
36-6		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.6	1.5	2.3	1.06	
36-7		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.0	1.8	1.8	0.60	
36-8		ＳＩ０１（床面）	剥　片	3.0	2.6	1.9	0.66	
36-9		ＳＩ０１（床面）	剥　片	2.0	1.4	3.6	1.04	
36-10		ＳＩ０１（床面）	剥　片	1.8	1.6	2.5	2.78	



第36図　２区ＳＩ０１出土遺物実測図（１はＳ＝１／３、２～10はＳ＝１／１）

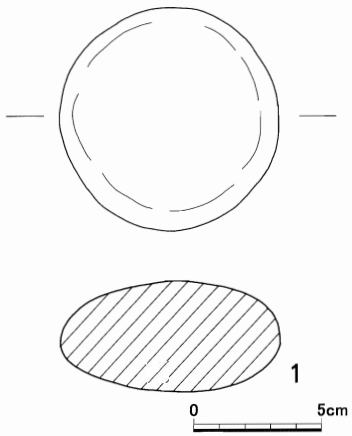
ＳＩ０２（第37・38図、第19表）

（立地）２区のほぼ中央付近、標高273.5ｍ地点の比較的平坦なところで検出した。

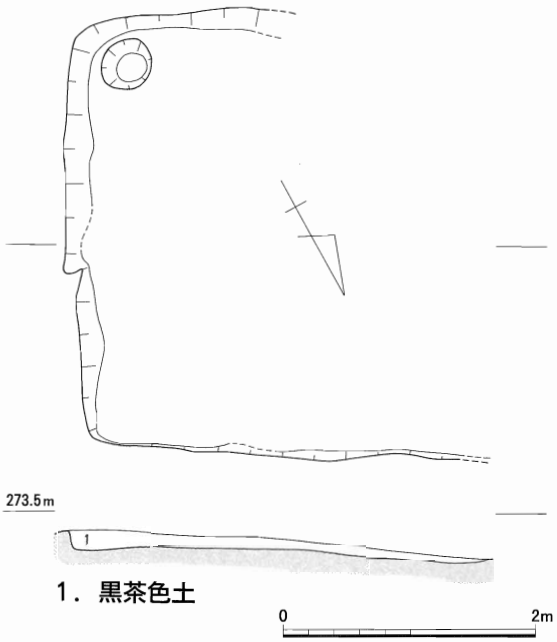
（規模・概要）（第38図）調査段階ですでに斜面下方にあたる南西側部分が流出しているが、残存部分から判断して平面形が方形または長方形を呈し、規模が南北方向で3.3ｍ、東西方向で3.0ｍ以上を測るものである。壁面は、上部がかなり削平されているものと考えられ全体的に残りが悪く、約10㎝程度しか残っていなかった。床面ではピットを１基確認した。ピットは遺構の南側隅に位置しており、径約40㎝、深さ約10㎝を測る。この建物に伴う柱穴と考えられるが、北側隅部分では確認できなかった。

（遺物出土状況）遺物は床面付近で全体的に出土しているが、ほとんどは小片である。なお覆土中より磨石が出土しているが、周辺からの流入によるもので本遺構に直接伴うものではないと考えられる。

（時期）出土した土器がいずれのものも小片であり、明確に時期を判断できるものがないため明らかでないが、遺構の平面形態や周辺遺構等から考えて、奈良～平安時代にかけてのものである可能性が高いと思われる。



第37図　２区ＳＩ０２出土遺物実測図（Ｓ＝1/3）



第38図　２区ＳＩ０２実測図（Ｓ＝１／60）

第19表　２区ＳＩ０２出土遺物観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	備　　考
37-1		ＳＩ０２（覆土中）	磨　石	8.7	8.9	4.4	

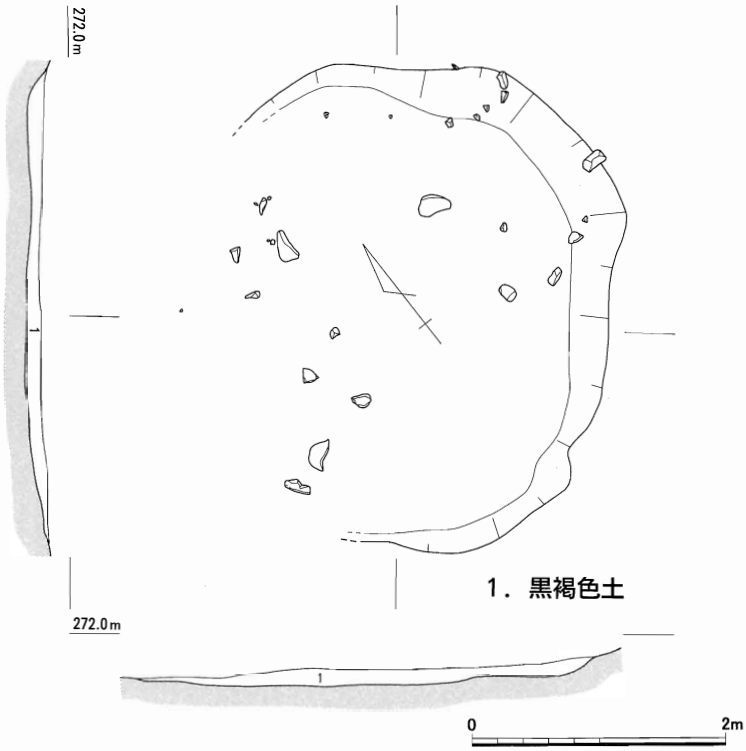
ＳＩ０３（第39図）

（立地）標高272ｍのところで検出した。

（規模・概要）建物跡かどうかあまりはっきりしない遺構である。平面形は、円形とも方形とも区別がつかない不整形な形状で、規模は南北方向で測って3.5ｍ前後を測る。壁は斜めに掘り込まれており、また、床面と壁面との境は明確でない。床面もあまり平らでなく所々に礫が認められた。ピット等は確認されなかった。

（遺物出土状況）土器の小片が数点出土したが、いずれのものも覆土中からの出土である。

（時期）時期の判断できるものがなく、明らかではない。



第39図　２区ＳＩ０３実測図（Ｓ＝１／60）

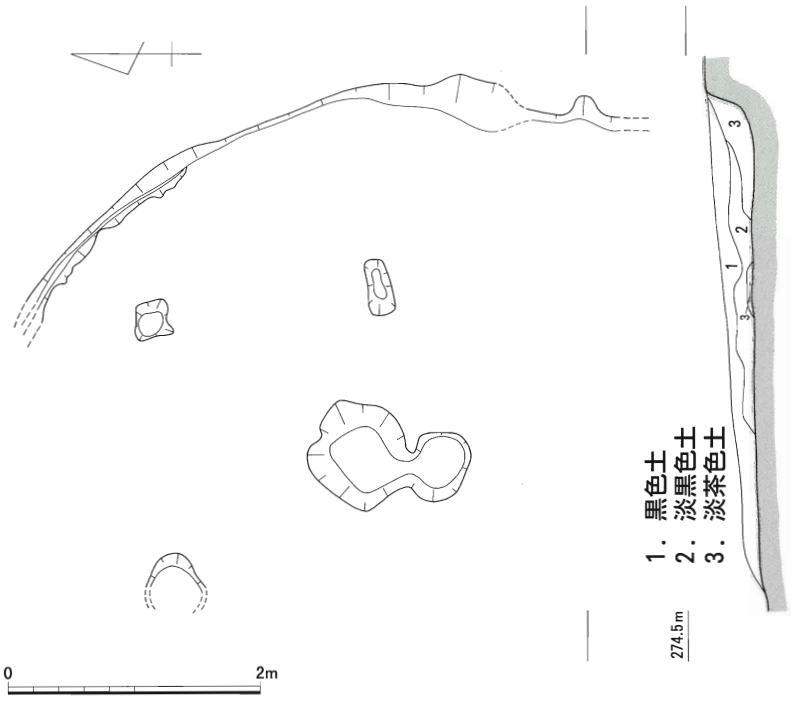
ＳＩ０４（第40～42図、第20・21表）

（立地）調査区中央よりやや北側、標高274ｍ地点の平坦なところで検出した。

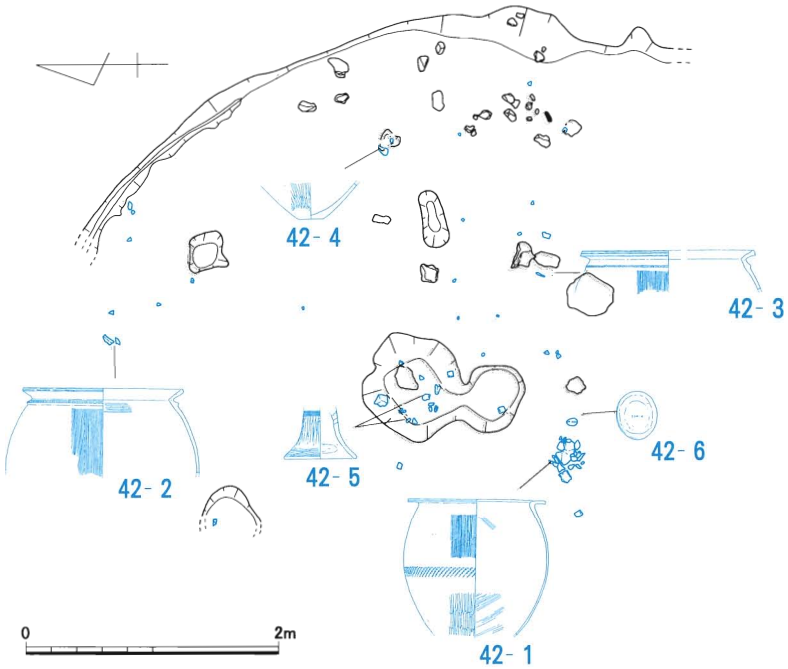
（規模・概要）（第40図）調査段階で既に全体の４分の３以上が流出しており、残存状況の悪い遺構である。平面形・規模とも正確なことは不明であるが、残存する北西側部分から推測して、平面形が円形で規模が6.0ｍ前後を測る建物跡と考えられる。壁はほかの遺構と同様に10～20㎝程度しか残っていなかったが、これも同じく遺構上面が削平を受けた結果と思われる。また壁際には幅10㎝程度の浅い壁体溝が認められたが、確認されたのは建物北側の一部で、どの程度巡らされていたかは不明である。床面ではピットを４基検出した。このうちＰ１は２基のピットが連接したような形状をした、長さ1.2ｍを測る大型のもので、中央ピットに相当するものと考えられる。ほかの３基は、いずれのものも径40～60㎝を測るもので柱穴に相当するピットであろう。位置関係から６本の柱が想定されるが明らかではない。いずれにしても少なくとも４本以上の柱を持った建物であったものと想定される。

（出土遺物）（第42図、第20・21表）遺物はほぼ床面で出土しているが、中央ピット付近で同一固体の土器の破片がまとまって出土しているほかは小片がほとんどである。また、中央ピットからは高坏の脚部が出土した。出土遺物については第42図に掲載した。１～３は甕である。基本的に器壁は薄く、外面・内面ともヘラミガキやハケメ調整がなされる。１は口縁部が強く屈曲し、また凹線文状の窪みを有している。２・３はどちらも頸部よりわずかに下の部分に刻みのある貼り付け突帯を有し、口縁部には凹線文が施される。４は壺または甕の底部、５は高坏の脚部、６は磨石である。５は円形透かしや直線文を有し、内面はヘラ削り調整がなされている。

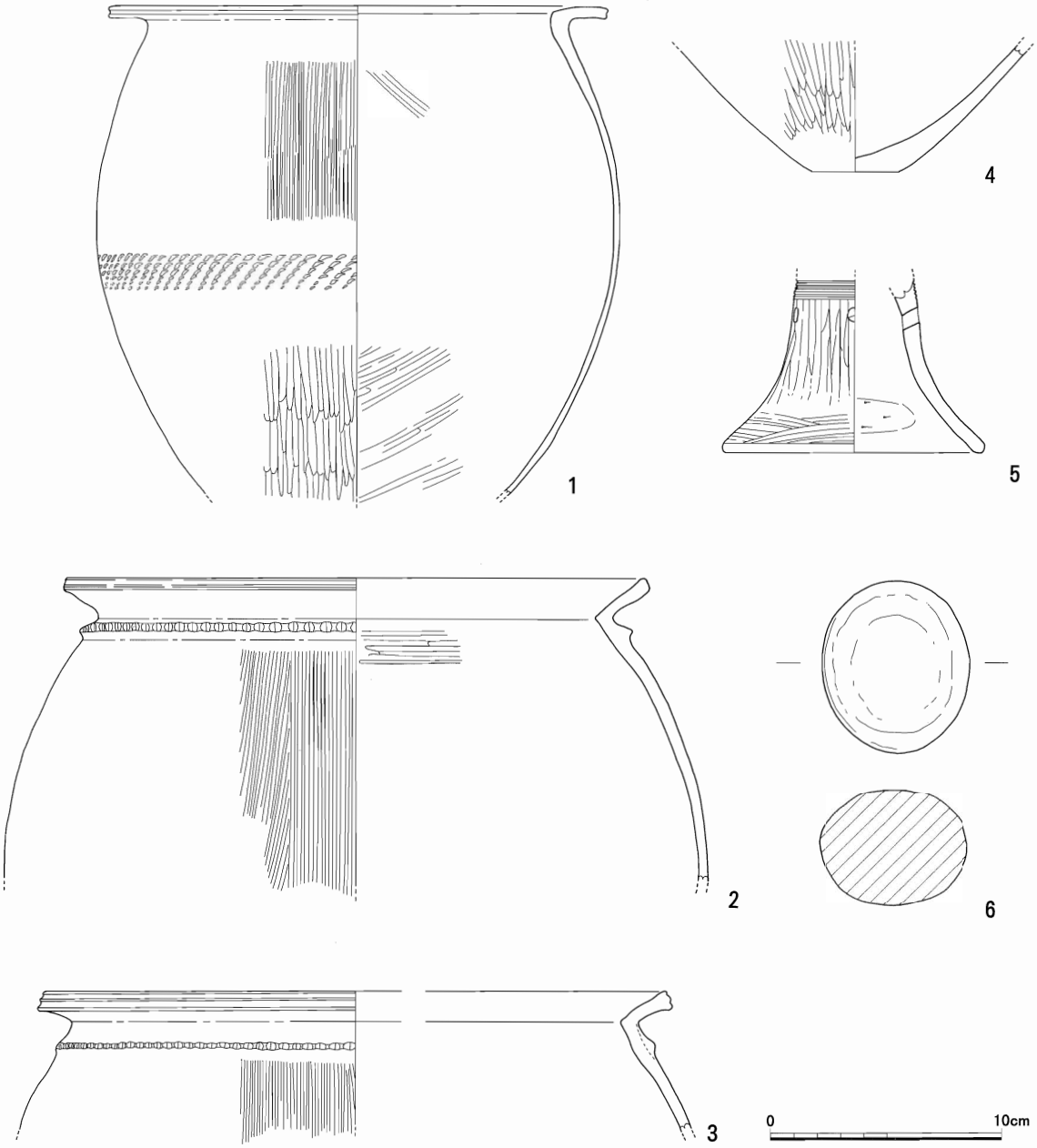
（時期）出土した遺物の様相から、弥生時代中期後半と判断される。



第40図　２区ＳＩ０４実測図(1)　（Ｓ＝１／60）



第41図　２区ＳＩ０４実測図(2)　遺物出土状況（Ｓ＝１／60）
（図中遺物は縮尺任意）



第42図　２区ＳＩ０４出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）

第20表　２区ＳＩ０４出土遺物観察表 (1)

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
42-1	16	ＳＩ０４（底面）	甕（弥生土器）	口径:(21.6)	外面:ヨコナデ、ハケメ、ヘラミガキ 内面:ヨコナデ、ハケメ、ヘラミガキ	口縁部に凹線文状の窪み、胴部に列点文	１㎜以下の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率70%
42-2	16	ＳＩ０４（底面）	甕（弥生土器）	口径:(25.0)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、ヘラミガキ	口縁部が凹線文状に僅かにくぼむ 頸部屈曲部よりやや下にキザミのある突帯	１㎜以下の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率20%
42-3	16	ＳＩ０４（底面）	甕（弥生土器）	口径:(27.0)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ	口縁部に凹線文(2条) 頸部屈曲部よりやや下にキザミのある突帯	１㎜以下の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
42-4		ＳＩ０４（底面）	壷？（弥生土器）	底径:(3.8)	外面:ヘラミガキ、ナデ 内面:ナデ、一部にハケメ		１㎜以下の砂粒を含む	良	灰黄褐色	残存率10%
42-5	16	ＳＩ０４（底面）	高杯（弥生土器）	底径: 11.0	外面:ヘラミガキ 内面:ヨコナデ、一部にヘラケズリ	平行線文、円形透かし	１㎜以下の砂粒を含む	良	灰黄褐色	残存率20%

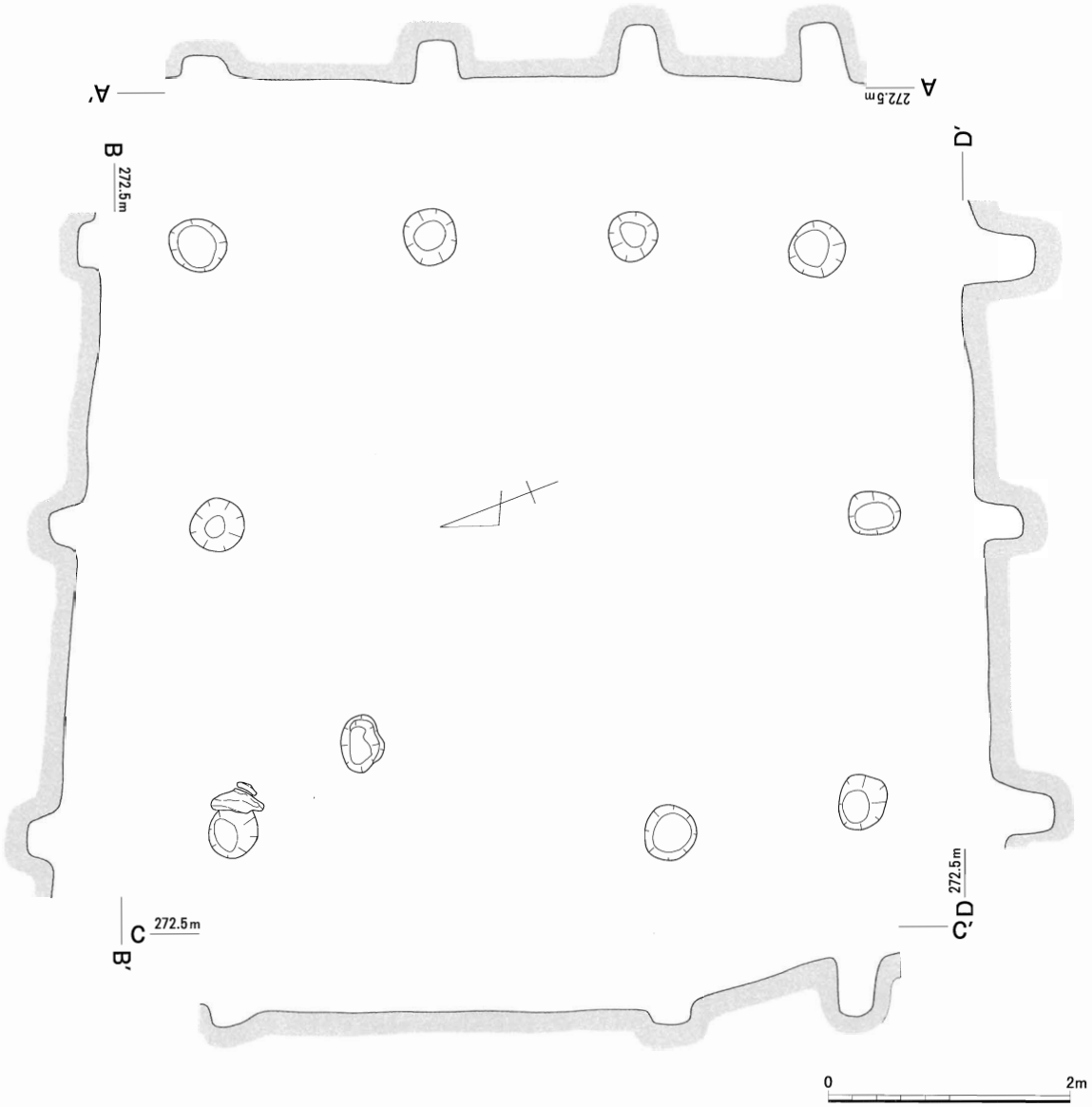
第21表　２区ＳＩ０４出土遺物観察表 (2)

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備　考
42-6		ＳＩ０４（底面）	磨　石	7.5	6.4	5.0	

ＳＢ０１（第43～46図、第22・23表）

（立地）調査区北側、標高272.5ｍ地点で検出した。南北方向から若干方位をずらして建てられている。

（規模・概要）（第43図）柱穴と想定されるピットは全部で９基確認され、西側の柱穴が１基認められないものの、２間×３間の建物跡と考えられる。各柱間は南北方向が1.6ｍ～1.8ｍ、東西方向が2.4ｍ前後を測り、全体として5.2ｍ×5.0ｍの規模である。ピットはいずれも径が40㎝前後、深さは調査段階で20㎝～50㎝であった。全体的に斜面下方側のものが浅いことから、こちら側のものは上面が失われている可能性が高いといえる。したがって、基本的にはいずれのものも50㎝以上の深さがあったものと想定される。

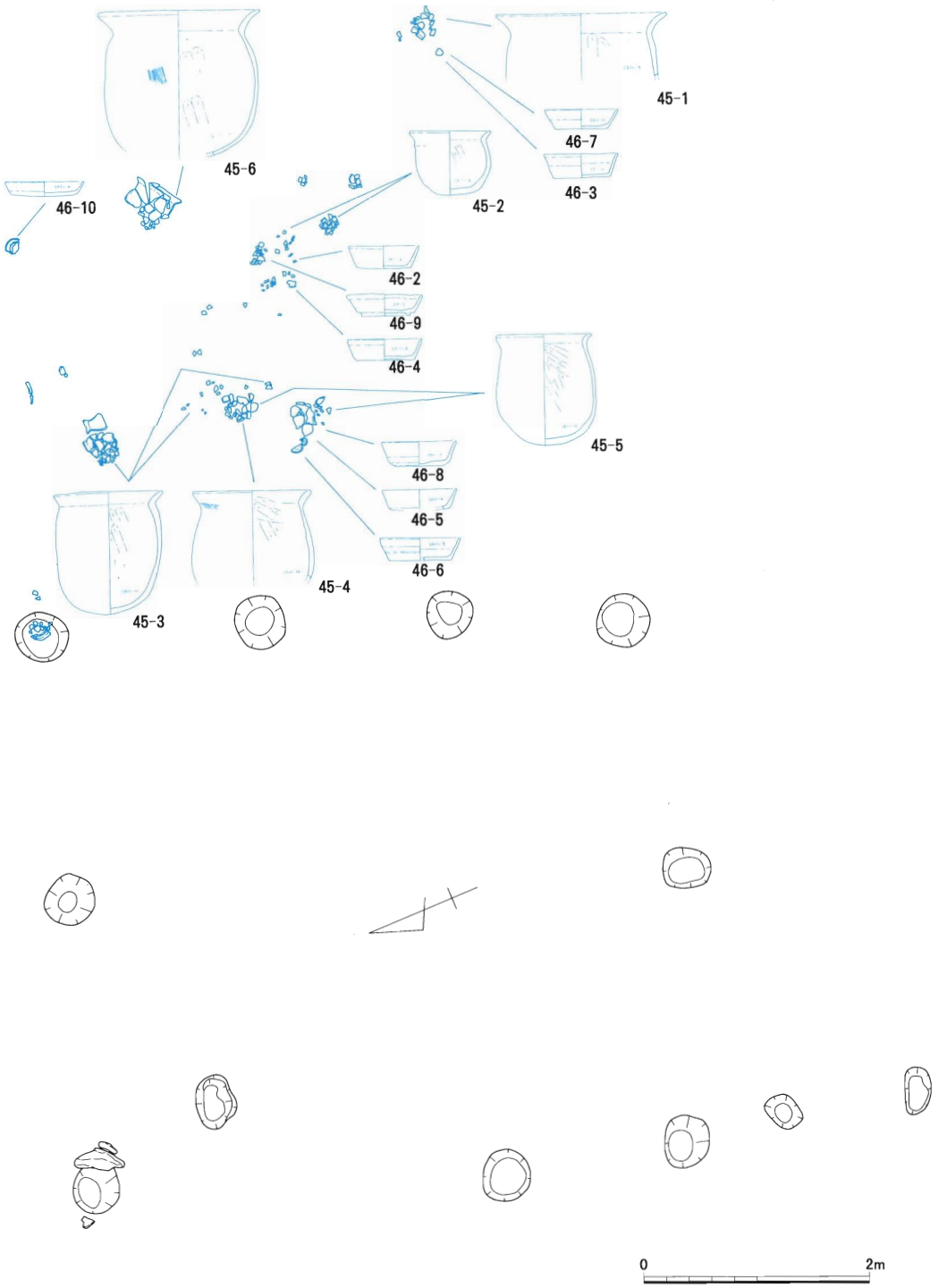


第43図　２区ＳＢ０１実測図(1)　（Ｓ＝１／60）

（遺物出土状況）（第44図）建物跡の東側でまとまって出土している。破片での出土であるが、各個体ごとにまとまりを見せており、ほぼ完形に復元できるものも認められる。

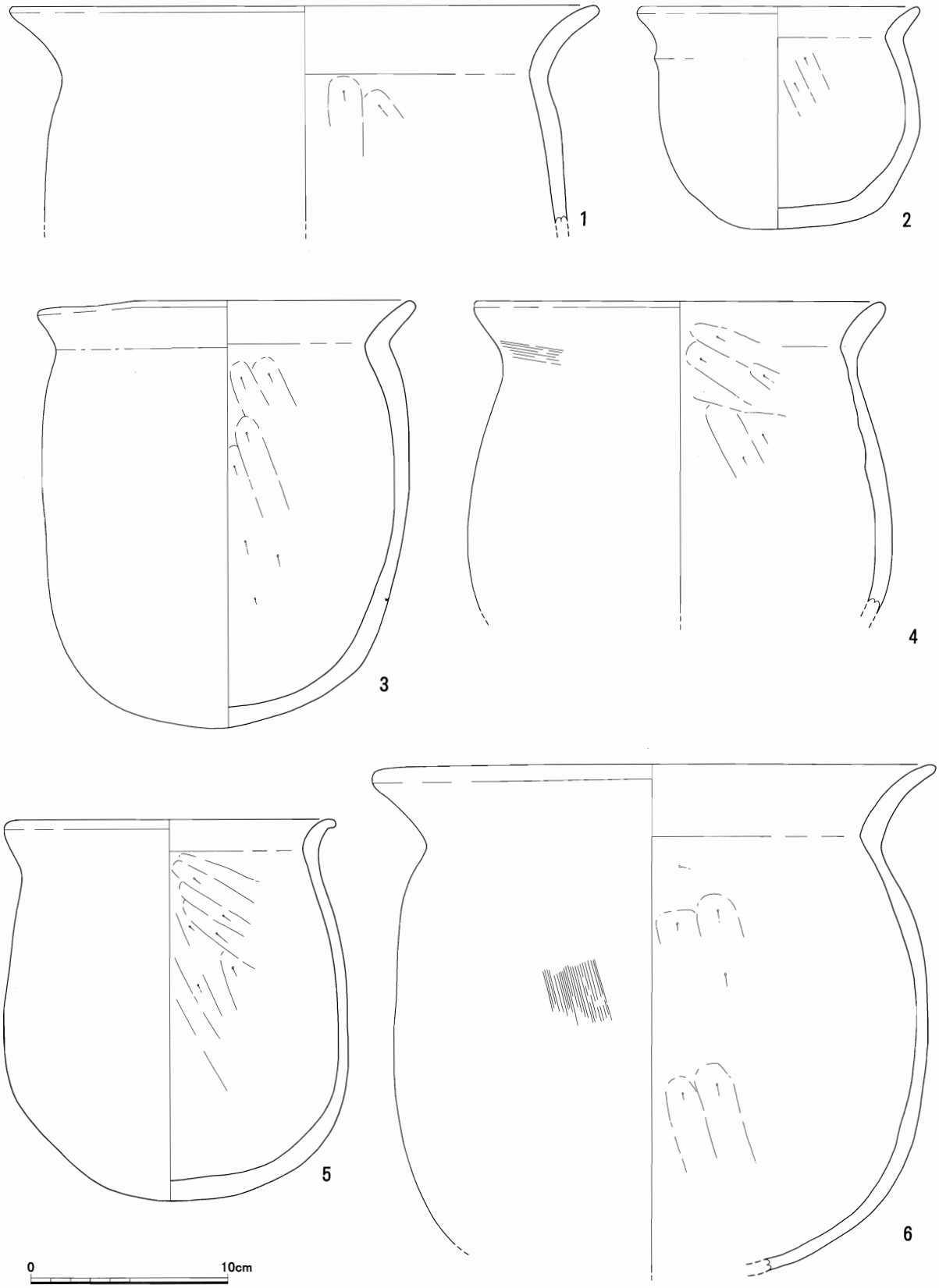
（出土遺物）（第45・46図、第22・23表）出土した遺物は須恵器蓋、須恵器坏、土師器甕などの土器類のほか、鉄製の鎌なども出土した。土師器甕は大型のものから小型のものまであり、器形も胴のやや張るものや寸胴型のものなどがみられる。須恵器坏は体部が直線的に伸びるものがほとんどである。高台の付くものや、底部に回転糸切り痕を残すものもみられる。また須恵器蓋は輪状つまみを有し、端部が下方に折れ曲がるタイプのものである。

（時期）出土遺物から奈良時代頃の建物跡と考えられる。

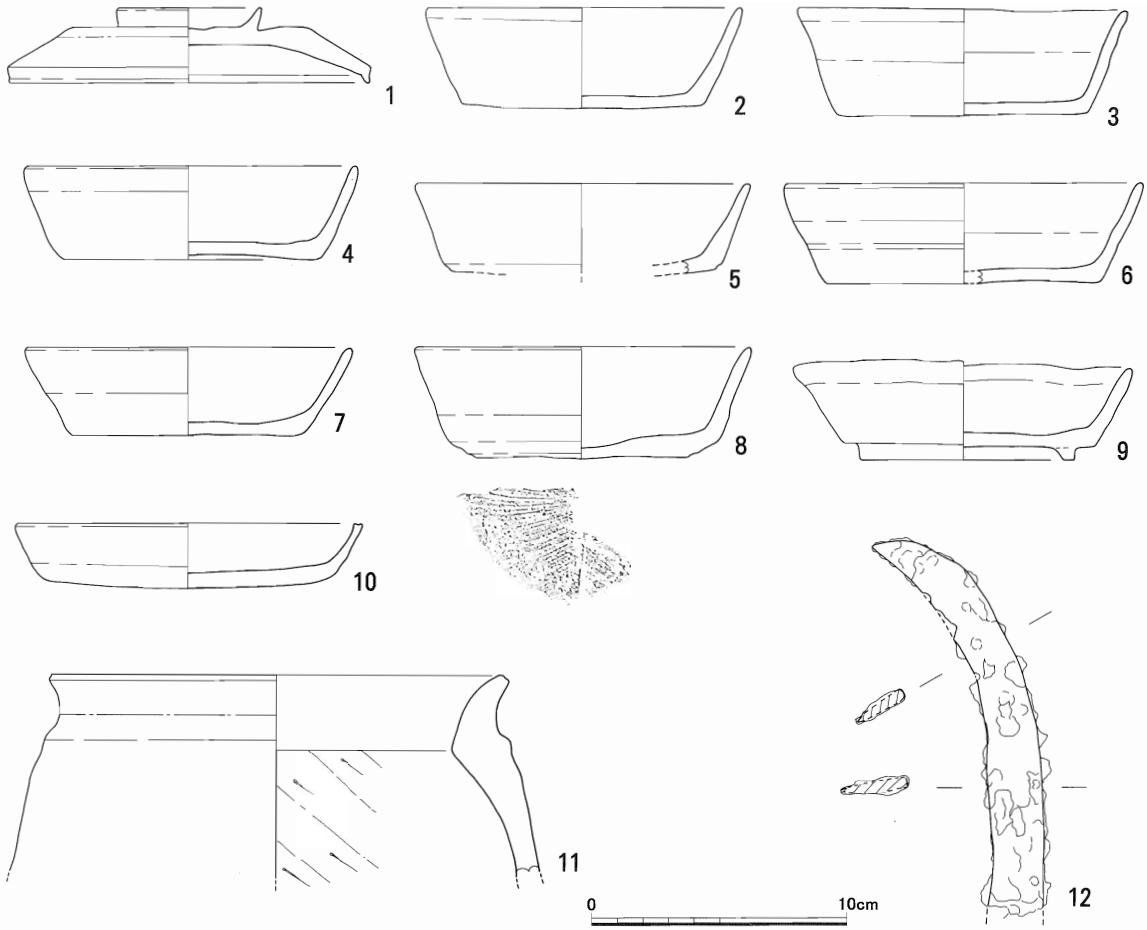


第44図　２区ＳＢ０１実測図(2)　遺物出土状況　（Ｓ＝１／60）（図中遺物は縮尺任意）

第45図　２区ＳＢ０１出土遺物実測図(1)　（Ｓ＝１／３）



第45図　２区ＳＢ０１出土遺物実測図(1)　（Ｓ＝１／３）



第46図　２区ＳＢ０１出土遺物実測図(2)　（Ｓ＝１／３）

第22表　２区ＳＢ０１出土遺物観察表　(1)

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　　整	特　　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
45-1		ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径:(30.0)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率30%
45-2	17	ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径: 14.0 器高: 11.4	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	小型の甕	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率90%
45-3	17	ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径: 19.0 器高: 22.8	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	胴部はあまり張らない	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	器面が若干風化 ほぼ完形
45-4		ＳＢ０１	甕 (須恵器)	口径:(20.4)	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、強いヘラケズリ	胴部はあまり張らない	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率20%
45-5	17	ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径: 17.0 器高: 19.5	外面：ヨコナデ、ナデ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	胴部はあまり張らない	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率70%
45-6	17	ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径: 28.6 器高:(27.0)	外面：ヨコナデ、ナデ一部ハケメ 内面：ヨコナデ、ヘラケズリ	胴部はあまり張らない	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色～黒褐色	残存率80%
46-1	17	ＳＢ０１	坏蓋 (須恵器)	口径:(14.2) 器高: 3.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	輪状つまみを有する	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	残存率50%
46-2	17	ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径: 12.4 器高: 4.0	外面：回転ナデ、ヘラ切り 内面：回転ナデ、ナデ	体部は直線的に立ちあがる	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	ほぼ完形
46-3	17	ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径: 13.0 器高: 4.2	外面：回転ナデ、ヘラ切り 内面：回転ナデ、ナデ	体部は直線的に立ちあがる	1㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	ほぼ完形
46-4		ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径: 13.0 器高: 3.7	外面：回転ナデ?、ヘラ切り 内面：回転ナデ、ナデ		1㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	風化のため調整不明瞭 残存率40%
46-5		ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径: 13.0	外面：回転ナデ、ヘラ切り? 内面：回転ナデ		1～4㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	青灰色～灰白色	残存率30%
46-6		ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径:(14.0) 器高: 4.0	外面：回転ナデ、ヘラ切り 内面：回転ナデ		1㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	残存率30%

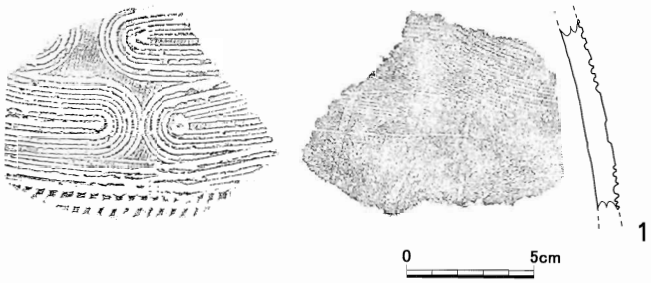
46-7		ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径:(12.8) 器高: 3.5	外面：回転ナデ?、ヘラ切り? 内面：回転ナデ?		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	風化のため調整不明瞭 残存率40%
46-8	17	ＳＢ０１	坏 (須恵器)	口径: 12.2 器高: 4.5	外面：回転ナデ、静止糸切り 内面：回転ナデ		1～3㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	残存率40%
46-9	17	ＳＢ０１	高台付坏 (須恵器)	口径: 13.4 器高: 3.9	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	青灰色～灰白色	ほぼ完形
46-10	17	ＳＢ０１	皿 (須恵器)	口径: 13.7 器高: 2.6	外面：回転ナデ、ヘラ切り 内面：回転ナデ		1～2㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	青灰色～灰白色	ほぼ完形
46-11		ＳＢ０１	甕 (土師器)	口径: 17.6	外面：ナデ、 内面：ヨコナデ、ケズリ		1㎜程度の砂粒を含む	良	灰色～黒色	器壁が厚い 残存率20%

第23表　２区ＳＢ０１出土遺物観察表　(2)

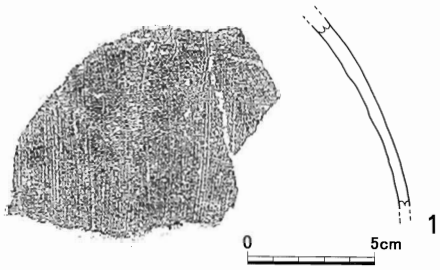
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ	最大幅(cm)	最大厚(cm)	備　考
46-12	18	ＳＢ０１	鎌	14.9	2.3	0.4	

ＳＫ０１～ＳＫ０７（第47図～第49図、第24・25表）

２区中央付近から南側にかけて土坑が７基点在していた。それぞれの土坑の詳細については第25表に記載した。平面形はＳＫ０２が楕円形、ＳＫ０４が円形を呈するほかは不整形な形となっている。またいずれの土坑も深さはそれほどなく浅いものである。ＳＫ０２・ＳＫ０３から弥生土器が出土している以外は、各土坑とも出土遺物が小片またはほとんどないため時期は明らかでなく、その性格についても不明である。



第47図　２区ＳＫ０２出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）



第48図　２区ＳＫ０３出土遺物実測図（Ｓ＝1/3）

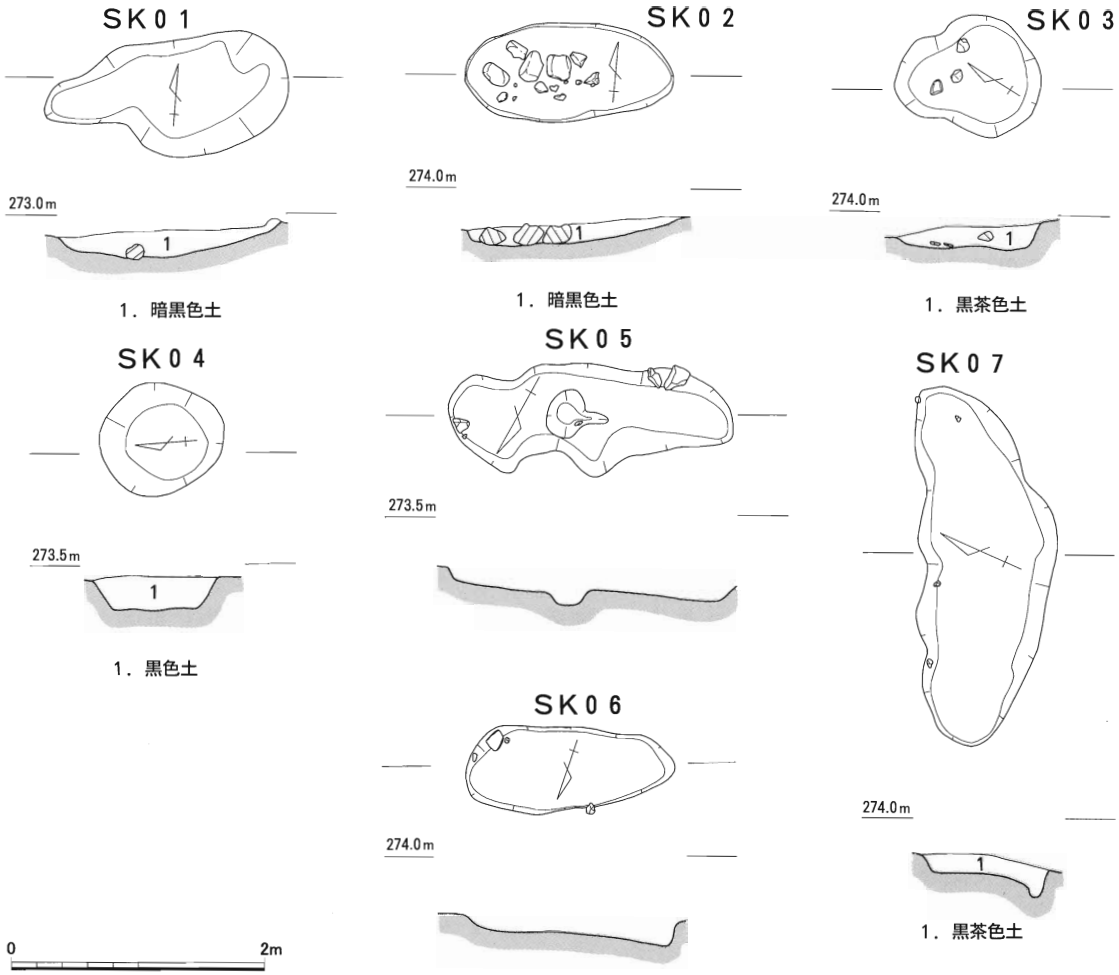
第24表　２区ＳＫ０２・ＳＫ０３出土遺物観察表

口径（ ）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色調	備　考
47-1	18	ＳＫ０２	壷 (弥生土器)		外面：ナデ、ハケメ 内面：ナデ、ハケメ	櫛描流水文、キザミ	1㎜大の砂粒を含む	良	黄褐色～赤褐色	
48-1	18	ＳＫ０３	甕 (弥生土器)		外面：ハケメ 内面：ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	

第25表　２区ＳＫ０１～０７計測表

遺構名	平面形	規模（長軸×短軸×深さ）	出土遺物	備　考
ＳＫ０１	不整形	1.9 × 0.9 × 0.2		
ＳＫ０２	楕円形	1.9 × 0.8 × 0.2	弥生土器	
ＳＫ０３	円形	1.2 × 1.0 × 0.2	弥生土器	
ＳＫ０４	円形	1.0 × 0.9 × 0.3		
ＳＫ０５	方形	2.2 × 0.9 × 0.2		
ＳＫ０６	方形	1.7 × 0.7 × 0.2		
ＳＫ０７	方形	2.8 × 1.1 × 0.3		



第49図　２区ＳＫ０１～ＳＫ０７実測図　（Ｓ＝１／60）

２区　ＳＢ０１出土遺物写真

遺構に伴わない遺物

２区においても１区同様包含層中から多くの遺物が出土している。縄文土器・弥生土器・土師器などが確認されるが、圧倒的に多いのは弥生土器である。

第50図には縄文土器を掲載した。１、２はキザミのある突帯を有する土器、３～６は粗製の深鉢と考えられる。いずれも小片で全体のわかるものはない。２区においても縄文土器の出土は少なく、掲載したもののほかはわずかである。時期は後期～晩期にかけてと考えられる。

第51図～第56図は弥生土器を掲載した。

第51図は内面・外面とも無文の土器である。１区において出土したものと同様、口縁部の屈曲の弱いものと比較的強いものとが見られる。

第52図、第53図には主に壷・甕を掲載した。第52図１～６は口縁部が外方に屈曲し胴部が張り出す形の甕である。１、２は口縁端部に凹線文状の窪みを有し、胴部には列点文が施されている。４、５は頸部よりやや下にキザミのある突帯を有する。７～９は口縁部が拡張され、そこに凹線文が施される甕である。いずれも内面にヘラケズリは認められない。７は口縁部が上方に拡張され、胴部には列点文が認められる。10～13は凹線文と刺突文とが組み合わされた文様をもつもので、いわゆる「塩町式」土器と類似するものである。第53図2～12は口縁部が拡張し、内面頸部以下にヘラケズリが施されているものである。これらの土器の年代としては第52図１～５が中期中葉頃、６～13が中期後葉頃、第53図は後期前葉と考えられる。

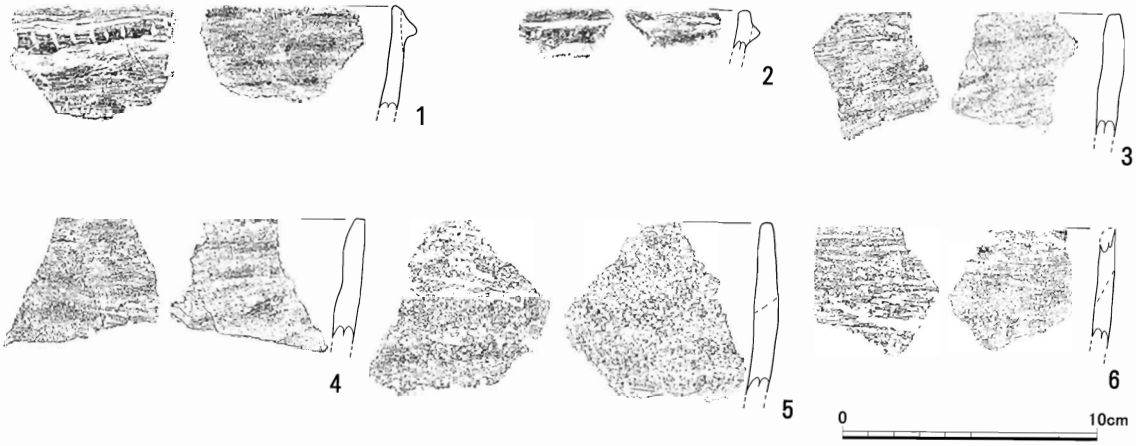
第54図は主に高坏と壺・甕の底部を掲載した。１は口縁部が水平な面となり、そこに斜格子文が描かれるもので、その端部にはキザミが施されている。２～４は坏部が屈曲し直立気味に立ち上がる形のもので、外面には凹線文が施されている。５～11は高坏の脚部である。６は欠損しているものの三角形と考えられる透かしが施され、外面は凹線文が描かれる。また７は円形の透かしや直線文が施されている。８～11は脚端部が拡張されそこに凹線文が施されるもので、内面にはヘラケズリの認められるものもある。20は鉢と考えられ、口縁部から胴部にかけて凹線文や直線文、キザミなどが施されている。これらの年代は１が中期中葉頃、ほかは中期後葉と考えられる。

第55図、第56図は主に壺を掲載した。第55図１～３は口縁部が大きく開く形の壺と考えられるものである。端部は下方にわずかに拡張し、２は内面に斜格子文、３は外面に斜行線が描かれる。４～７は口縁部がさらに拡張され、そこに凹線文が施されるものである。このうち６，７は内面にも凹線文が施され、さらに、櫛状工具によると考えられる波状文や半円状の文様が認められる。これらは後述する流水文の描かれた土器の口縁部になるものと考えられる。８、９は壺の頸部から胴部にかけての部分で装飾性が強く、凹線文、直線文、列点文、斜行線など多様な文様が描かれている。第56図には流水文の描かれた土器片を掲載している。いずれも櫛状工具によって描かれたと思われ、線の違いや土器の焼成具合、色調などから2種類の固体が想定される。これらの年代については第55図１～３が中期中葉、そのほかは中期後葉と考えられる。

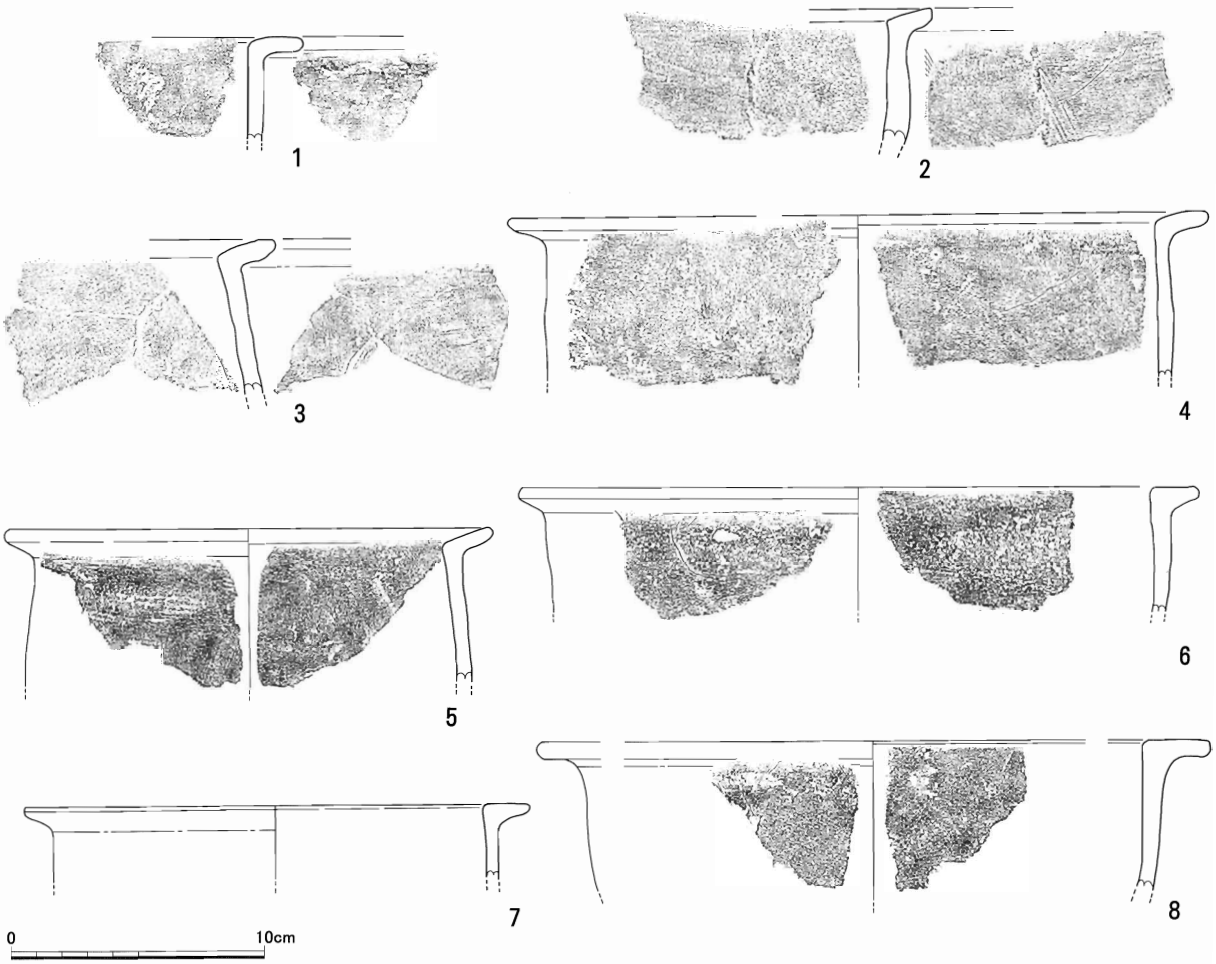
第57図は土師器である。甕の口縁部と考えられるものである。土師器の出土量は多くない。時期については断定できないものの、ＳＢ０１に近い時期が考えられる。

第58図は主に陶磁器、石器を掲載した。陶磁器類には推定産地が肥前と考えられるもの以外に、中国と考えられるものも散見される。１は高台の付く坏である。中世土器と考えられるものはほかにわずかしか確認していない。２は白磁の皿である。口縁端部が反るもので、中国産と考えられる。

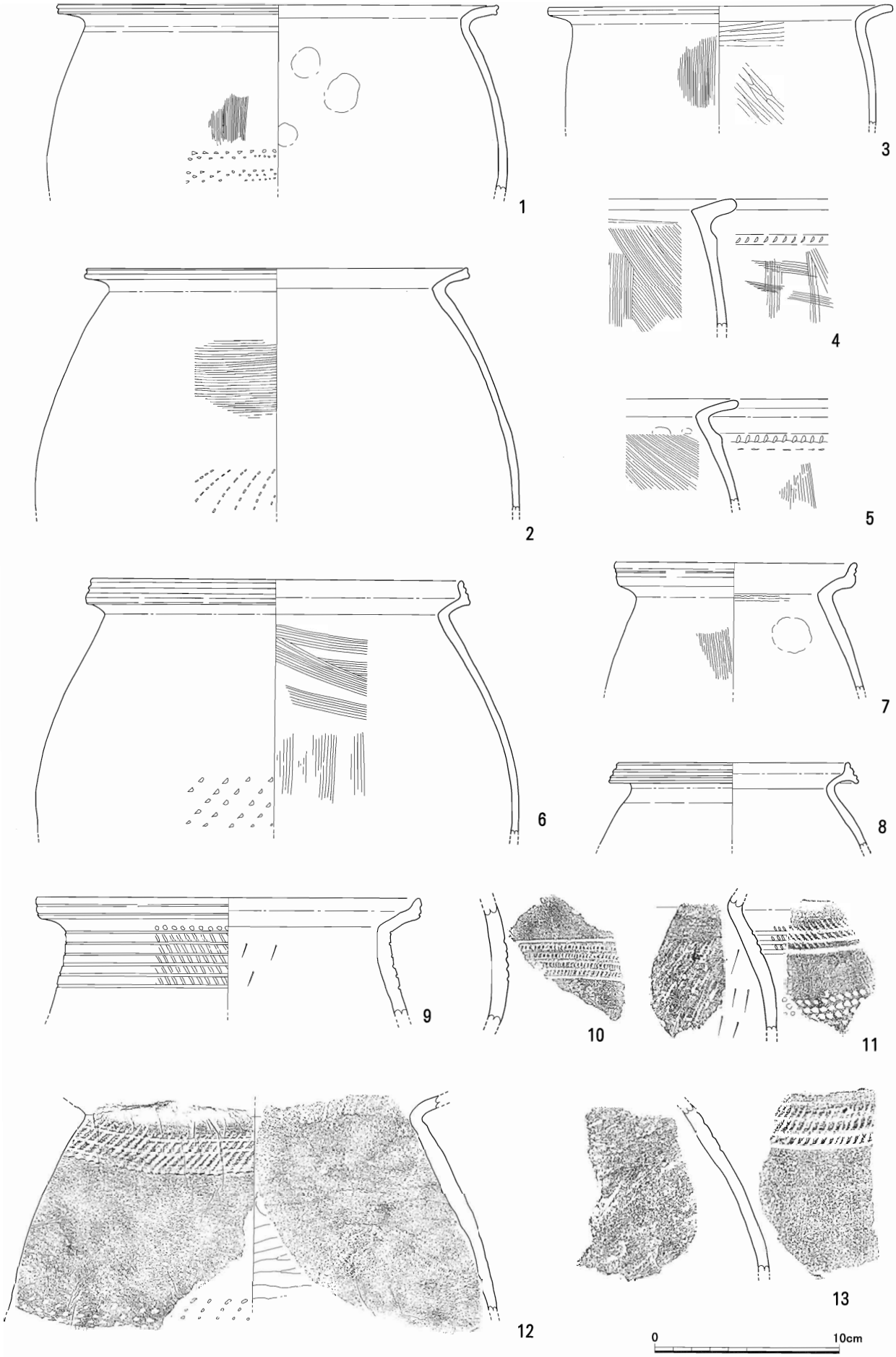
3は陶器碗である。三日月高台で、高台以外は施釉されている。4は磁器碗と考えられる。外面には回線が描かれ、見込みにも施文される。5は磁器皿である。高台内面は施釉されず、また見込みは釉剥ぎされる。6、7は陶器碗である。内外面とも一部を除き施釉される。これらの年代は1が12世紀後半、2～5が16～17世紀頃、6、7が18世紀頃と考えられる。



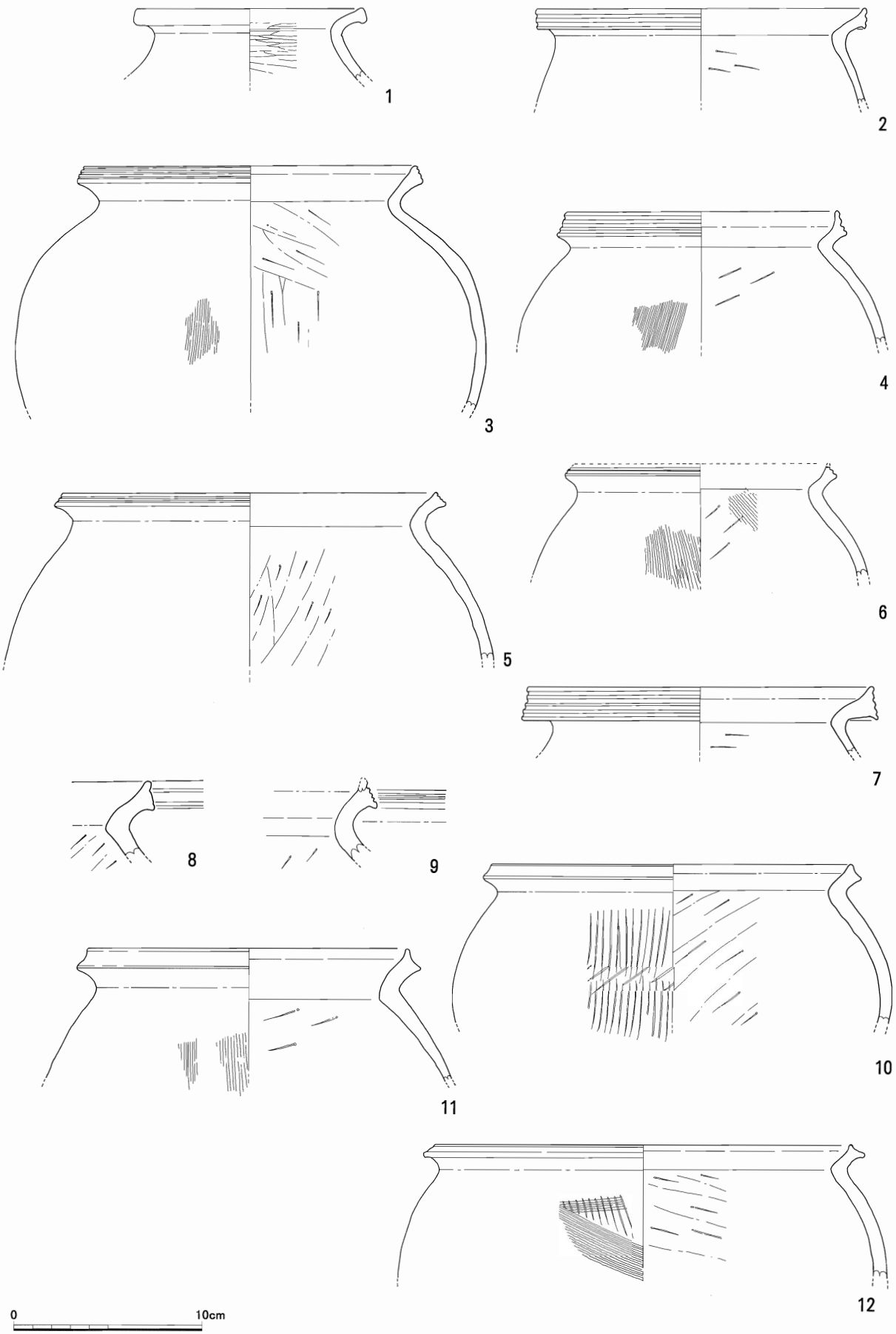
第50図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図(1) 縄文土器　（S＝1／3）



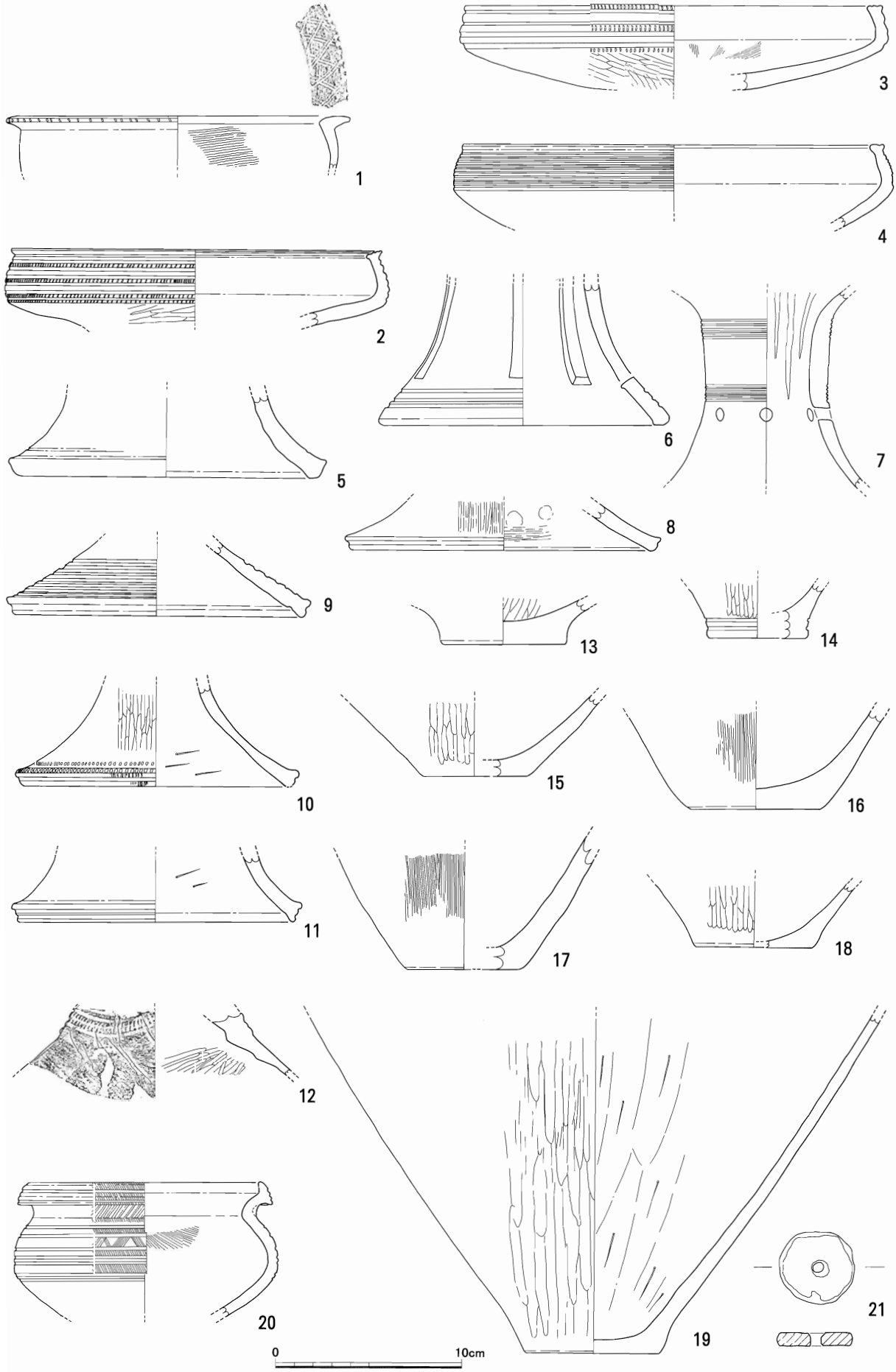
第51図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図(2) 弥生土器　（S＝1／3）



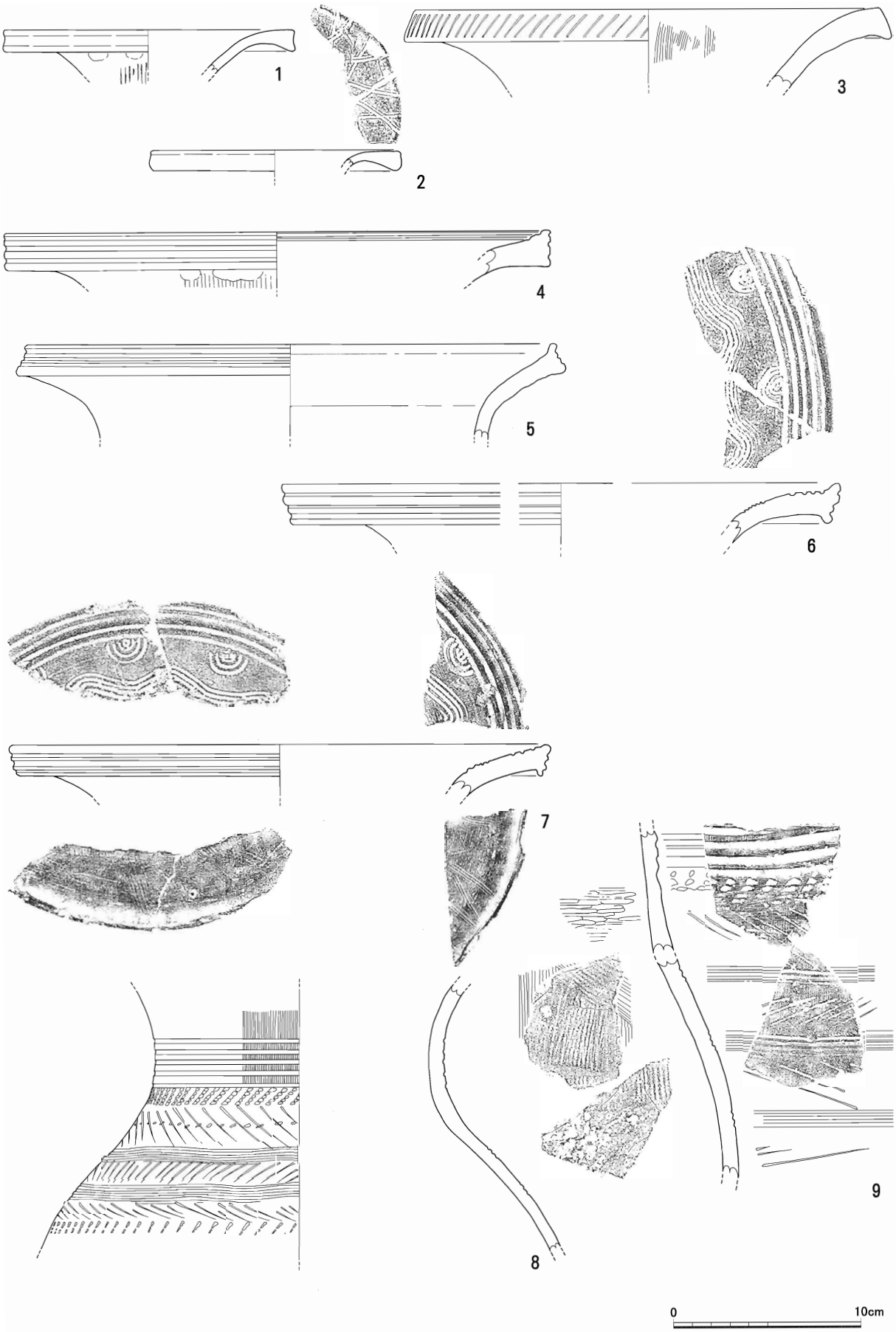
第52図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図(3) 弥生土器　（S＝1／3）



第53図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図(4) 弥生土器　（S＝１／３）

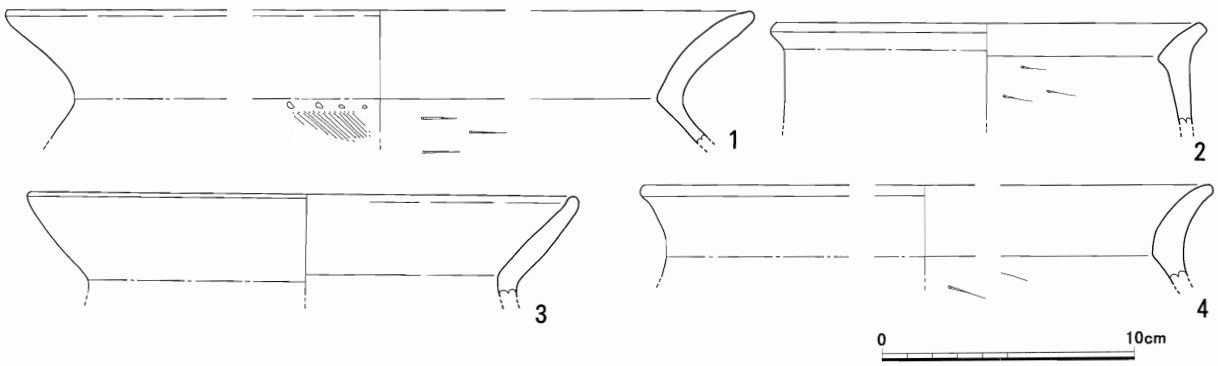


第54図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図(5) 弥生土器　（S＝1／3）

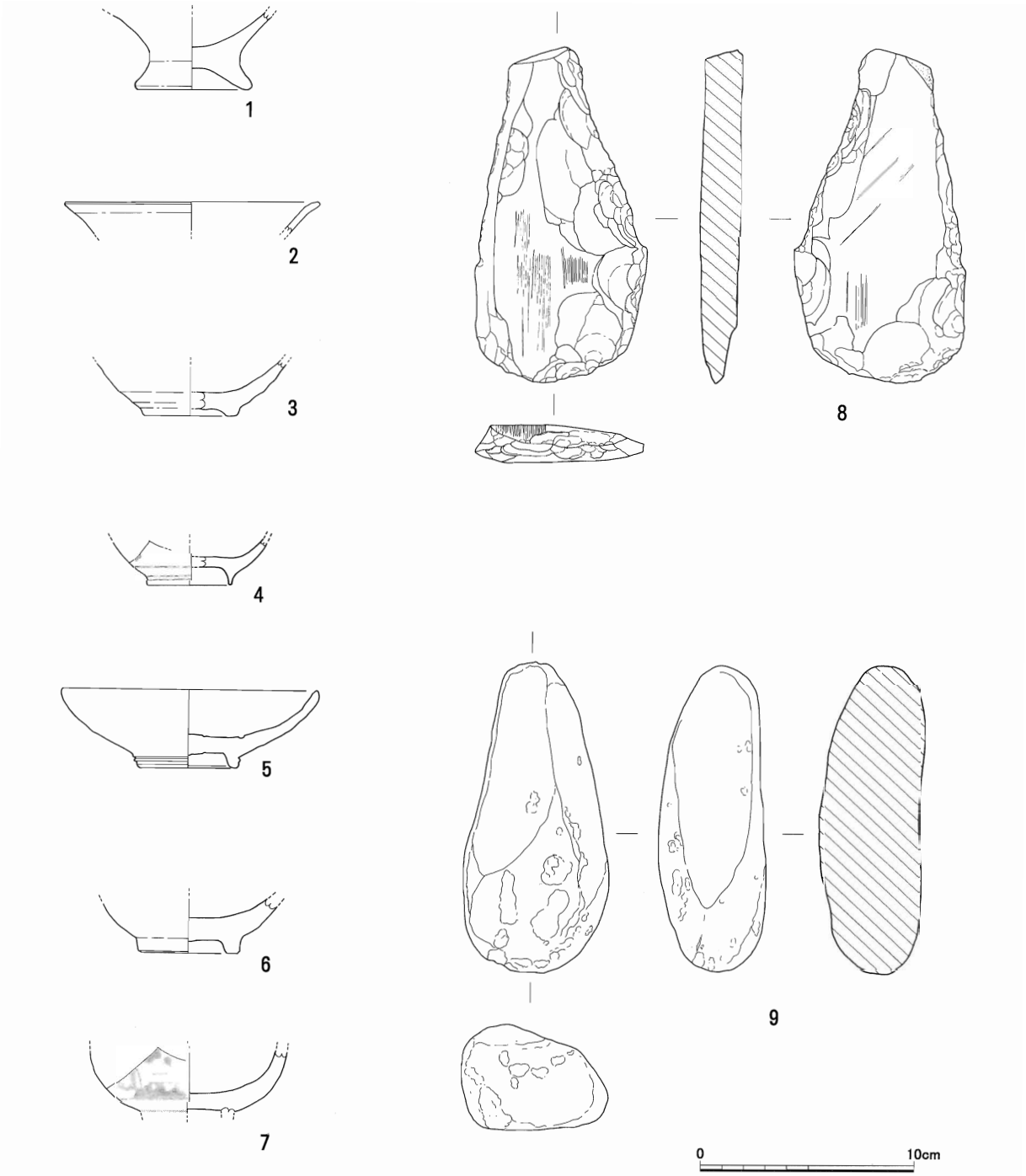


第55図　2区遺構に伴わない出土遺物実測図(6) 弥生土器　（S＝1／3）

第56図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図(7) 弥生土器　（S＝１／３）



第57図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図(8) 土師器　（S＝１／３）



第58図　２区遺構に伴わない出土遺物実測図(9) その他　（S＝１／３）

第26表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（１）（第50図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
50-1	18	２区（包含層）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	１～２㎜程度の砂粒を含む（石英）	良	黄褐色	口縁部の一部のみ残存
50-2	18	２区（包含層）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	２㎜大の砂粒を含む	良	黄褐色	口縁部の一部のみ残存
50-3	18	２区（包含層）	深鉢（縄文土器）		外面:ナデ、条痕? 内面:ナデ		１～２㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	褐　色	口縁部の一部のみ残存

50-4	18	２区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:条痕、ナデ 内面:条痕、ナデ	口縁端部に面を有する	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	外面：黒褐色 内面：褐　色	口縁部の一部のみ残存
50-5	18	２区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:条痕 内面:ナデ		１㎜程度の砂粒を含む	良	外面：黒褐色 内面：褐　色	口縁部の一部のみ残存
50-6	18	２区 (包含層)	深鉢 (縄文土器)		外面:条痕？ 内面:条痕？		１～２㎜程度の白色砂粒を含む	良	外面：黒褐色 内面：褐　色	口縁部の一部のみ残存

第27表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（２）（第51図）

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
51-1	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ、ミガキ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	口縁部の一部のみ残存
51-2		２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ、一部ハケメ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
51-3	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１～２㎜程度の砂粒を含む（石英）	良	褐　色	残存率10%
51-4	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(27.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１～３㎜程度の砂粒を含む（石英）	良	褐　色	残存率10%
51-5	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(19.0)	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１～４㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
51-6		２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(26.4)	外面:ナデ？ 内面:ナデ？	口縁部が外方に屈折	１～２㎜程度の砂粒を含む（石英）	良	褐　色	表面風化のため調整不明瞭、残存率10%
51-7	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(19.8)	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
51-8	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	口縁部が外方に屈折	１～３㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%

第28表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（３）（第52図）

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
52-1	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(24.0)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾅﾃﾞ	凹線文？(１条)、列点文	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	黄褐色	残存率10%
52-2	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(20.6)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ	凹線文？(１条)、列点文	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	灰黄色	残存率20%
52-3	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(18.6)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ		１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	灰黄色	残存率10%
52-4	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ	キザミのある突帯	１㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
52-5	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ	キザミのある突帯	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率30%
52-6	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(20.0)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ	凹線文（２条）、列点文	１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
52-7	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(13.0)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ	凹線文？（２条）	１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
52-8	19	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(12.4)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	凹線文（３条？）	１㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
52-9	20	２区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(20.9)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	凹線文、刺突文	１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
52-10	20	２区 (包含層)	？ (弥生土器)		外面:ﾅﾃﾞ 内面:ﾍﾗｹｽﾞﾘ?	凹線文・(キザミ)	２～４㎜程度の砂粒を多く含む	良	黄褐色	一部のみ残存
52-11	20	２区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	凹線文、刺突文、キザミ、列点文	１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	一部のみ残存

52-12	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ﾖｺﾅﾃﾞ 内面:ﾅﾃ	凹線文、刺突文、列点文	1㎜程度の砂粒を含む	良	黒褐色～ 黄褐色	残存率40%
52-13	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ 内面:ﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	凹線文、刺突文	1～2㎜程度の砂粒を多く含む	良	黒褐色	一部のみ残存

第29表　2区遺構に伴わない出土遺物観察表(4)(第53図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
53-1		2区 (包含層)	壷? (弥生土器)	口径:(12.0)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラミガキ		1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	灰黄色	残存率10%
53-2	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(17.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文(2条)	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
53-3	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(17.8)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文	1～3㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	褐　色	残存率30%
53-4	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(14.6)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文(3条)	1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
53-5		2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(19.8)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文(2条?)	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
53-6	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(13.6)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、ハケメ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文?	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
53-7	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(18.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文(4条)	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
53-8		2区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文	1㎜程度の砂粒を多く含む	良	黄褐色	残存率10%
53-9		2区 (包含層)	甕 (弥生土器)		外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ	拡張された口縁部に凹線文	1～2㎜程度の砂粒を多く含む	良	黄褐色	残存率10%
53-10	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(19.0)	外面:ヨコナデ、粗いハケメ 内面:ヨコナデ、ヘラケズリ	胴部に刺突文	1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率20%
53-11	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(17.0)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	黄褐色	残存率20%
53-12	20	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	口径:(22.0)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ、 ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%

第30表　2区遺構に伴わない出土遺物観察表(5)(第54図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
54-1	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	口径:(17.0)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	口縁部上面に斜格子文、口縁端部にキザミ	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-2	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	口径:(19.7)	外面:ナデ 内面:ヨコナデ	坏部外面に凹線文(7条)、キザミ	1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	淡黄色	残存率10%
54-3	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	口径:(22.2)	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ヨコナデ、ハケメ	坏部外面に凹線文(4条)、キザミ	1～2㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	淡黄色	残存率20%
54-4	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	口径:(22.0)	外面:ナデ? 内面:ナデ?	坏部外面に凹線文?	1㎜程度の砂粒を含む	良	橙　色	表面風化のため調整不明瞭 残存率10%
54-5		2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(15.3)	外面:ナデ? 内面:ナデ?、 ヘラケズリ?	脚部外面に凹線文(7条以上)	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	表面風化のため調整不明瞭 残存率10%
54-6	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(15.0)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	透かし、凹線文(3条)	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率20%
54-7	21	2区 (包含層)	高坏? (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ(ヘラケズリ?)	(櫛描き)直線文、円孔	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-8		2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(16.1)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ	脚端部に凹線文状の凹み	1㎜程度の砂粒を含む	良	灰黄色	残存率10%

54-9		2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(15.4)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	脚端部に凹線文 (7条以上)	1㎜程度の砂粒を多く含む	良	淡黄色	表面風化のため調整不明瞭 残存率10%
54-10	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(14.0)	外面:ヘラミガキ、ハケメ? 内面:ナデ、ヘラケズリ	脚端部に凹線文 (1条?)、キザミ	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-11	21	2区 (包含層)	高坏 (弥生土器)	底径:(14.5)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ、ヘラケズリ	脚端部に凹線文 (2条)	1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	淡黄色	残存率10%
54-12		2区 (包含層)	高坏? (弥生土器)		外面:ヘラミガキ 内面:ヘラミガキ	凹線文、キザミ	1㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率20%
54-13		2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(6.4)	外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラミガキ?		1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-14	21	2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(5.5)	外面:ヘラミガキ? 内面:ナデ	低部外面に沈線	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-15		2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(5.6)	外面:ヘラミガキ? 内面:ヘラケズリ?		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	黒黄色	残存率10%
54-16		2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(7.0)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-17		2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(6.0)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ		1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-18		2区 (包含層)	(底部) (弥生土器)	底径:(6.4)	外面:ヘラミガキ 内面:ナデ、一部ヘラケズリ		1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
54-19	21	2区 (包含層)	甕 (弥生土器)	底径:(7.2)	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ、ヘラケズリ		1～3㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率40%
54-20	21	2区 (包含層)	鉢? (弥生土器)	口径:(12.2)	外面:ナデ 内面:ナデ、ハケメ	凹線文、キザミ	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率50%
54-21	21	2区 (包含層)	紡錘車		外面:ナデ		1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	ほぼ完形

第31表　2区遺構に伴わない出土遺物観察表(6)(第55図)

口径(　)の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
55-1	22	2区 (包含層)	壺? (弥生土器)	口径:(15.4)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ		1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
55-2	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(13.0)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	口縁部内面に斜格子文	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
55-3	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(24.6)	外面:ナデ 内面:ナデ	口縁端部に刺突文	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
55-4	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(29.2)	外面:ナデ、ハケメ 内面:ヨコナデ	口縁部に凹線文 (外面3条・内面2条)	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%
55-5	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(28.0)	外面:ヨコナデ 内面:ナデ?	口縁部に凹線文 (3条)	1～2㎜程度の砂粒を含む(石英)	良	淡黄色	表面風化のため調整不明瞭 残存率10%
55-6	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(29.6)	外面:ヨコナデ 内面:ヨコナデ	口縁部に凹線文、櫛描き波状文	1㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
55-7	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)	口径:(29.0)	外面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾊｹﾒ? 内面:ヨコナデ	口縁部に凹線文、櫛描き波状文	1～3㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
55-8	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ	頸部から胴部にかけて凹線文(4条)、列点文、へら描き斜線	1～2㎜程度の砂粒を含む	良	褐　色	残存率10%
55-9	22	2区 (包含層)	壺 (弥生土器)		外面:ナデ 内面:ｹｽﾞﾘ、ﾊｹﾒ、ﾍﾗﾐｶﾞｷ、ﾅﾃﾞ	頸部から胴部にかけて直線文、刺突文、へら描き斜線	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色	残存率10%

第32表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（７）（第56図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
56-1	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ、ハヘメ 内面:ナデ、ハケメ	櫛描流水文	１㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
56-2	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ 内面:ナデ、ハケメ	凹線文、刺突文 櫛描流水文		良	明褐色	残存率10%
56-3	23	２区（包含層）	壺？（弥生土器）		外面:ナデ、ハヘメ 内面:ナデ、ハケメ	櫛描流水文？ 刺突？	１㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
56-4	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ 内面:ナデ	櫛描流水文	１㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	明褐色	残存率10%
56-5	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ、ハヘメ 内面:ナデ、ハケメ	櫛描流水文、凹線文刻目	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
56-6	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ、ハヘメ 内面:ナデ、ハケメ	櫛描流水文、凹線文刻目	１㎜程度の砂粒を含む	良	黒褐色～明褐色	残存率10%
56-7	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ、ハケメ 内面:ナデ	凹線文、キザミ	１㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
56-8	23	２区（包含層）	壺（弥生土器）		外面:ナデ、ハケメ 内面:ﾅﾃﾞ、ﾊﾍﾒ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	凹線文、流水文 刺突文		良	赤褐色	残存率40%

第33表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（８）（第57図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
57-1		２区（包含層）	甕（土師器）	口径:(29.6)	外面:ヨコナデ、ハケメ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ	刺突文？	１～２㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄色～明褐色	残存率10%
57-2		２区（包含層）	甕（土師器）	口径:(16.6)	外面:ヨコナデ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ		１㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
57-3		２区（包含層）	甕？（土師器）	口径:(21.4)	外面:ナデ 内面:ナデ		１～２㎜程度の砂粒を含む	良	明褐色	残存率10%
57-4		２区（包含層）	甕（土師器）	口径:(22.6)	外面:ヨコナデ 内面:ﾖｺﾅﾃﾞ、ﾍﾗｹｽﾞﾘ		１～２㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%

第34表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表（９）（第58図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
58-1		２区（包含層）	坏(高台付)（中世土器）	底径:(5.2)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ		１㎜程度の砂粒を含む	良好	淡黄色	

第35表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表(10)（第58図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	器　種	法　量（cm）			特徴および文様・施釉	推定生産地	残　存　量
					口径	底径	器高			
58-2		２区（包含層）	磁　器	皿				端反皿と考えられる	中　国	口縁部の一部のみ残存
58-3		２区（包含層）	磁　器	碗				三ヶ月高台 高台以外に施釉	肥　前	底部の一部が残存
58-4		２区（包含層）	磁　器	碗				外面に界線 見込みに施文	中国（景徳鎮？）	底部の一部が残存
58-5		２区（包含層）	磁　器	碗	12.0	3.7	4.4	見込みの部分は釉ハギ 高台部分は釉がかからない	肥　前	40%程度の残存
58-6		２区（包含層）	陶　器	碗		4.7			肥　前	底部が残存
58-7		２区（包含層）	陶　器	碗					肥　前	底部の一部が残存

第36表　２区遺構に伴わない出土遺物観察表(11)（第58図）

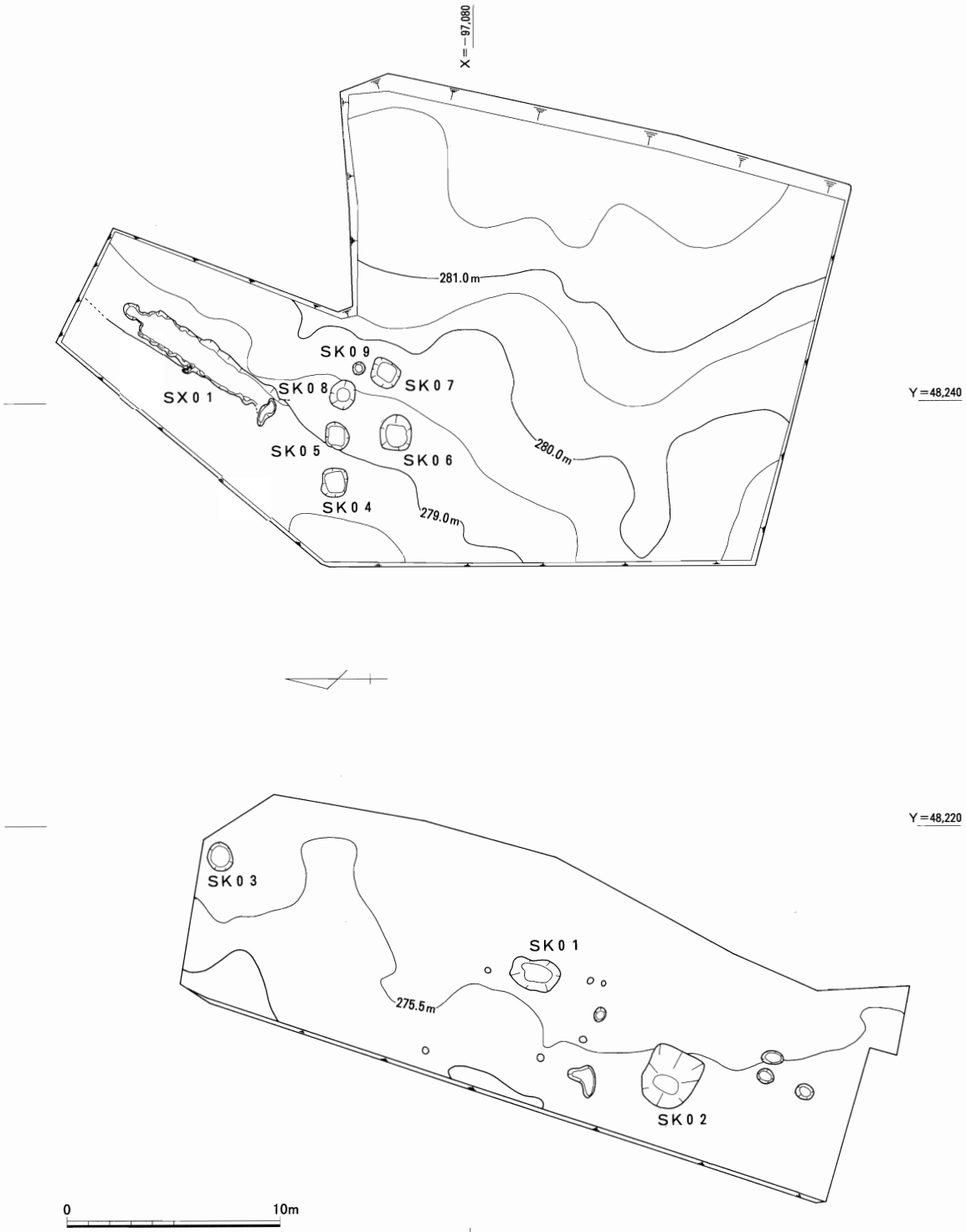
挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	備　　考
58-8		２区	打製石斧	15.7	9.1	1.8	
58-9		２区	叩　石	14.6	6.9	5.0	

第５節　３区の調査

３区は２区のさらに南側に位置する調査区である。調査前は地形が３段に加工されており、水田や荒地となっていた。この３段のうち、中段を除く上下２段の面から遺物の出土がみられたため、この部分について調査をおこなった。神戸川からの比高は上段が22ｍ～23ｍ、下段で18.5ｍを測る。

基本的な土層の層序は水田造成時の盛土、黒色土、ハイカとなっているが、上段では黒色土の中に礫の含まれた層も確認された。また第２黒色土層の検出を行ったが、確認されなかったためそれ以下の層の調査は行っていない。

調査の結果、土坑や炭窯状の遺構を確認した。以下各遺構・遺物について報告する。



第59図　３区遺構配置図・地形測量図　（Ｓ＝１／300）

ＳＫ０１（第60図、第37表）

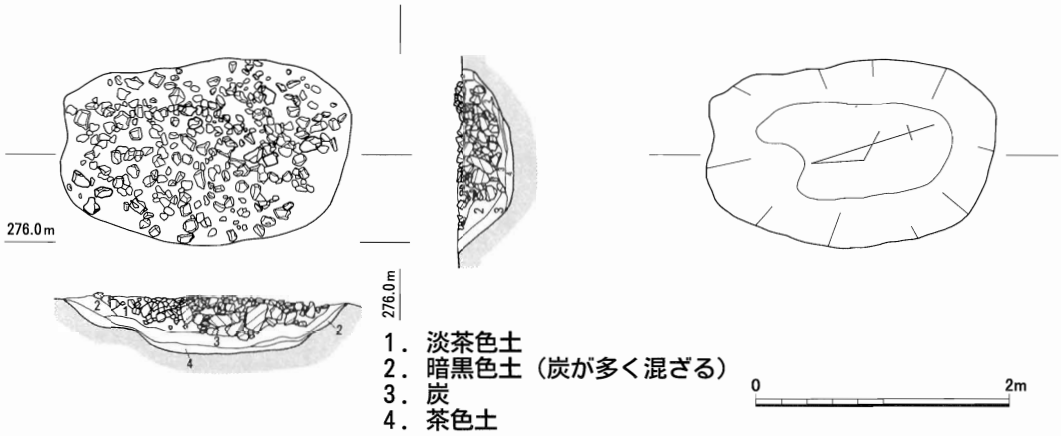
３区下段の中央付近で検出した土坑である。平面形は不整楕円形を呈しており、規模は、長軸2.2ｍ、短軸1.5ｍ、深さ0.5ｍを測る。土坑内には大きさが10㎝程度の焼石が多量に入っており、その下の層には炭を含む層が堆積している状況が確認された。遺構に伴う遺物は確認されていない。

この土坑の性格については、これまでの調査などから麻蒸施設に関係した遺構と考えられる。(註8)

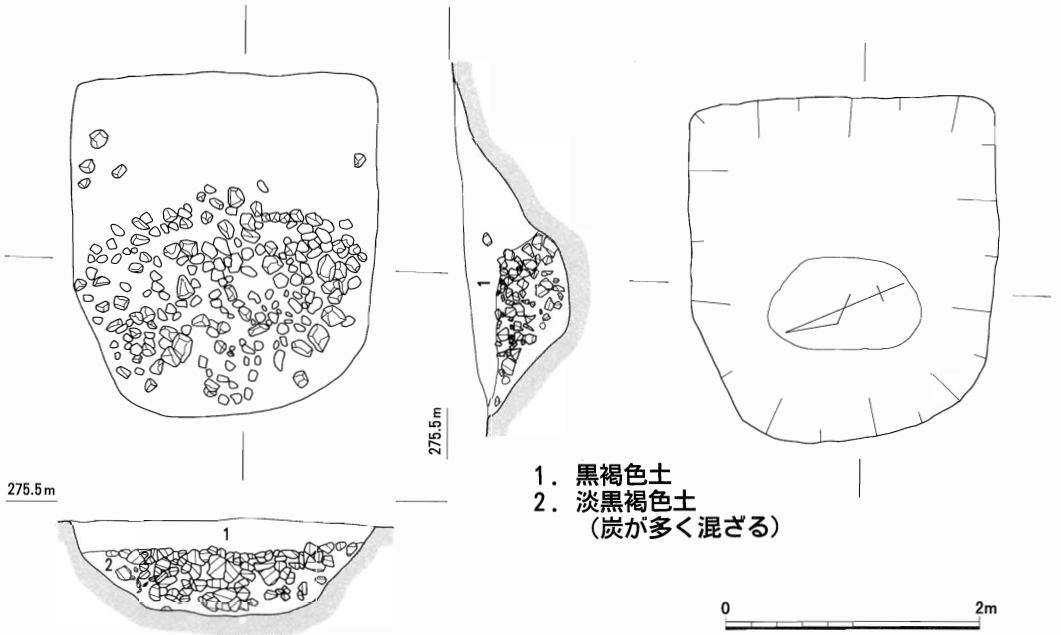
ＳＫ０２（第61図、第37表）

３区下段、ＳＫ０１からやや南に位置している。平面形は、円形と方形を組み合わせたような不整形な形を呈しており、規模は長軸2.7ｍ、短軸2.3ｍ、深さ0.7ｍを測る。ＳＫ０１と同様に大きさが10㎝程度の焼石が多量に入っており、また炭を多量に含む層も確認された。遺構に伴う遺物は確認されていない。

この土坑の性格についても、ＳＫ０１同様麻蒸施設に関係した遺構と考えられる。



第60図　３区ＳＫ０１実測図　（Ｓ＝１／60）



第61図　３区ＳＫ０２実測図　（Ｓ＝１／60）

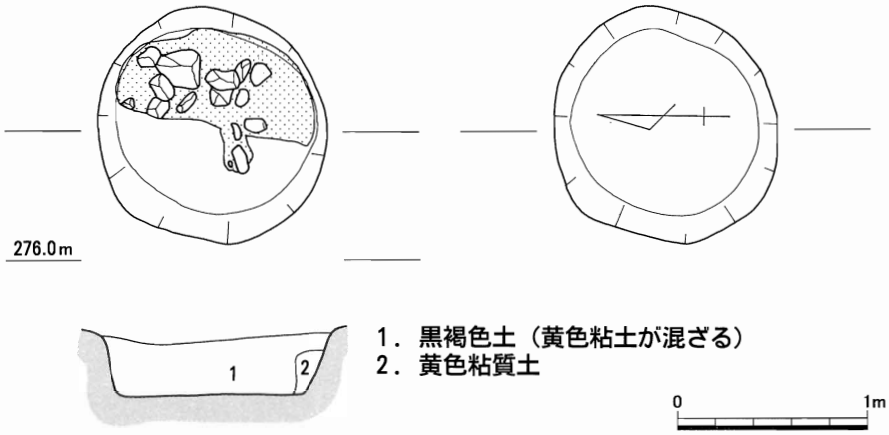
第37表　３区ＳＫ０１・ＳＫ０２計測表

（単位はｍ）

遺構名	平面形	規模（長軸×短軸×深さ）	出土遺物	備　　考
ＳＫ０１	楕円形	2.2 × 1.5 × 0.5		炭、焼石を多く含む
ＳＫ０２	不整形	2.7 × 2.3 × 0.7		炭、焼石を多く含む

ＳＫ０３（第62図、第38表）

３区下段の北側で検出した土坑である。平面形は円形で、規模は径1.2ｍ、深さ0.3ｍを測るが、本来はもう少し上面から掘り込まれていたものと思われる。この土坑内からは10㎝程度の角礫が確認され、また内面の一部には粘土が貼られている状況が確認されたが、残存状況があまりよくないため詳細は不明である。この遺構に伴う遺物は確認されていない。



第62図　３区ＳＫ０３実測図　（Ｓ＝１／40）

第38表　３区ＳＫ０３計測表

（単位はｍ）

遺構名	平面形	規模（長軸×短軸×深さ） （底面規模）	出土遺物	備　　考
ＳＫ０３	円形	1.2 × 1.2 × 0.3 1.0 × 1.0		本来は粘土貼りであったと考えられる

ＳＫ０４～ＳＫ０９（第63図、第39表）

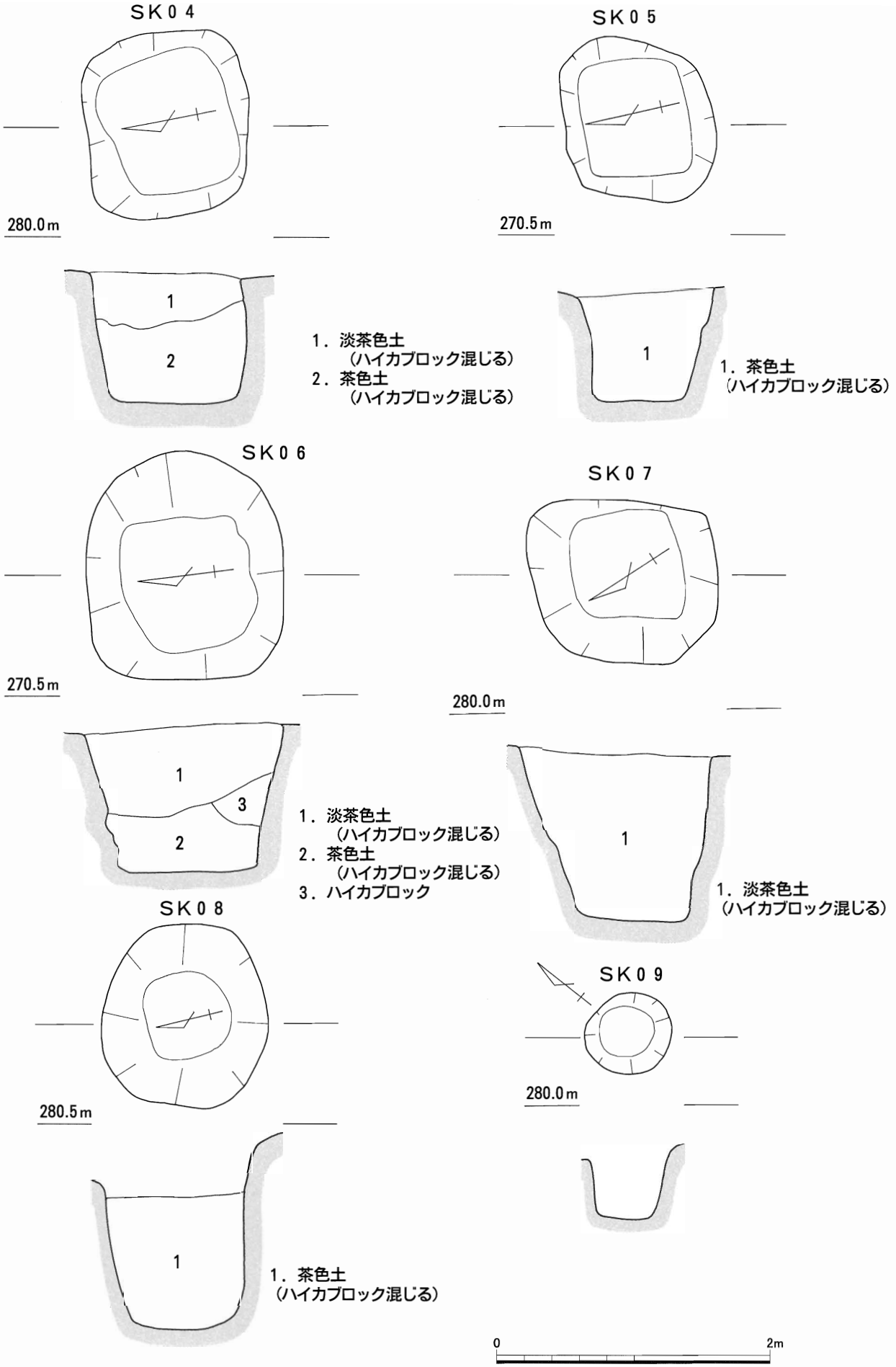
３区上段において検出した土坑群である。各土坑の詳細と出土遺物については第39表に記載している。概観すると平面形は、ＳＫ０８、ＳＫ０９がほぼ円形を呈しているものの、それ以外は方形を基調としている。規模は、ＳＫ０９が径約60㎝、深さ50㎝と小さめであるが、ほかの５基はほぼ同じ大きさで長さ（註９）（径）約1.2～1.7ｍ、深さ0.8～1.2ｍを測る。遺物はＳＫ０９以外のすべてから出土し、銭貨や煙管、鉄釘などがみられる。

これらの土坑の性格については出土遺物などから近世墓であるものと考えられる。ただしＳＫ０９については規模もほかのものと比べて小さく、また出土遺物もないために現状ではわからない。

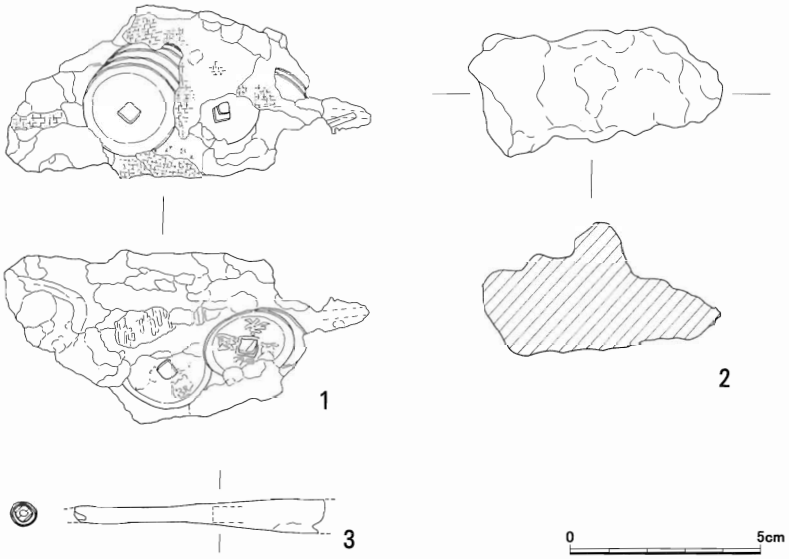
第39表　３区ＳＫ０４～ＳＫ０９計測表

（単位はｍ）

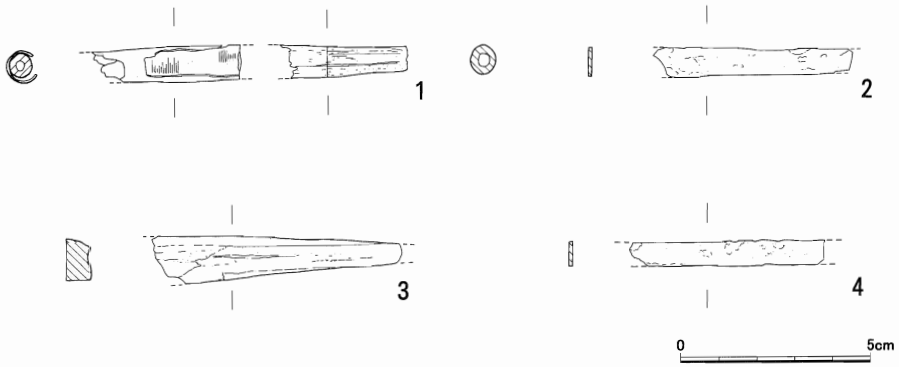
遺構名	平面形	規模（長軸×短軸×深さ） （底面規模）	出土遺物	備　　考
ＳＫ０４	方形	1.4 × 1.2 × 1.0 (1.0 × 0.9)	鉄釘・煙管・鉄滓 古銭（寛永通寶）10以上	
ＳＫ０５	方形	1.2 × 1.1 × 0.8 (0.9 × 0.8)	鉄釘・煙管・小刀？ 古銭（寛永通寶）18	
ＳＫ０６	方形	1.6 × 1.4 × 1.1 (1.0 × 0.9)	鉄釘・煙管・鉄滓・小刀？ 古銭（寛永通寶）12	
ＳＫ０７	方形	1.4 × 1.2 × 1.2 (0.8 × 0.8)	鉄釘・煙管・古銭（寛永通寶）10	
ＳＫ０８	円形	1.2 × 1.2 × 1.1 (0.6 × 0.6)	鉄釘・古銭（寛永通寶）7	
ＳＫ０９	円形	0.6 × 0.6 × 0.5 (0.4 × 0.4)		SK04～SK08に比べ小規模である



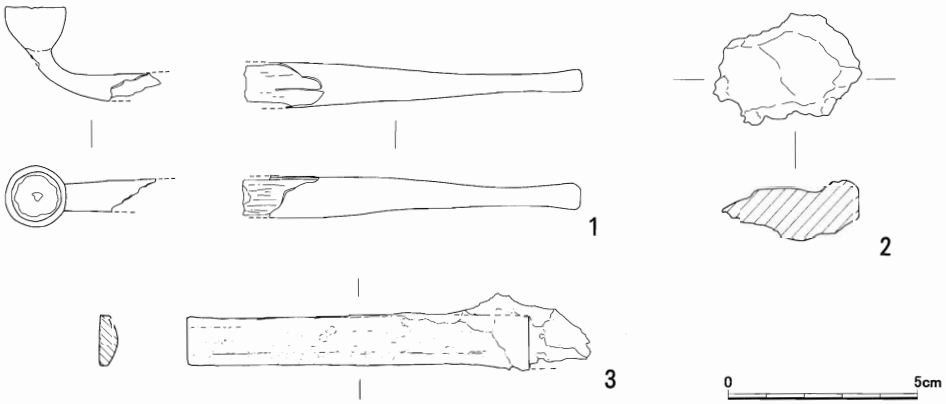
第63図　３区ＳＫ０４～ＳＫ０９実測図　（Ｓ＝１／40）



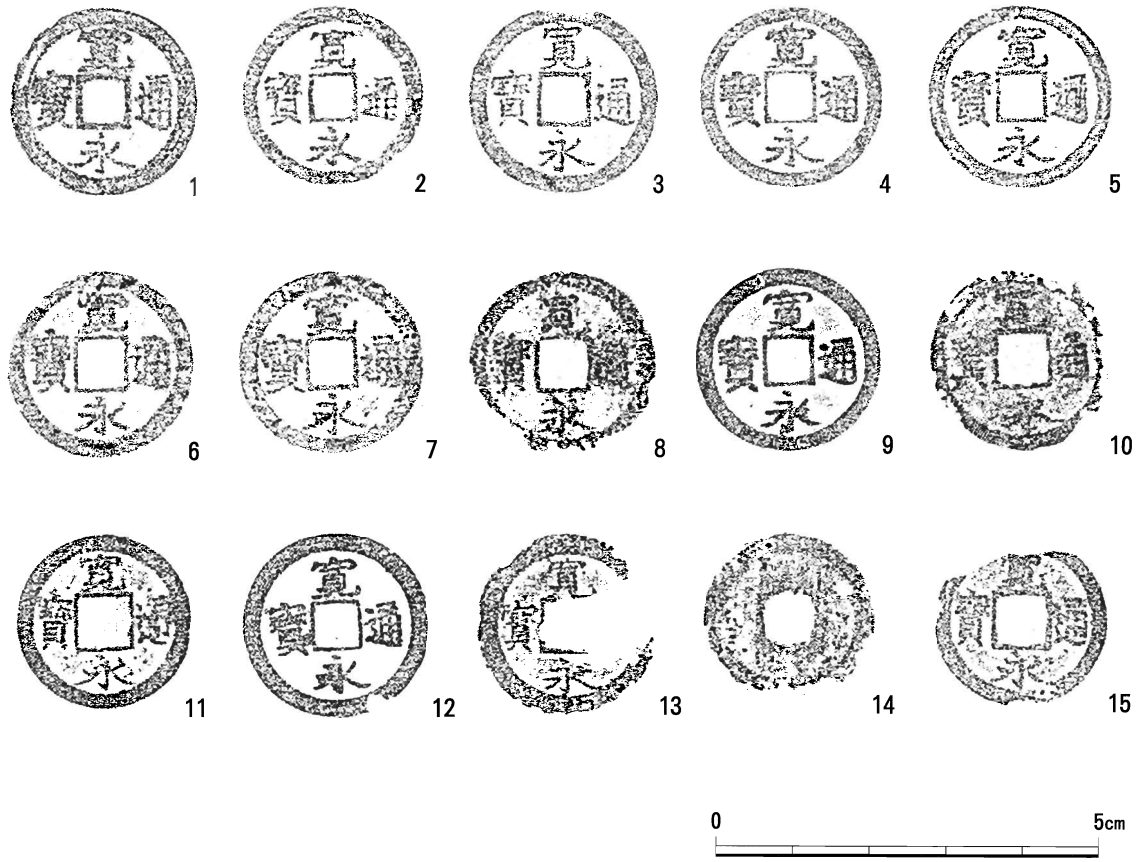
第64図　３区ＳＫ０４出土遺物実測図　（Ｓ＝１／２）



第65図　３区ＳＫ０５出土遺物実測図　（Ｓ＝１／２）



第66図　３区ＳＫ０６出土遺物実測図　（Ｓ＝１／２）

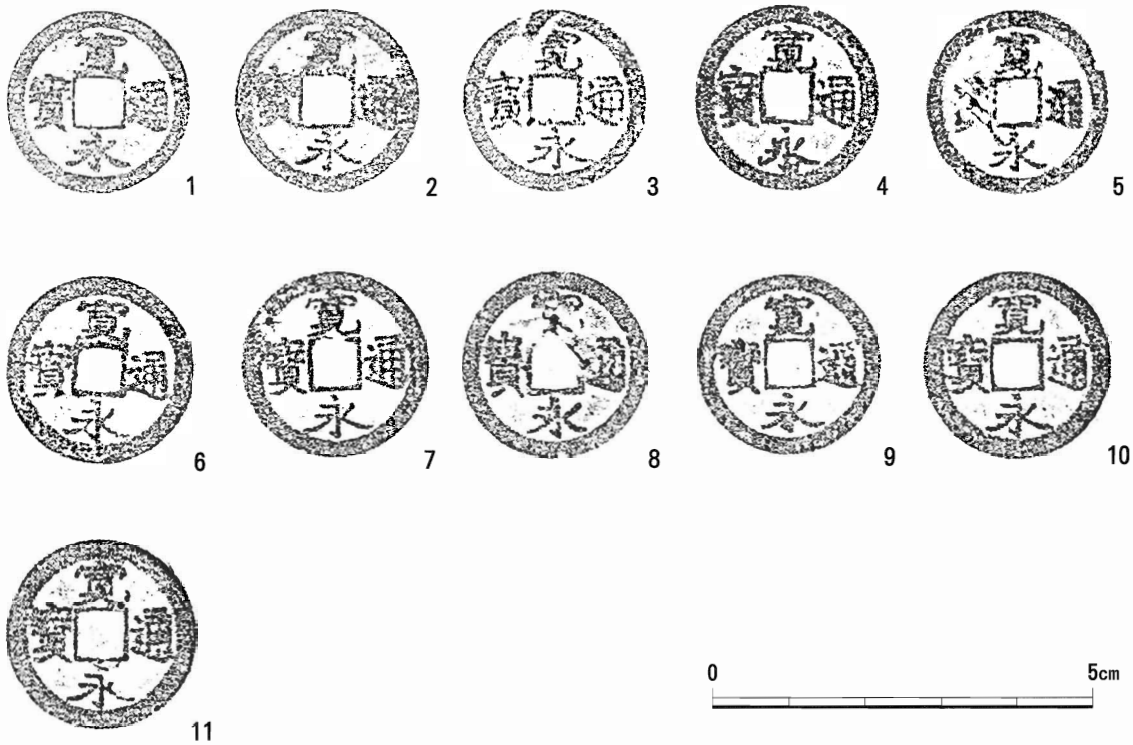


第67図　３区ＳＫ０５出土銭貨拓本　（Ｓ＝１／１）

第40表　ＳＫ０５出土銭貨計測表

No.	挿図番号	出土地	名　称	初鋳年	銭径(A)/銭径(B)（mm）		銭径(C)/銭径(D)（mm）		銭　厚（mm）	量目（g）	備　考
1	67-1	ＳＫ０５	寛永通寶		25.05	25.08	20.20	19.63	1.12～1.26	3.10	
2	67-2	ＳＫ０５	寛永通寶		24.04	24.12	19.72	19.43	1.21～1.30	3.45	
3	67-3	ＳＫ０５	寛永通寶		25.32	25.31	20.58	20.43	1.52～1.63	4.71	
4	67-4	ＳＫ０５	寛永通寶		24.31	24.27	20.13	19.86	1.38～1.58	4.46	
5	67-5	ＳＫ０５	寛永通寶		24.62	24.54	20.58	20.26	1.17～1.34	3.11	
6	67-6	ＳＫ０５	寛永通寶		25.17	25.11	20.36	19.92	1.20～1.42	2.27	
7	67-7	ＳＫ０５	寛永通寶		24.70	24.61	19.76	19.38	1.19～1.36	3.47	
8	67-8	ＳＫ０５	寛永通寶		24.15	24.77	20.63?	20.16	＊	2.78	８と９重なっている
9		ＳＫ０５	＊		＊		＊		＊		
10	67-9	ＳＫ０５	寛永通寶		24.51	24.57	20.36	19.97	1.22～1.32	3.66	
11	67-10	ＳＫ０５	寛永通寶		＊		20.22？	20.21	＊	5.20	11と12重なっている
12		ＳＫ０５	＊		＊		＊		＊		
13	67-11	ＳＫ０５	寛永通寶		23.33	23.29	18.97	18.89？	1.16～1.20	2.57	
14	67-12	ＳＫ０５	寛永通寶		＊	24.76	＊	19.96	1.01～1.03	1.80	

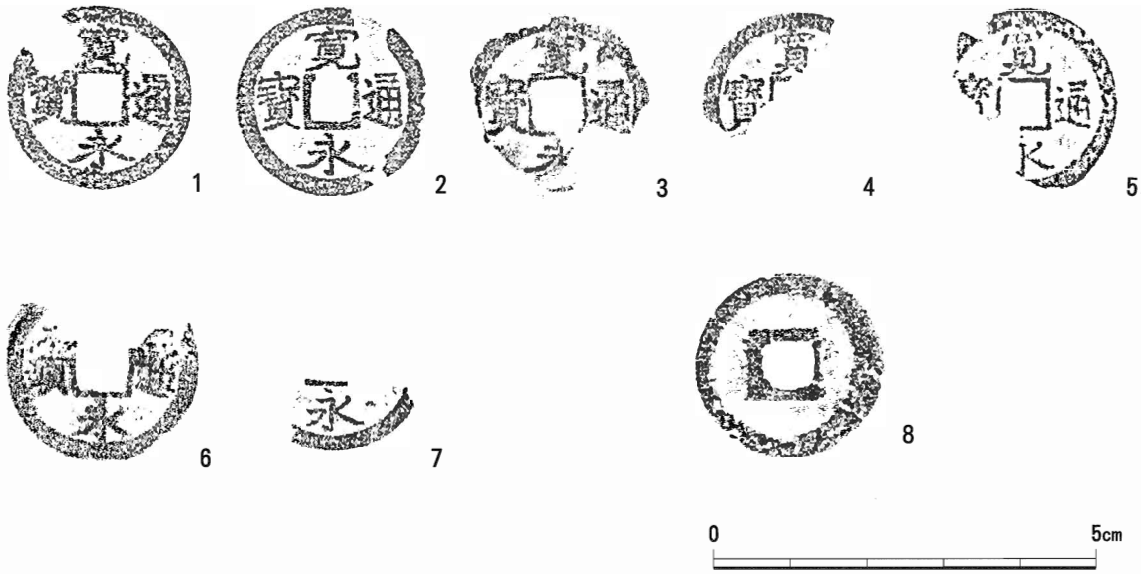
15	67-13	SK05	寛永通寶		*	18.67 *	1.08～1.13	1.16	
16	67-14	SK05	*		*	*	*	2.44	16と17重なっている
17		SK05	*		*	*	*		
18	67-15	SK05	寛永通寶		* 23.00	* 19.02	0.83～0.92	1.32	



第68図　３区ＳＫ０６出土銭貨拓本　（Ｓ＝１／１）

第41表　ＳＫ０６出土銭貨計測表

No.	挿図番号	出土地	名　称	初鋳年	銭径(A)/銭径(B) (mm)	銭径(C)/銭径(D) (mm)	銭　厚 (mm)	量目 (g)	備　考
1	68-1	SK06	寛永通寶		24.48 24.29	19.51 19.54	0.96～1.15	2.98	
2	68-2	SK06	寛永通寶		24.39 24.43	19.61 19.75	1.12～1.22	3.05	
3	68-3	SK06	寛永通寶		24.48 24.43	19.61 19.60	1.03～1.20	2.98	
4	68-4	SK06	寛永通寶		24.30 24.29	19.90 19.59	0.99～1.23	2.97	
5	68-5	SK06	寛永通寶		24.50 24.21	19.91 19.56	*	6.94	５と６重なっている
6		SK06	*		*	*	*		
7	68-6	SK06	寛永通寶		24.97 24.99	19.79 19.91	1.15～1.23	3.80	
8	68-7	SK06	寛永通寶		24.71 24.69	19.69 20.04	1.04～1.09	2.98	
9	68-8	SK06	寛永通寶		24.88 24.89	19.95 19.97	1.13～1.21	2.97	
10	68-9	SK06	寛永通寶		24.39 24.31	19.71 19.72	1.21～1.33	2.95	
11	68-10	SK06	寛永通寶		24.99 25.01	19.69 19.68	1.18～1.25	3.65	
12	68-11	SK06	寛永通寶		25.23 25.22	19.99 19.83	0.92～1.03	2.99	



第69図　３区ＳＫ０７・ＳＫ０８出土銭貨拓本　（Ｓ＝１／１）

第42表　ＳＫ０７出土銭貨計測表

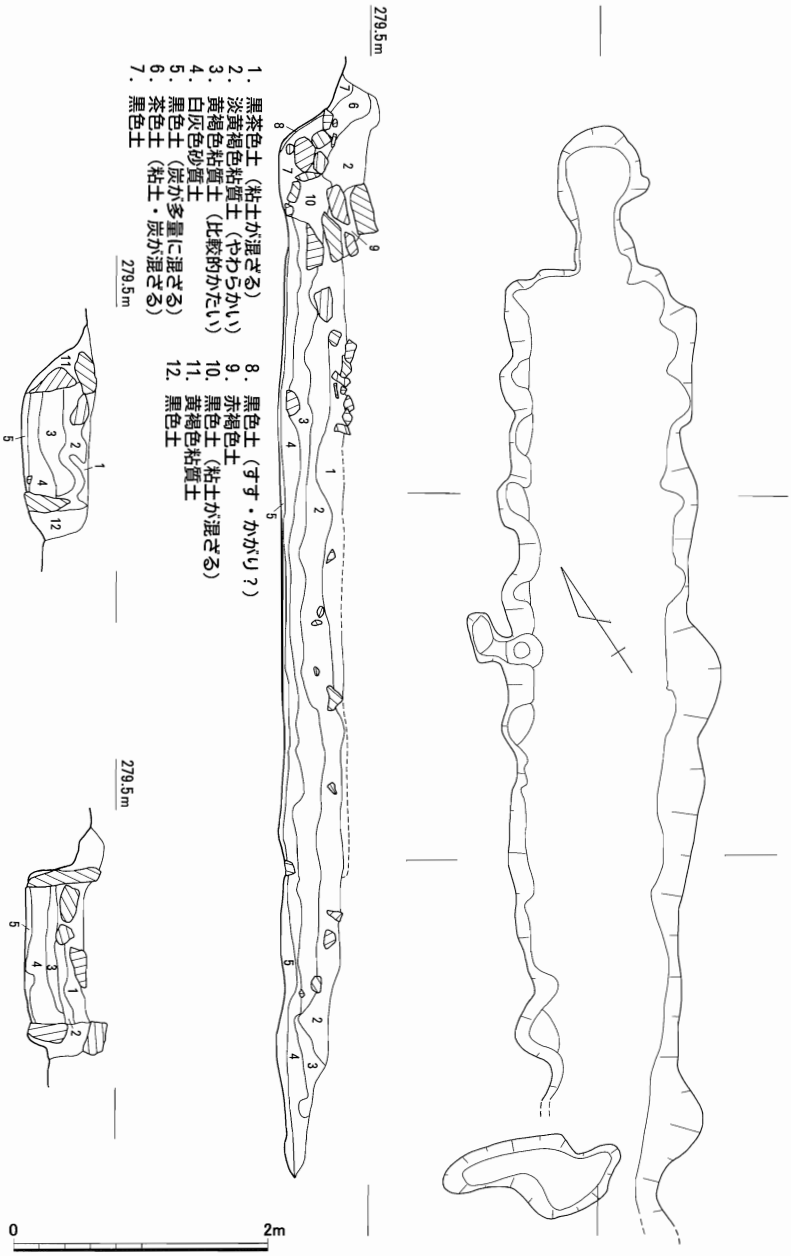
No.	挿図番号	出土地	名　称	初鋳年	銭径(A)/銭径(B)（mm）	銭径(C)/銭径(D)（mm）	銭　厚（mm）	量目（g）	備　考
1	69-1	ＳＫ０７	寛永通寶		24.48　24.49	19.49　19.47	1.23～1.34	2.43	
2	69-2	ＳＫ０７	寛永通寶		25.02　25.04	20.52　20.18	*	8.15	2・3・4・5 4枚重なっている
3		ＳＫ０７	*		*	*	*		
4		ＳＫ０７	*		*	*	*		
5		ＳＫ０７	*		*	*	*		
6	69-3	ＳＫ０７	寛永通寶		*	*	*	1.34	6と7重なっている
7	69-4	ＳＫ０７	寛永通寶		*	*	*		
8	69-5	ＳＫ０７	寛永通寶		*	*	1.21～1.29	1.77	
9	69-6	ＳＫ０７	寛永通寶		*	*	1.07～1.11	2.21	
10	69-7	ＳＫ０７	寛永通寶		*	*	1.28～1.31	0.32	

第43表　ＳＫ０８出土銭貨計測表

No.	挿図番号	出土地	名　称	初鋳年	銭径(A)/銭径(B)（mm）	銭径(C)/銭径(D)（mm）	銭　厚（mm）	量目（g）	備　考
1	69-8	ＳＫ０８	*		*	*	*	3.15	1と2重なっている
2		ＳＫ０８	*		*	*	*		
3		ＳＫ０８	*		*	*	*		
4		ＳＫ０８	*		*	*	*		
5		ＳＫ０８	*		*	*	*		
6		ＳＫ０８	*		*	*	*		
7		ＳＫ０８	*		*	*	*		

ＳＸ０１

３区上段の北西側、標高279ｍのところ等高線にほぼ平行に地山を掘り込んで構築されている。本遺構からは多量の炭化物が確認されており、また形態等からも半地下式の炭窯である可能性が高いものと判断し以下報告する。平面形はほぼ長方形を呈し、規模は全長8.7ｍ、炭化室奥行き約7.0ｍ、炭化室床面幅は焚口側で1.1ｍ、奥壁側で0.8ｍを測る。高さは天井部分が元の状態を保っていないために明らかでない。調査段階では東側壁面の高さは40㎝～70㎝程度であった。炭化室側壁面には、東側壁面中央部を除いて石が立て並べられており、一部にはその上にさらに石が積まれている状況が確認できた。周辺からはこの壁面に用いられている石と同様の石が散乱しており、本来はもう数段積まれていたことも考えられる。煙出し部は奥行き約１ｍ、幅約50㎝で、炭化室床面に対

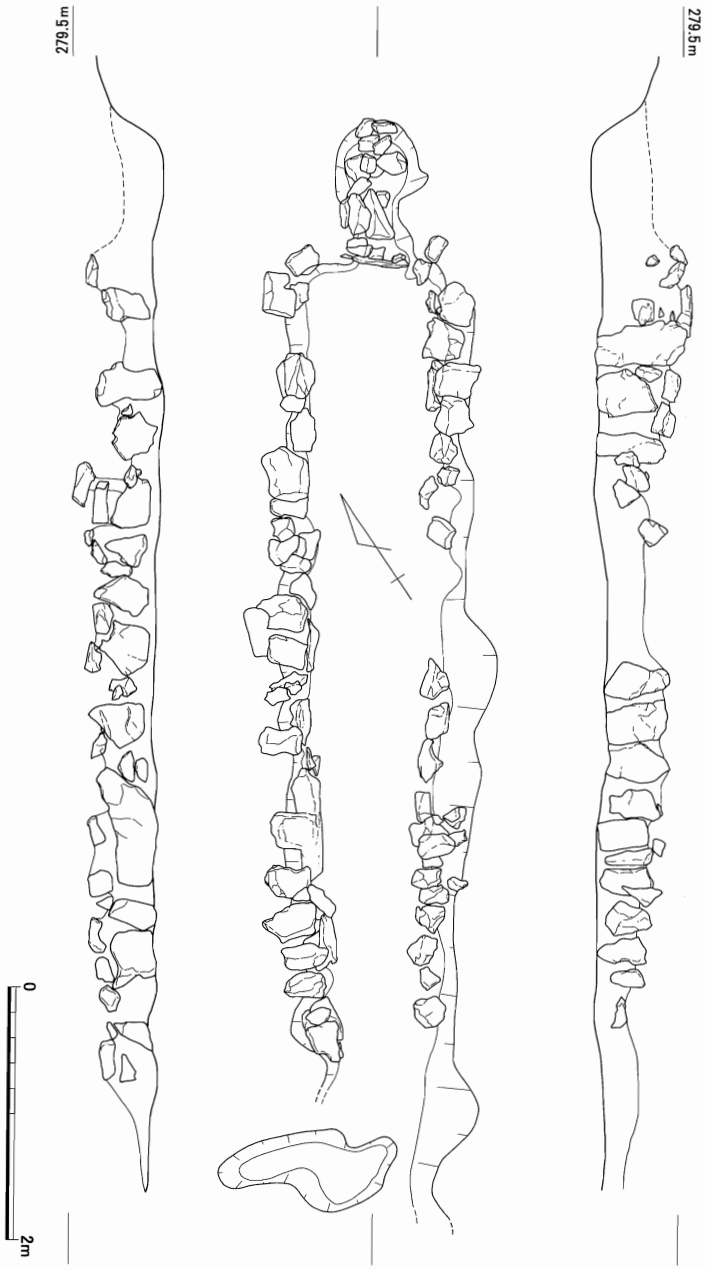


第70図　３区ＳＸ０１実測図(1)　（Ｓ＝１／60）

して50°の傾斜をもって掘られている。底面は円形に近い。煙出し部分にも石がみられ、石を積み上げることによって煙道の一部が構築されていたことが推測されるが、残存状況が悪くはっきりとしたことは不明である。炭化室の壁面の石は全体的に被熱しているものの、中央よりやや煙出し部側にかけては青灰色を呈していて強く焼けている状況が確認された。炭化室内には上層で粘土塊が、その下層で木炭片や木炭粉が堆積していた。粘土塊や粘土は天井部に由来するものと考えられる。

また焚口部の西側では長さ約1.5m、幅約50cmの不整形な浅い窪みが確認されたが、これはこの炭窯に何らかの関わりをもつものと考えられる。

この炭窯の時期については、熱残留磁気年代測定等が行えなかったため不明である。類例などから推測して近世以前のものである可能性が高いと考えられる。(註10)

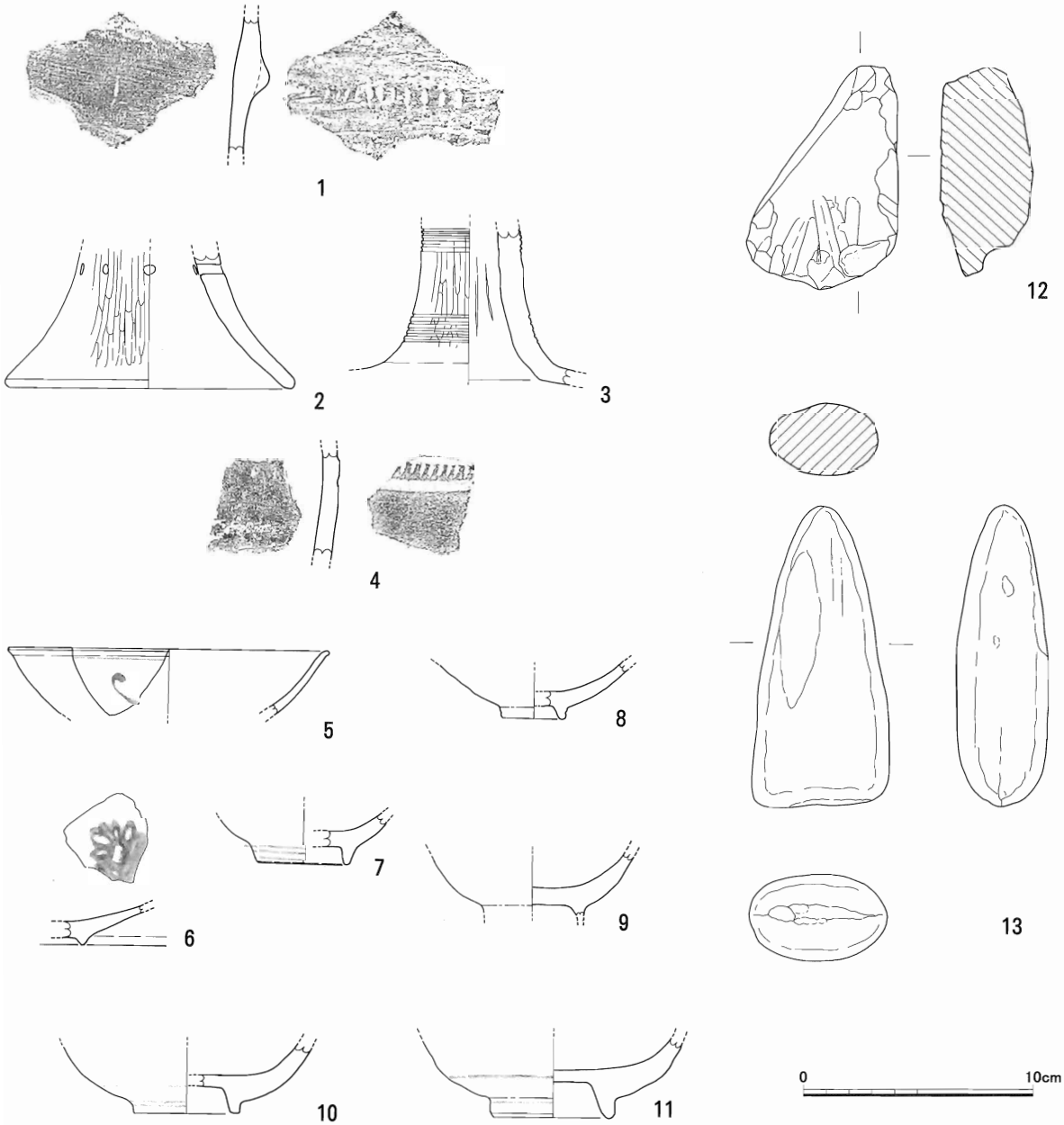


第71図　3区ＳＸ０１実測図(2)　（Ｓ＝１／60）

遺構に伴わない遺物

３区においても縄文土器、弥生土器、陶磁器類、石器などが出土しているものの、ほかの調査区と比べると量は少ない。ただし、出土した遺物は、時期的には周辺のものと同様の傾向をみせている。

１は縄文土器と考えられる。破片は口縁部よりわずかに下がった部分と考えられ、キザミのある突帯を有している。２～４は弥生土器である。２・３は高坏の脚部で、外面はヘラミガキがなされ、２には円形の透かし、３には直線文が認められる。４は壺または甕の胴部破片と考えられ、凹線文とキザミが施されている。５～11は陶器・磁器類である。破片が小さいためはっきりしない部分も多いが、５と７～９が磁器碗、６が磁器皿、10・11が陶胎染付の碗で、肥前系と考えられる。12・13は石器で、それぞれ砥石、磨製石斧と考えられる。



第72図　３区遺構に伴わない出土遺物実測図　（Ｓ＝１／３）

これらの時期は、1が縄文時代晩期、2～4が弥生時代中期後葉、6・7が17世紀代、8～11が18世紀代と考えられる。

第44表　3区遺構に伴わない出土遺物観察表（1）（第72図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	法量(cm)	調　整	特　徴	胎　土	焼成	色　調	備考
72-1	25	3区(包含層)	深鉢(縄文土器)		外面:条痕、ナデ 内面:ナデ	キザミのある突帯	1㎜程度の砂粒を含む	良	黄褐色	残存率10%
72-2	25	3区(包含層)	高坏(弥生土器)	底径: 12.0	外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ	円形透かし(10?)	1㎜程度の砂粒をわずかに含む	良	淡黄褐色	残存率10%
72-3	25	3区(包含層)	高坏(弥生土器)		外面:ナデ、ヘラミガキ 内面:ナデ	(櫛描) 直線文	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄褐色	残存率10%
72-4	25	3区(包含層)	壷か甕(弥生土器)		外面:ナデ 内面:ナデ、ヘラケズリ	刺突文?・凹線文?	1㎜程度の砂粒を含む	良	淡黄褐色	残存率10%

第45表　3区遺構に伴わない出土遺物観察表（2）（第72図）

口径（　）の数値は復元径

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	器　種	法　量（cm）			特徴および文様・施釉	推定生産地	残　存　量
					口径	底径	器高			
72-5	25	3区(包含層)	磁　器	碗	(13.6)				肥前?	口縁～体部にかけて残存
72-6	25	3区(包含層)	磁　器	皿?				低い高台の内面に砂	肥前?	底部の一部が残存
72-7	25	3区(包含層)	磁　器	碗					肥　前	口縁～体部にかけて残存
72-8	25	3区(包含層)	磁　器	碗		(2.7)		見込みの部分は釉ハギ	肥　前	
72-9	25	3区(包含層)	磁　器	碗		(4.0)			肥　前	底部が残存
72-10	25	3区(包含層)	陶　器	碗					肥　前	口縁～体部にかけて残存
72-11	25	3区(包含層)	陶　器	碗		(5.2)			肥　前	底部が残存

第46表　3区遺構に伴わない出土遺物観察表（3）（第72図）

挿図番号	写真図版	出土地点	種　別	長さ(cm)	幅　(cm)	厚さ(cm)	備　　考
72-12	25	3区(包含層)	砥　石	10.0	6.7	4.0	
72-13	25	3区(包含層)	磨製石斧	13.3	6.1	4.0	

第6節　まとめ

神原Ⅱ遺跡の調査は平成9（1997）年度より開始され、これまでに多くの遺構・遺物の存在が明らかとなっている。[註11] 前節において報告してきたとおり、平成9（1997）年度の調査においても縄文時代～近世にいたる遺構・遺物を確認し、この地域の歴史を明らかにしていくうえでの貴重な資料を得ることができた。ここでは今回の調査結果について時代ごとにまとめてみたい。

1．縄文時代の遺構・遺物について

縄文時代の遺構・遺物として確認できたのは、晩期と考えられる少量の縄文土器片及び第2黒色土中の土器片のみで、それ以外に顕著な遺構・遺物は確認できなかった。平成9（1997）年度～平成12（2000）年度にかけて行なわれた神原Ⅱ遺跡のほかの調査区を含め、周辺遺跡で行われた調査においては多くの縄文時代の遺構・遺物が確認されていることからすると量的に少なく、また時期的にも限られていることが指摘できる。このことは、調査面積など考慮しなければならない点はあるものの、第1黒色土・第2黒色土ともに言えることである。縄文時代における人々の活動の痕跡は認めるとしても、今回の調査区付近は安定的な生活場所としては選ばれなかったことを示しているものと考えられる。この河岸段丘における縄文時代の居住域は、平成9・10（1997・1998）年度に行われた調査から、段丘の中央から南西部にかけて存在している可能性が高いと判断される。

2．弥生時代の遺構・遺物について

弥生時代の遺構・遺物としては主に2区において建物跡及び多くの弥生土器を確認した。弥生土器は縄文土器に比べるとその出土量が格段に多く、なかでも中期後半代のものが圧倒的に多いことが指摘できる。また、建物跡もその出土遺物から弥生時代中期後半代のものと考えられ、この時代から今回の調査区付近に人々が生活しはじめたことをうかがわせている。同じ河岸段丘にあるほかの調査区や神原Ⅰ遺跡、対岸の門遺跡においてもそのような傾向があることから、神戸川を挟むこの河岸段丘一帯でこの時期に本格的に集落が営まれ始めたことを示していると考えられよう。

こうした中期後半代の状況に対し、前期～中期前半代のものは今回の調査区においては遺構・遺物とも確認しておらず、様相を知る手がかりを得ることができなかった。ただし周辺の遺跡では、北に約600ｍのところにある板屋Ⅲ遺跡、また南に約2㎞のところにある小丸遺跡などにおいて前期の遺物が確認されていることから、今回の調査区以外において存在する可能性も考えられる。

ところで、検出された建物跡2棟はどちらも平面形が円形で、規模が径約4.0ｍ～6.0ｍのものである。形態・規模等は一般的な建物跡と考えられるが、注目されるのは床面から石の剥片が確認された2区ＳＩ０１である。同様の例は対岸の門遺跡においても認められ、同じく中期後半代の建物跡（門遺跡ＳＩ０９・ＳＩ１０・ＳＩ１４）から剥片が多数出土している。特に門遺跡ＳＩ０９からは多量の剥片が出土しており、剥片と共に石鏃の完形品も出土していることから、こうした剥片が石鏃作成の過程で生じたものと想定されている。神原Ⅱ遺跡2区ＳＩ０１における剥片が何によって生じたものかは断言できないものの、こうした例から石鏃作成に伴う剥片である可能性が高いと考えられる。ほぼ同時期に営まれたと思われる神原Ⅱ遺跡・門遺跡の集落においては、このような石器の製作がある程度行なわれていた可能性が考えられよう。

また今回出土した土器の中には、文様などがいわゆる「塩町式」土器の特徴を備えた土器や、櫛

状工具によって流水文の描かれた土器など特徴的な土器が確認されている。今回確認したこれらの資料は当時の様相を解明するうえでの貴重な資料になるものと思われる。

3．古墳時代の遺構・遺物について

古墳時代の遺構・遺物については、後期前半代と推測される１区ＳＫ０２のほか、同じく１区の箱式石棺がその可能性のあるものと考えられる。しかしながらそのほかは確認されておらず、特に前期から中期にかけては遺構・遺物とも認められないことから、今回の調査範囲においては空白期となっている。したがってこの時期の様相は明らかにできなかった。前期から中期にかけての遺構・遺物が確認されない傾向は神原Ⅱ遺跡（98年度調査区）や周辺の遺跡においても認められ、全体として前期から中期は様相が明らかでない。

4．奈良～平安時代の遺構・遺物について

奈良時代～平安時代にかけての遺構・遺物としては、１、２区において建物跡を確認したほか１区において多くの土器も出土した。奈良・平安時代の遺構はこれまでにも門遺跡、神原Ⅱ遺跡（98年度調査区）などにおいて確認されており、特に門遺跡のものは『出雲国風土記』に記載のある「剡」と関連する可能性も考えられているものである。今回確認した遺構はそうした遺構とは近距離にあり、密接な関わりをもつものと考えられる。

5．中世の遺構・遺物について

中世の遺構・遺物として確認できたのは、その可能性の考えられるＳＸ０１のほかわずかな遺物のみで、古墳時代同様その様相がはっきりとしない。しかしながら、確認された遺物の中には１５世紀代と考えられる青磁などもみられ、この地域における有力者の存在を推測させる。今回の調査範囲においては直接関係するような遺構は確認されなかったが、神原Ⅱ遺跡の対岸の丘陵上には森脇山城が、また２㎞ほど上流には森Ⅴ遺跡など中世期の遺跡も確認されており注目される。

6．近世の遺構・遺物について

近世の遺構は大鍛冶場跡などを除けば主に３区において確認した。３区下段において確認した土坑は焼石や炭を多く含むもので、前節においても述べたとおり当地域における産業の一つであった麻の生産に関わる遺構と考えられる。こうした遺構はこれまでの調査で多数確認されており、調査例も増加している。製鉄などと並ぶ地域の産業の実態を明らかにしていく上での手がかりになるものと考えられる。

（註１）島根県教育委員会『神原Ⅰ遺跡・神原Ⅱ遺跡』2000

（註２）原　喜久子「島根県における古墳時代の鉄鏃について」『島根考古学会誌』10　1993

（註３）縄文土器の年代については

『縄文土器大観』１～４　1988、1989

を参考にしている。

（註４）弥生土器の年代については

松本岩雄「出雲・隠岐」『弥生土器の様式と編年　山陰・山陽』1992

を参考にしている。

（註５）陶磁器類については西尾克己氏にご教示いただいた。

（註６）前掲（註１）に同じ。

（註７）前掲（註１）に同じ。

（註８）前掲（註１）に同じ。

（註９）出土銭貨の計測法については次のものを参考にした。

永井久美男編『中世の出土銭－出土銭の調査と分類－』1994

（註10）河瀬正利氏にご教示いただいた。また以下のものを参考にした。

㈶広島県埋蔵文化財調査センター『平家ヶ城跡発掘調査報告書』1997

（註11）島根県教育委員会『埋蔵文化財調査センター年報』Ⅵ　1999

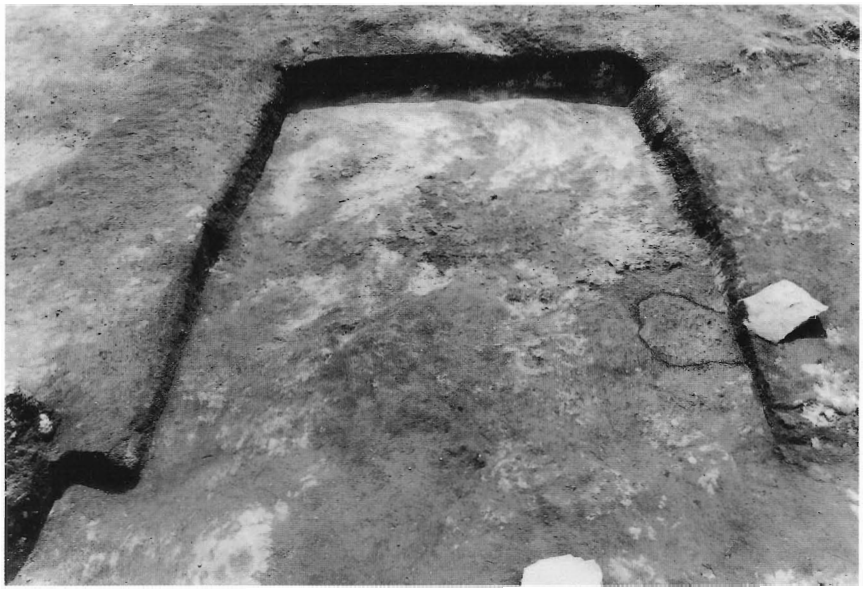
島根県教育委員会『埋蔵文化財調査センター年報』Ⅶ　2000ほか

写 真 図 版 (1)

神原Ⅱ遺跡全景（南から）

神原Ⅱ遺跡97年度調査区及びその周辺

写真図版２



１区　ＳＩ０１

１区　ＳＢ０２及び
箱式石棺

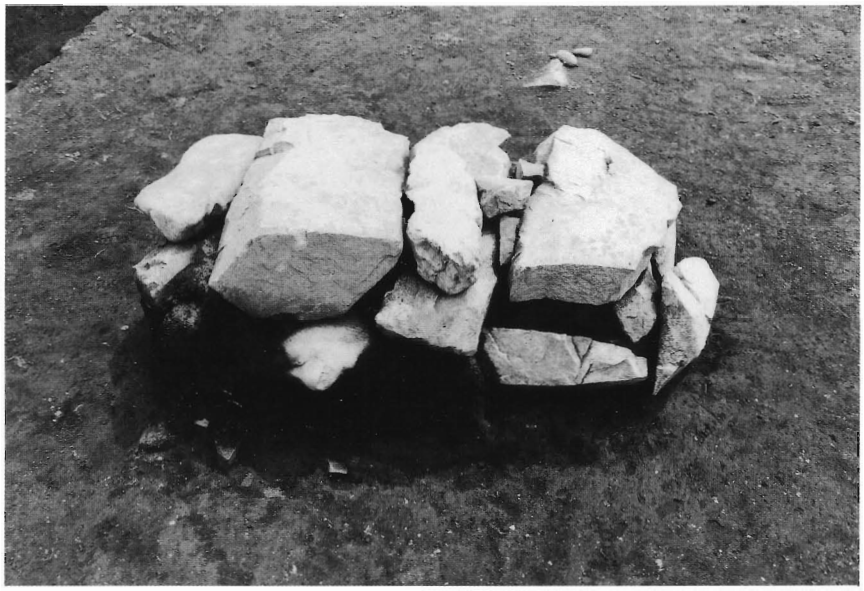
１区　ＳＫ０１

１区　ＳＫ０２（検出状況）

１区　ＳＫ０２

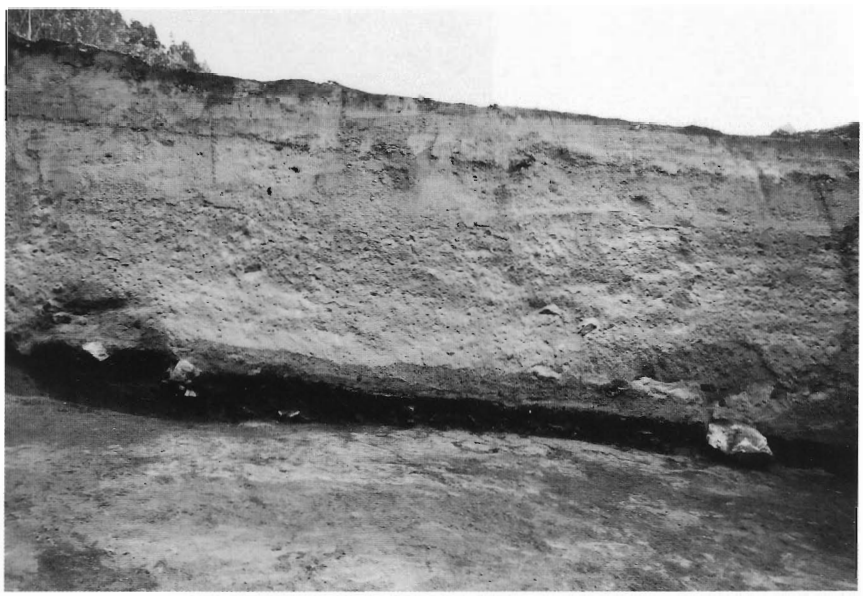
１区　ＳＫ０３

写真図版 4



1 区　箱式石棺

1 区　箱式石棺



1 区　土層

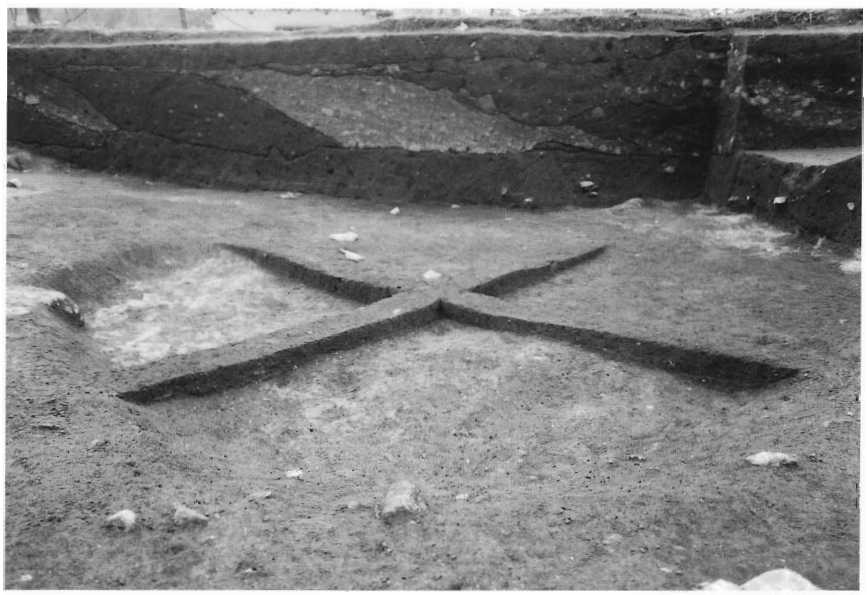
２区　ＳＩ０４

２区　ＳＢ０１（遺物出土状況）

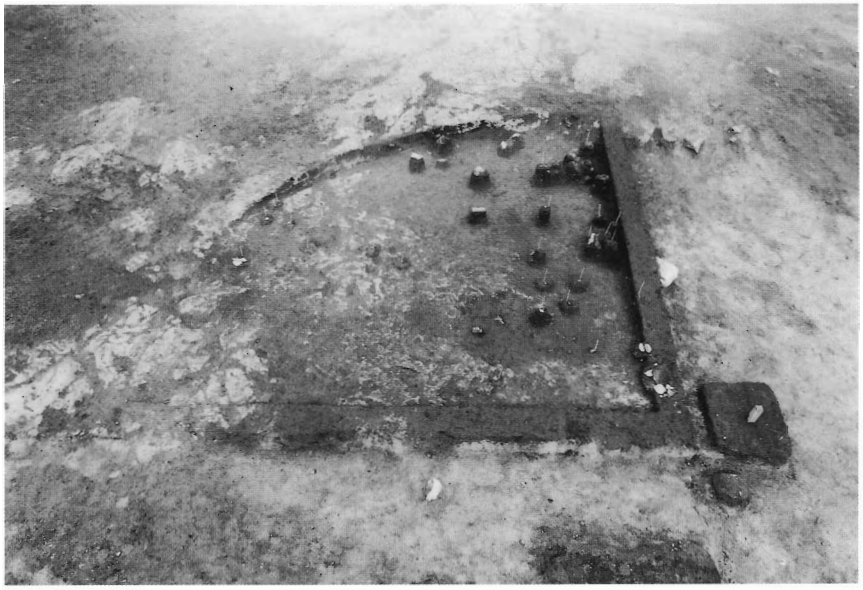
写真図版６

２区　ＳＩ０１

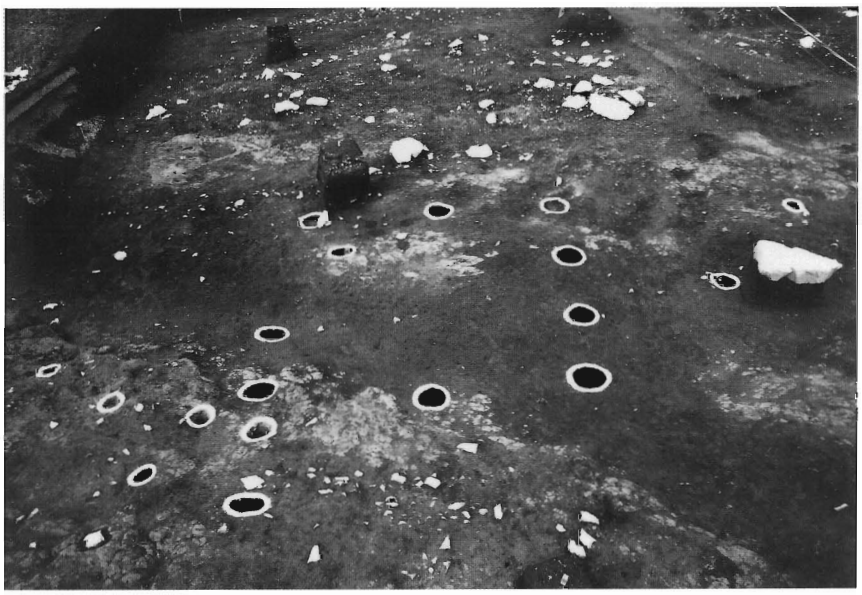
２区　ＳＩ０２



２区　ＳＩ０３



２区　ＳＩ０４
（遺物出土状況）



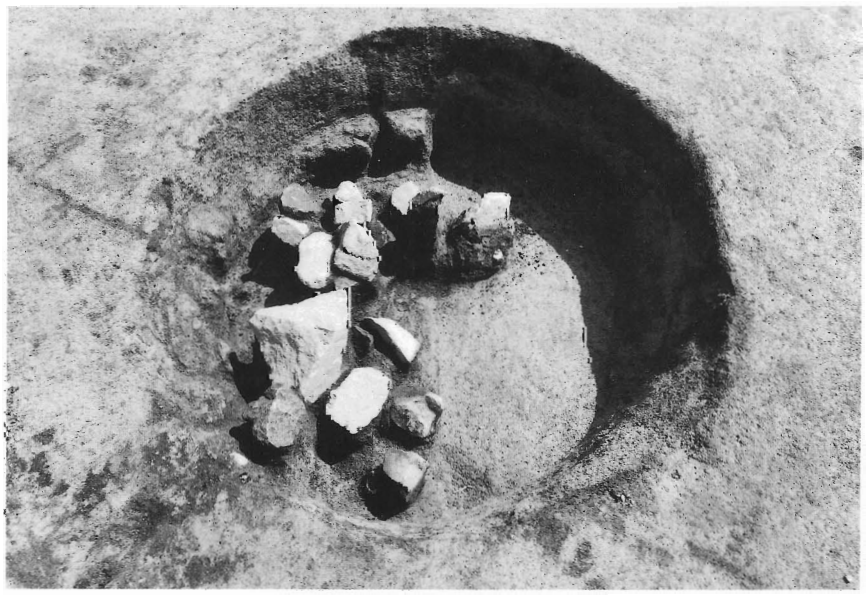
２区　ＳＢ０１

２区　ＳＫ０２

写真図版８

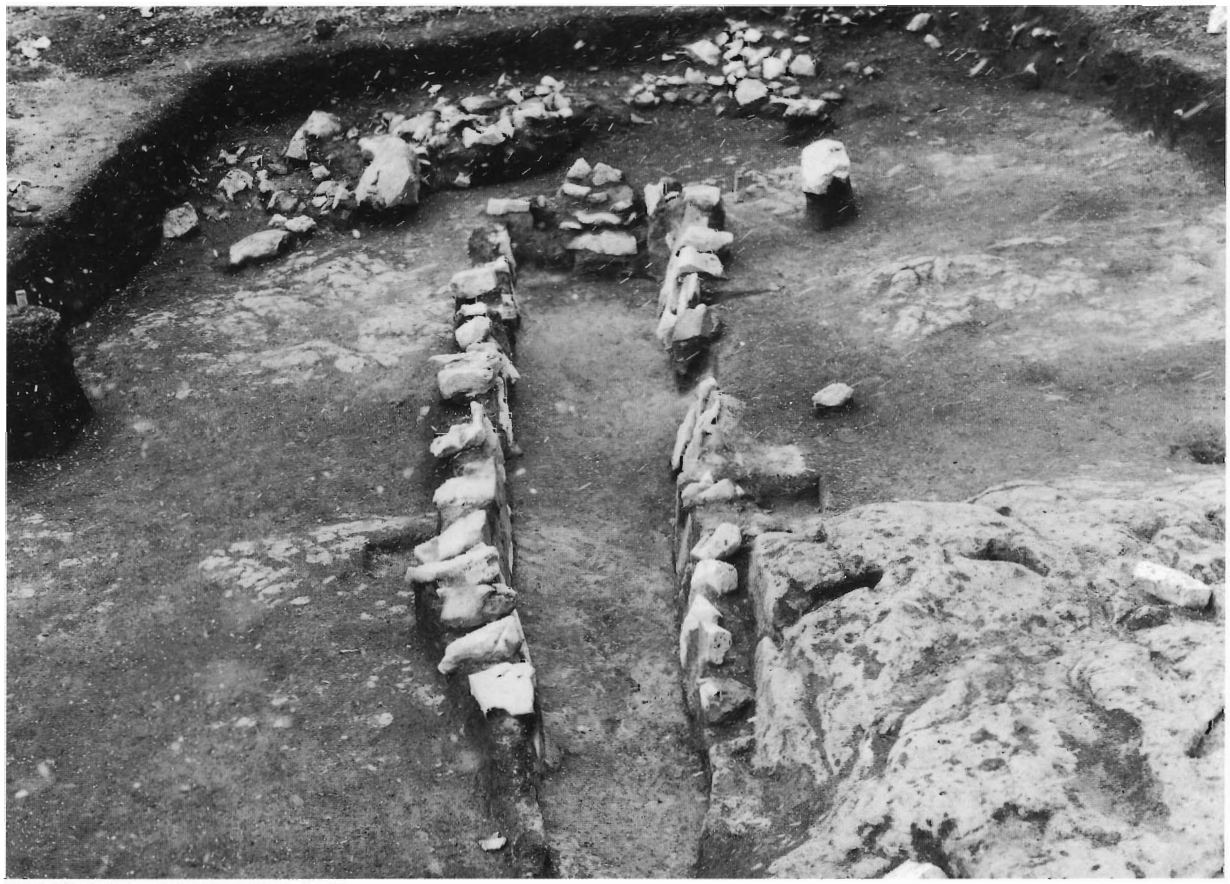
３区　下段（遺構検出状況）

３区　ＳＫ０１



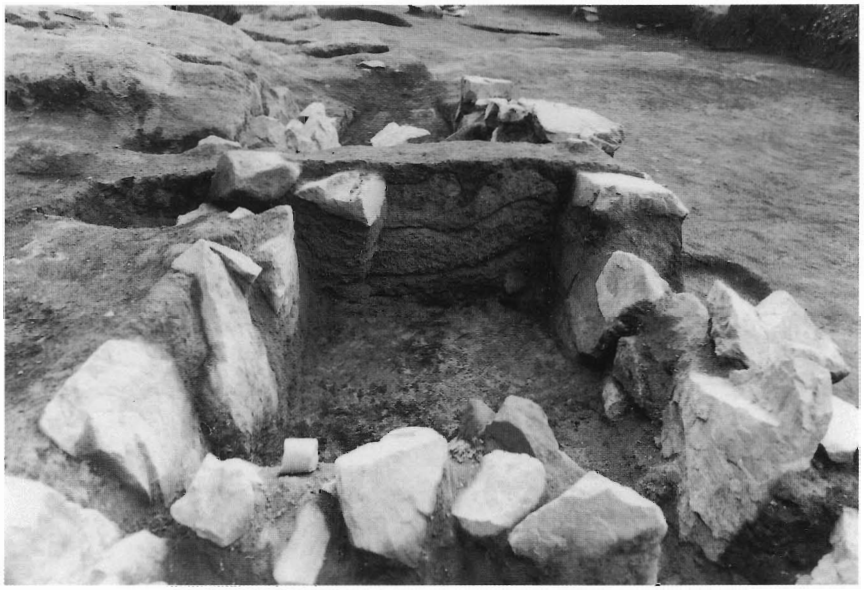
３区　ＳＫ０３

３区　上段



ＳＸ０１

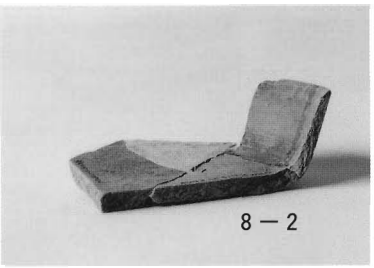
写真図版10

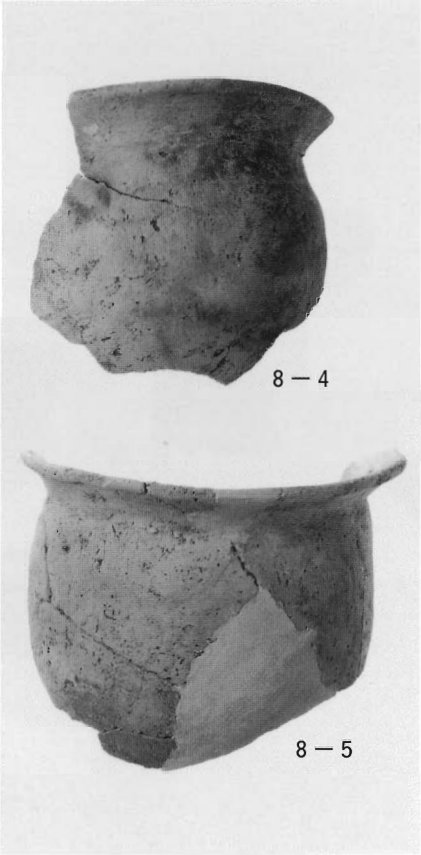


3区　ＳＸ０１　土層

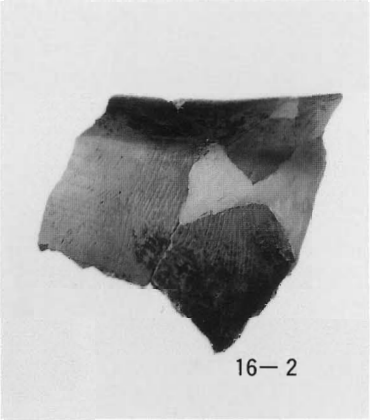
3区　ＳＸ０１　側石

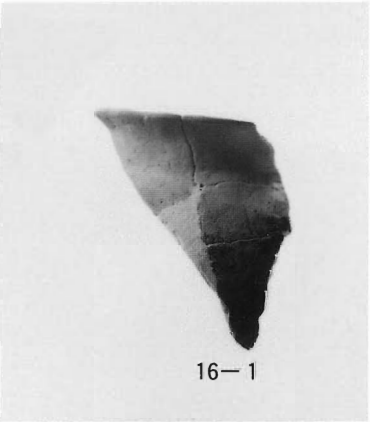
3区　ＳＸ０１　石除去後



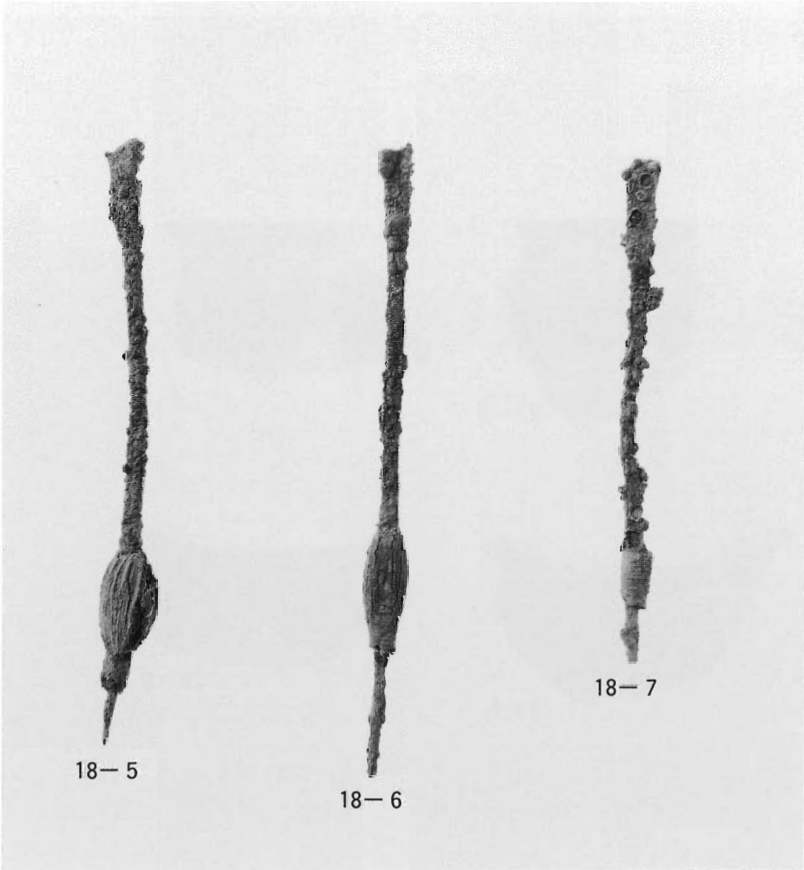


1区　ＳＩ０１　出土遺物

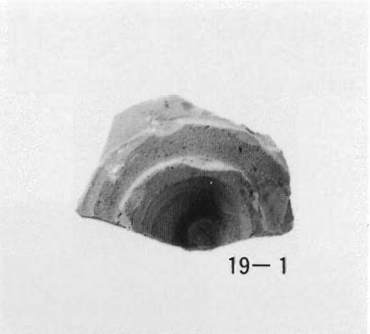




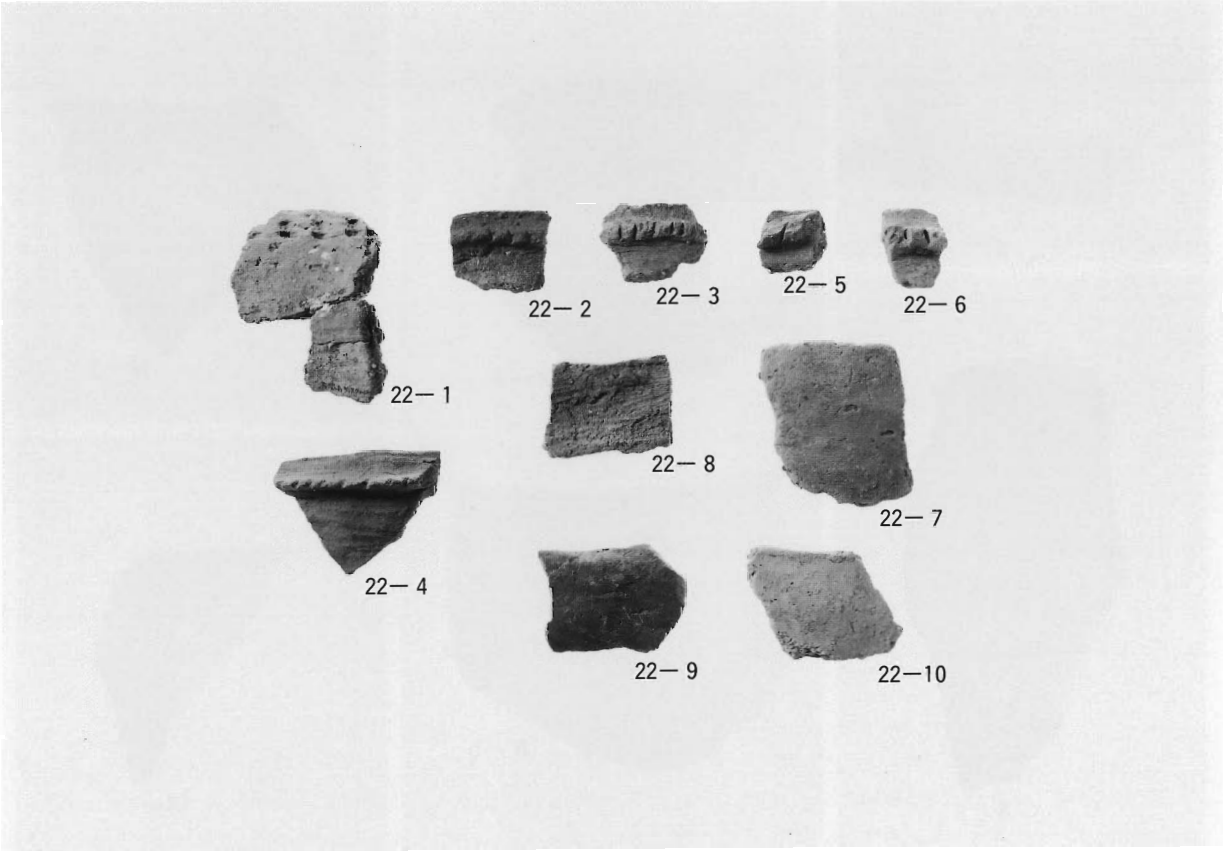
1区　ＳＫ０１　出土遺物



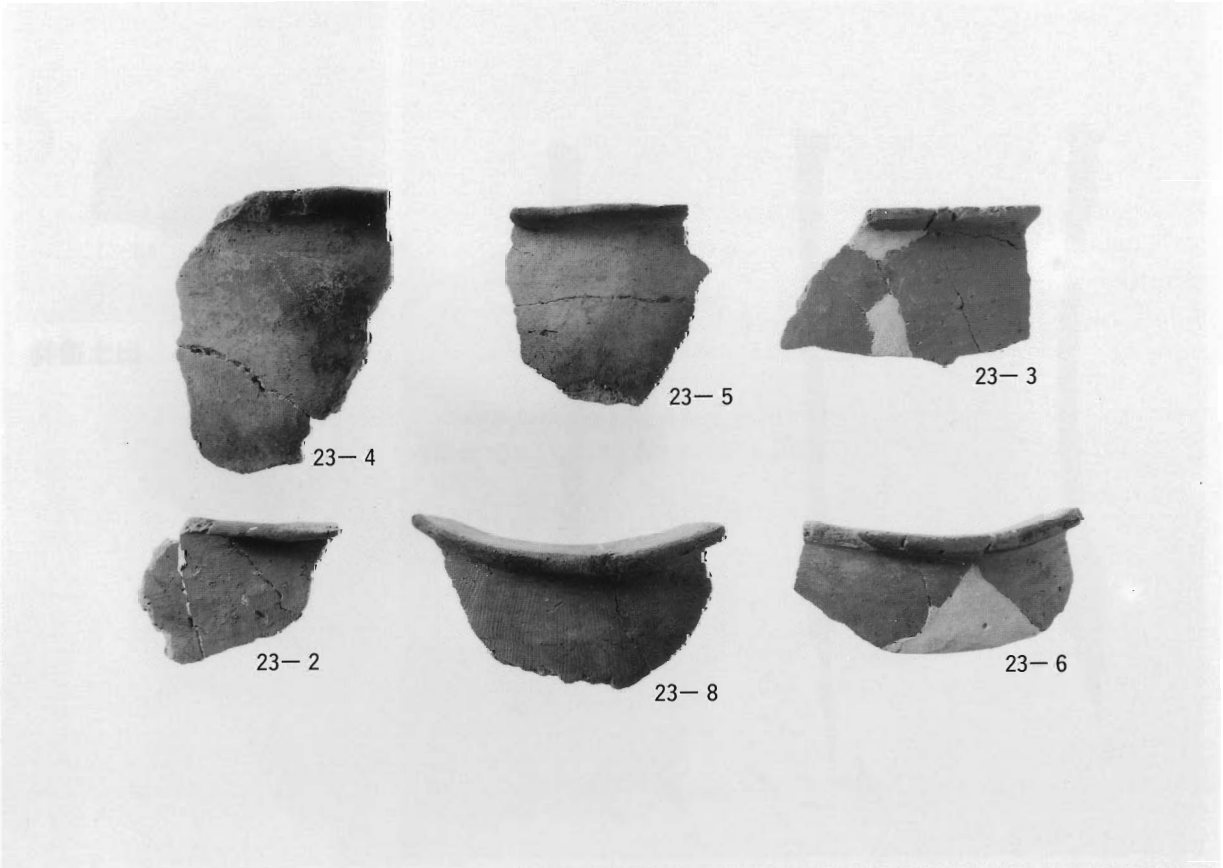
1区　ＳＫ０２　出土遺物



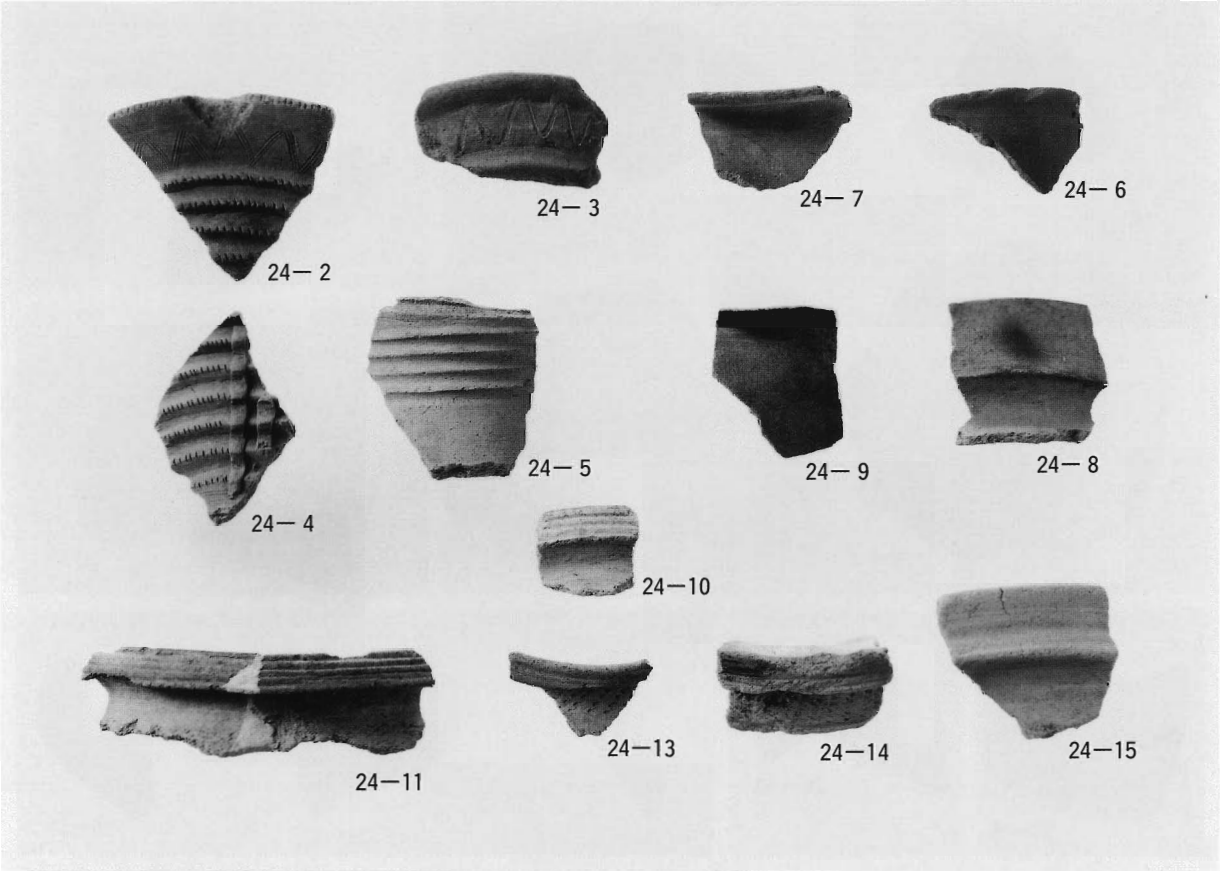
1区　ＳＫ０４　出土遺物



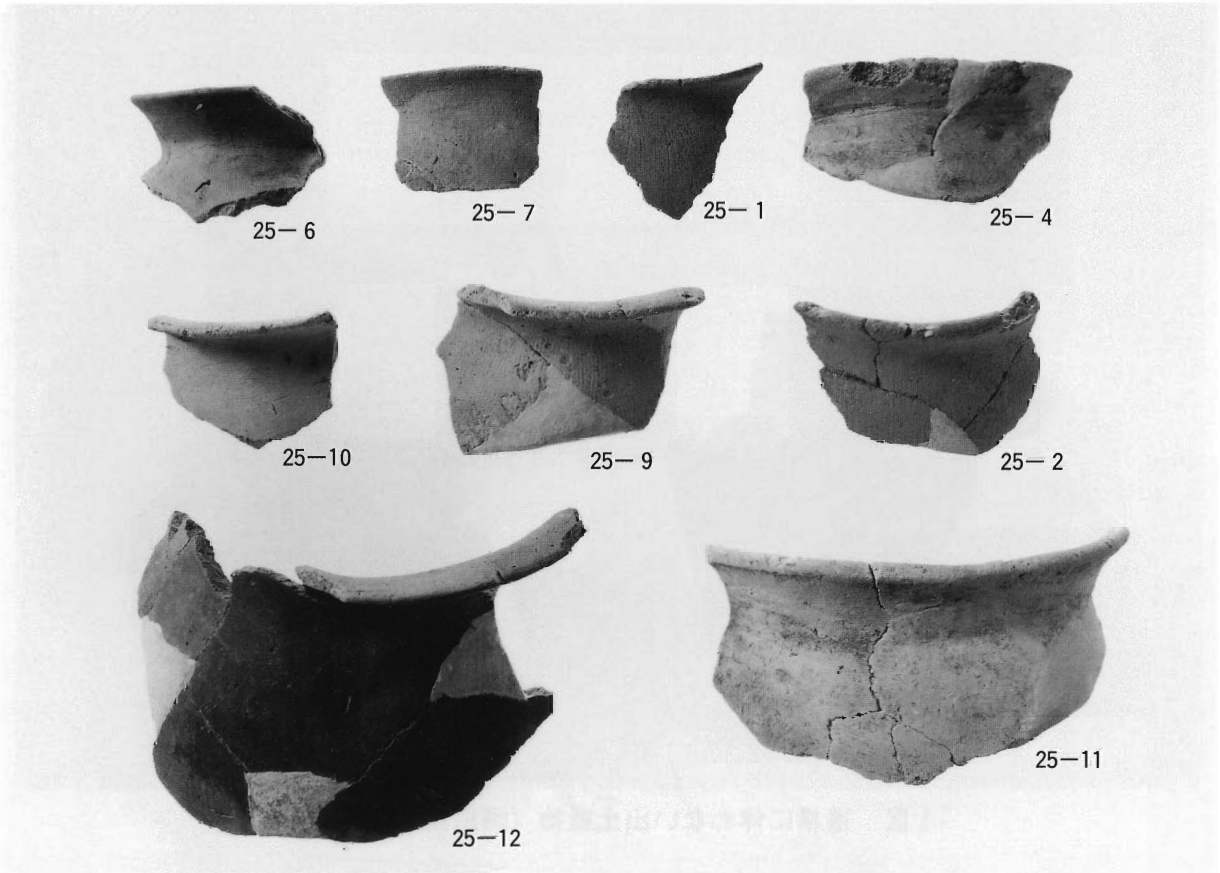
1区　遺構に伴わない出土遺物（縄文土器）



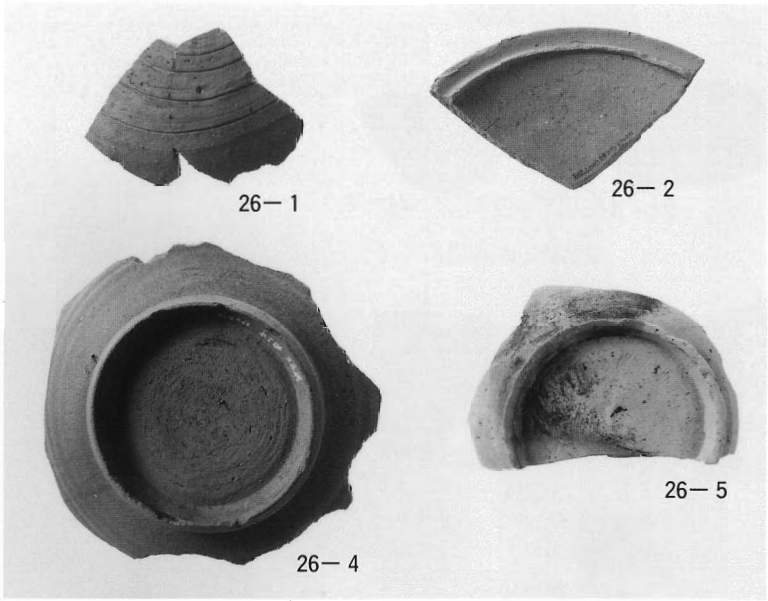
1区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）

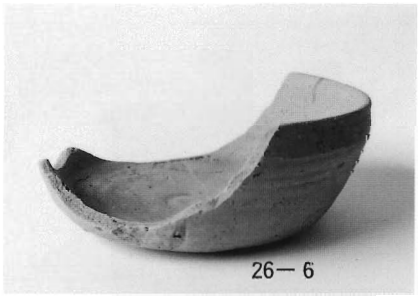


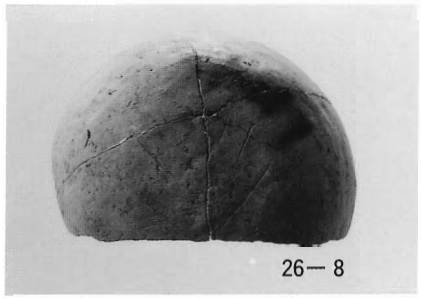
1区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）

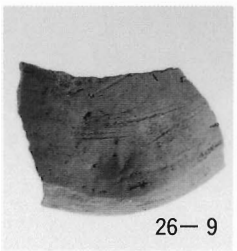


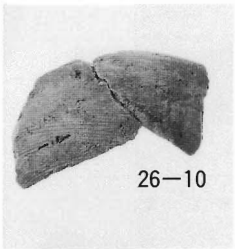
1区　遺構に伴わない出土遺物（土師器）

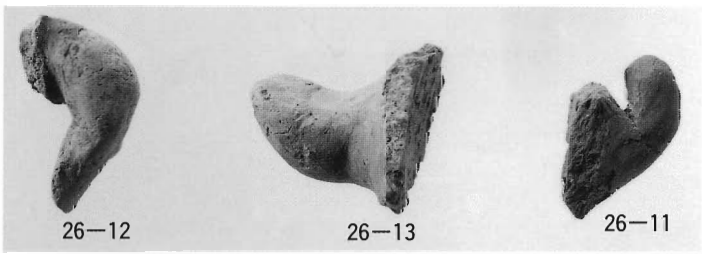




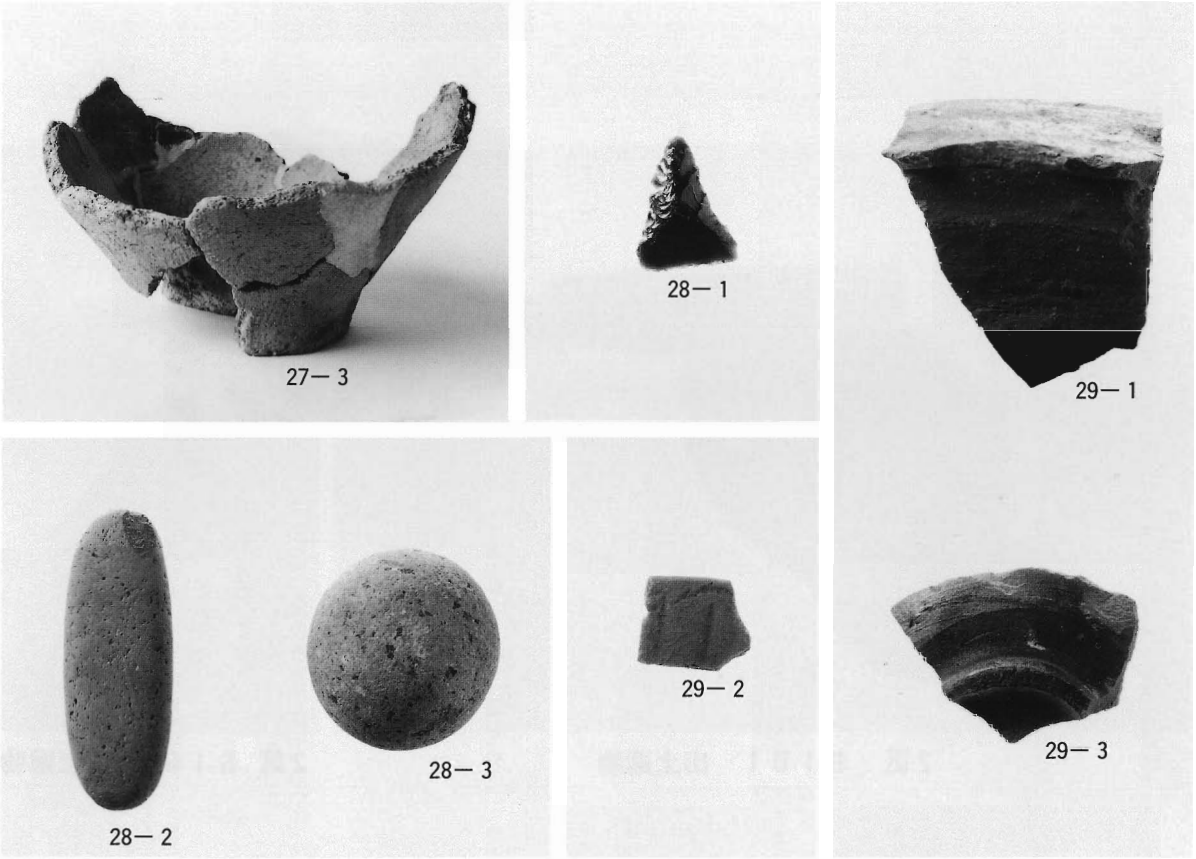




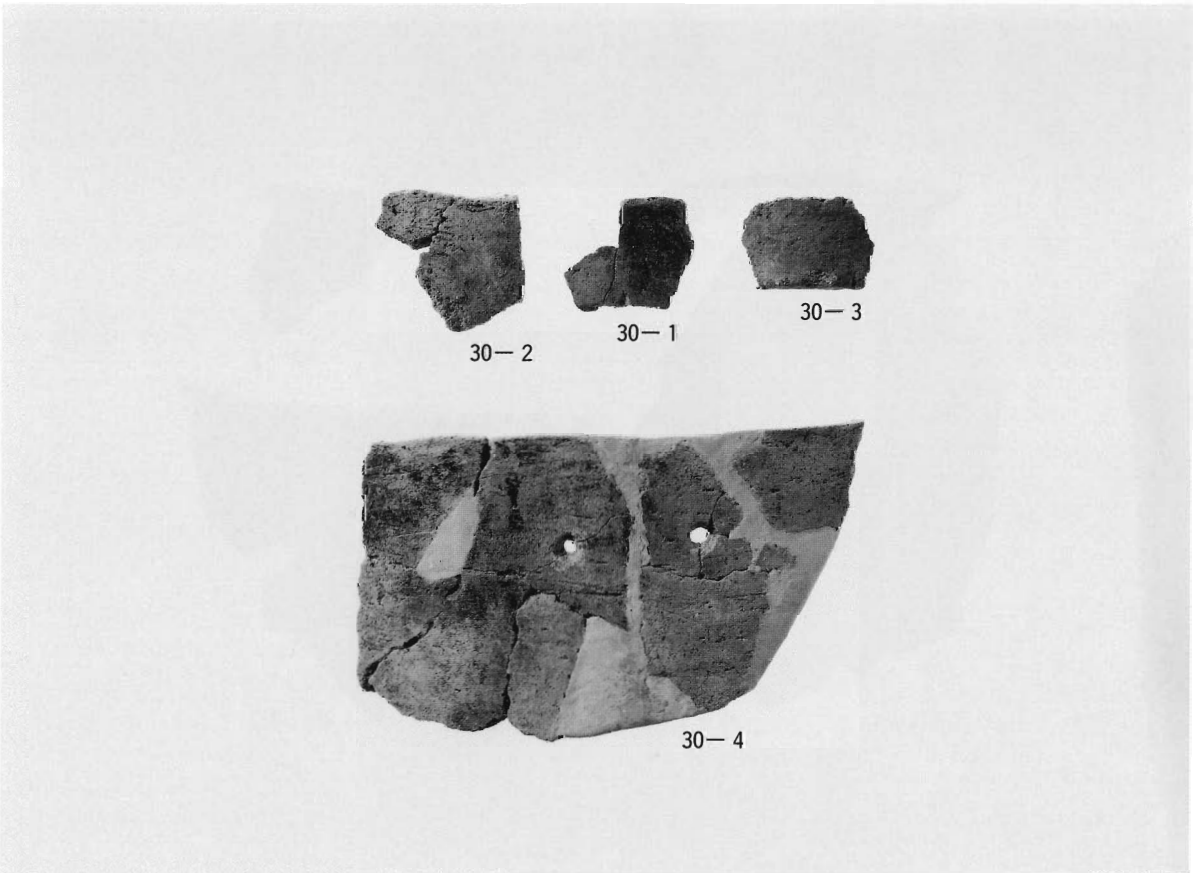




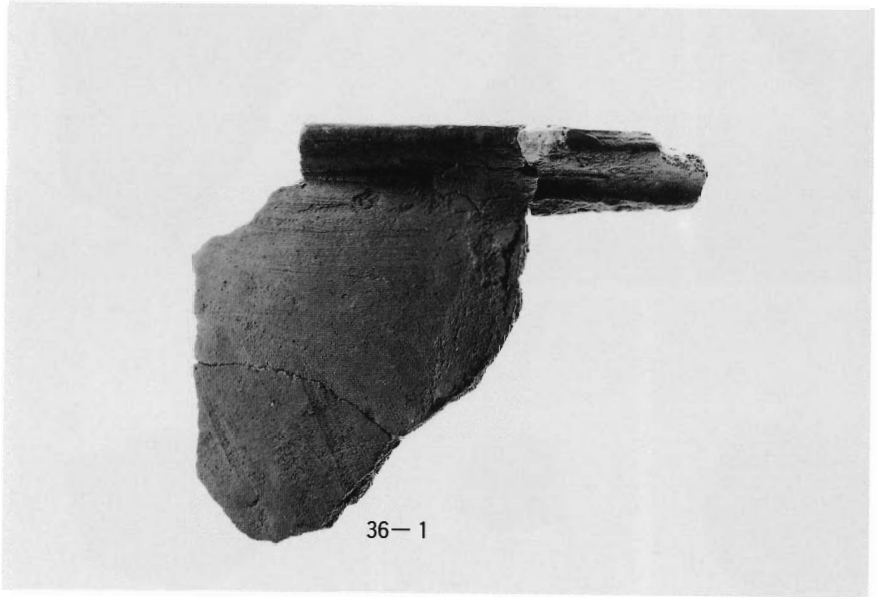
1区　遺構に伴わない出土遺物（須恵器・土師器）



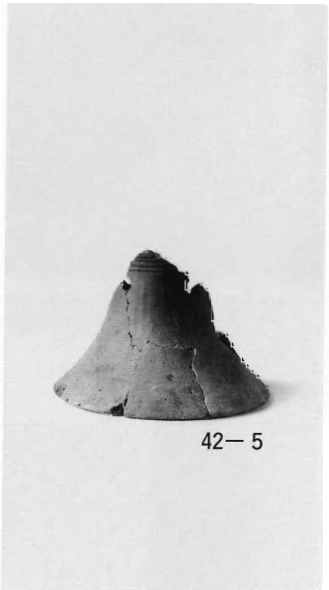
1区　遺構に伴わない出土遺物（石器・弥生土器・陶磁器）



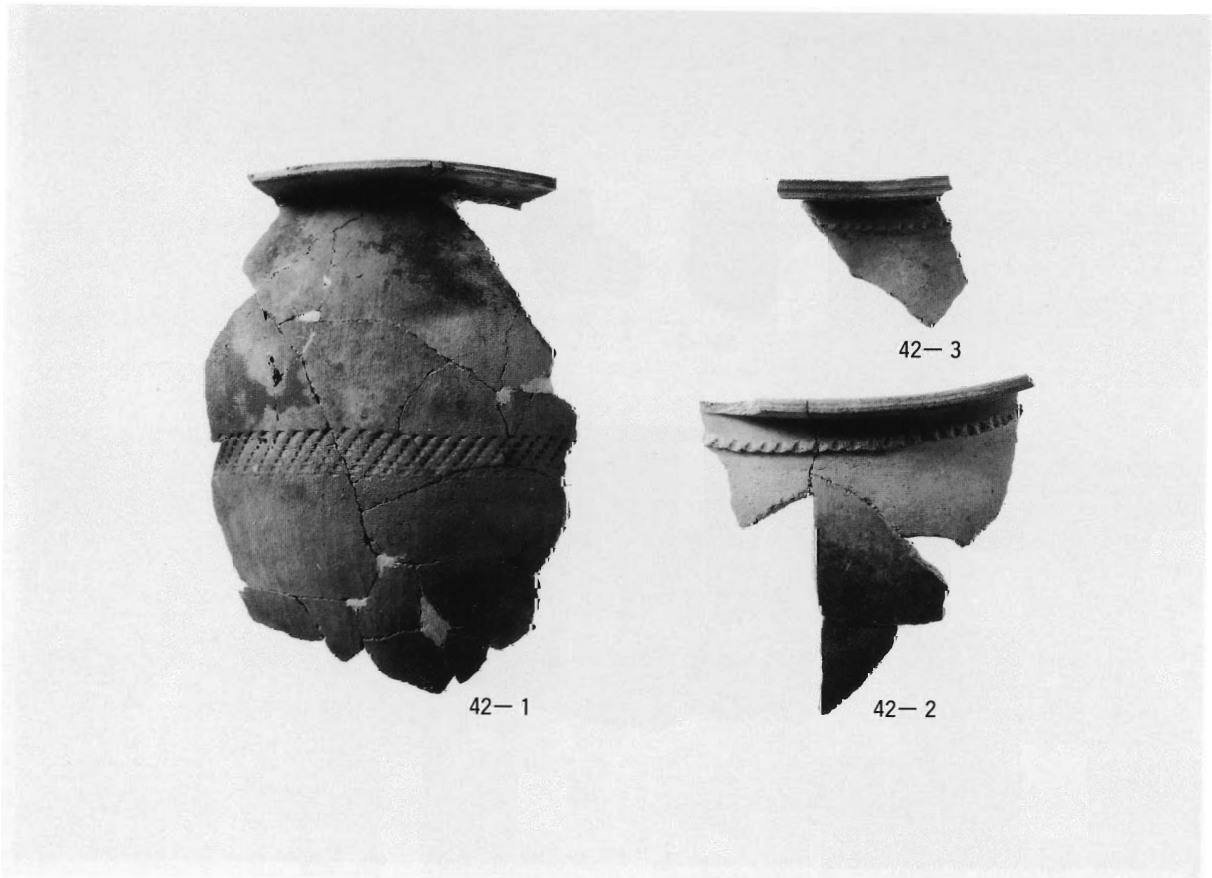
1区　遺構に伴わない出土遺物　第2黒色土（縄文土器）



2区　ＳＩ０１　出土遺物



2区　ＳＩ０４　出土遺物



2区　ＳＩ０４　出土遺物

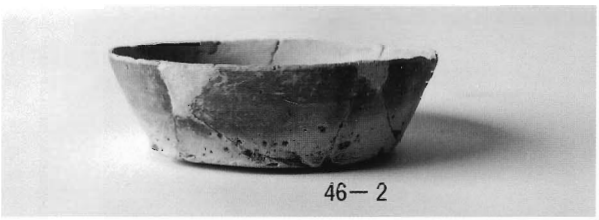
45－2

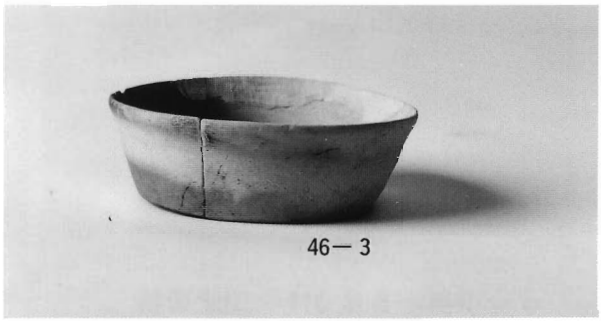
45－5

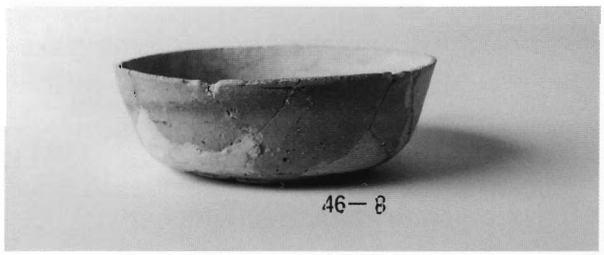
45－3

45－6

46－1


46－2

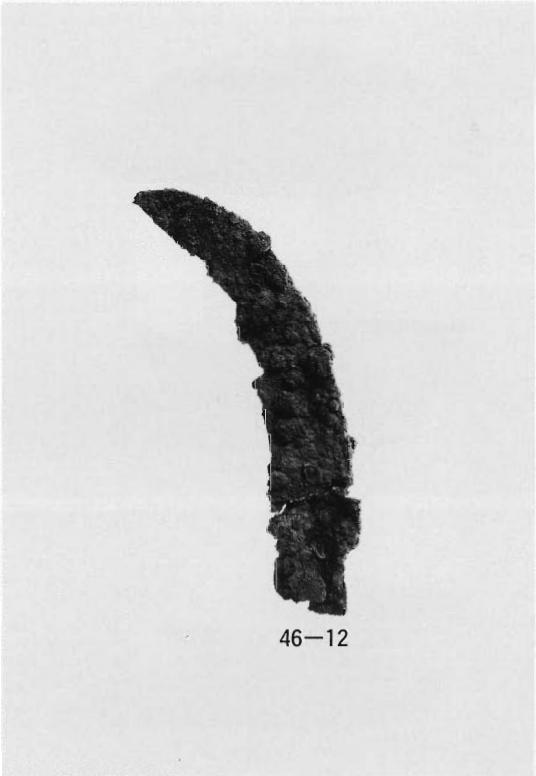

46－3


46－8

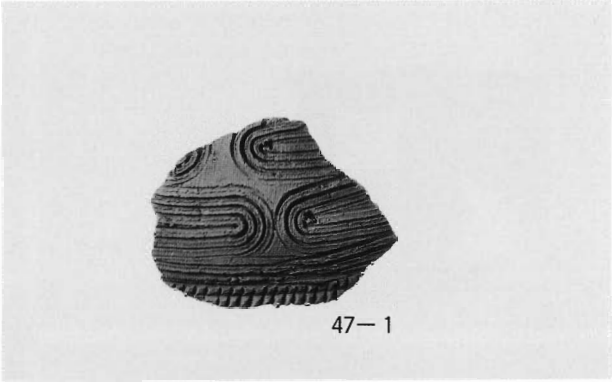
46－9

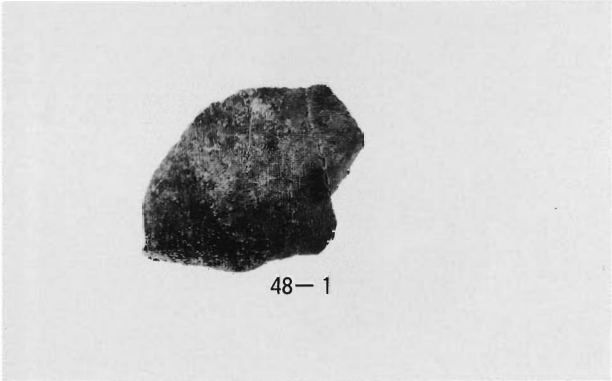
46－10

2区　ＳＢ０１　出土遺物

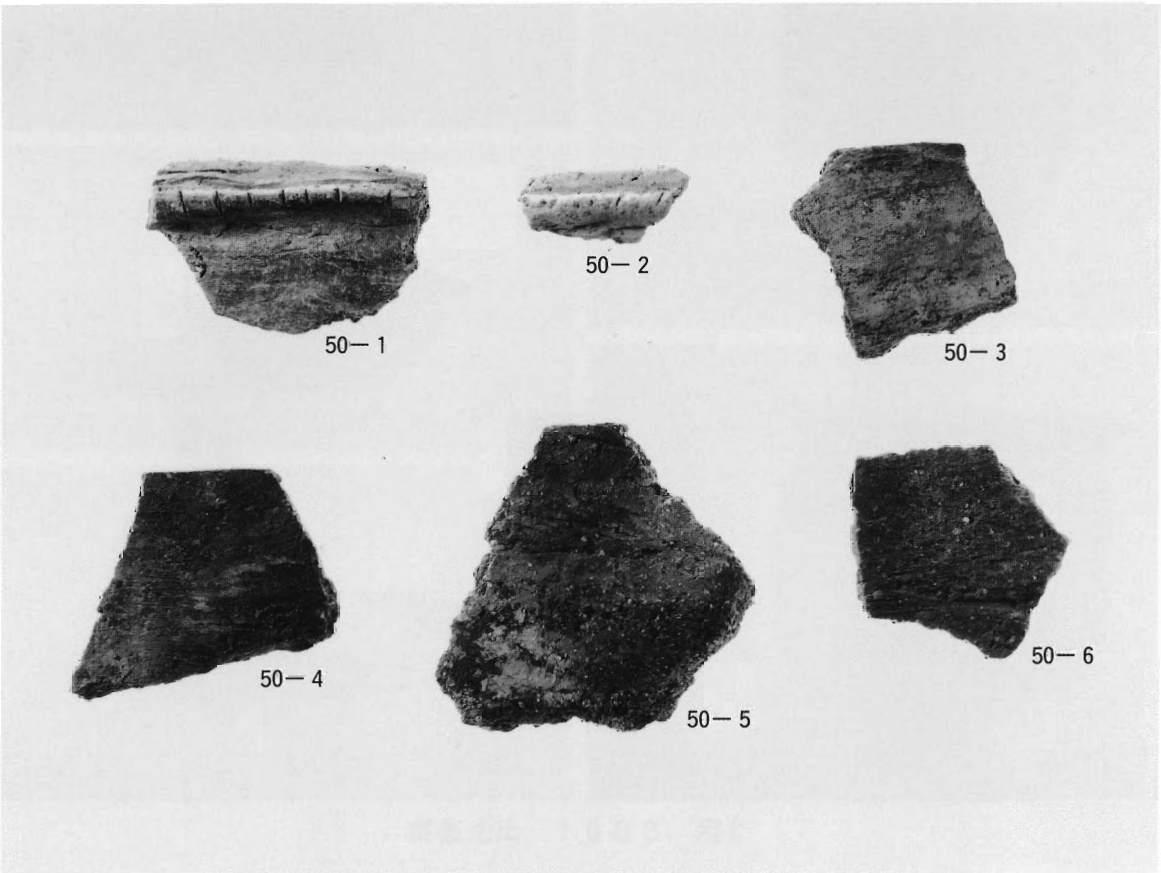


2区　ＳＢ０１　出土遺物

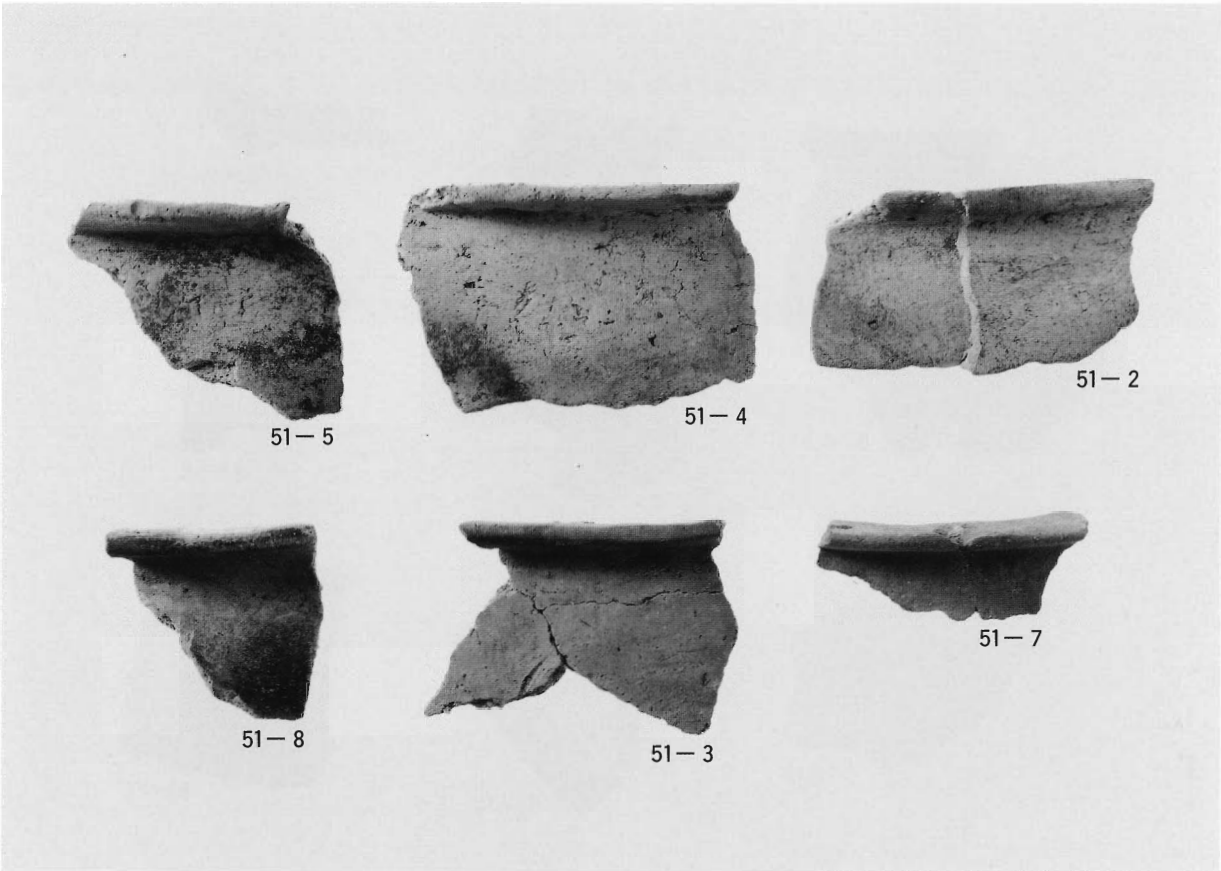




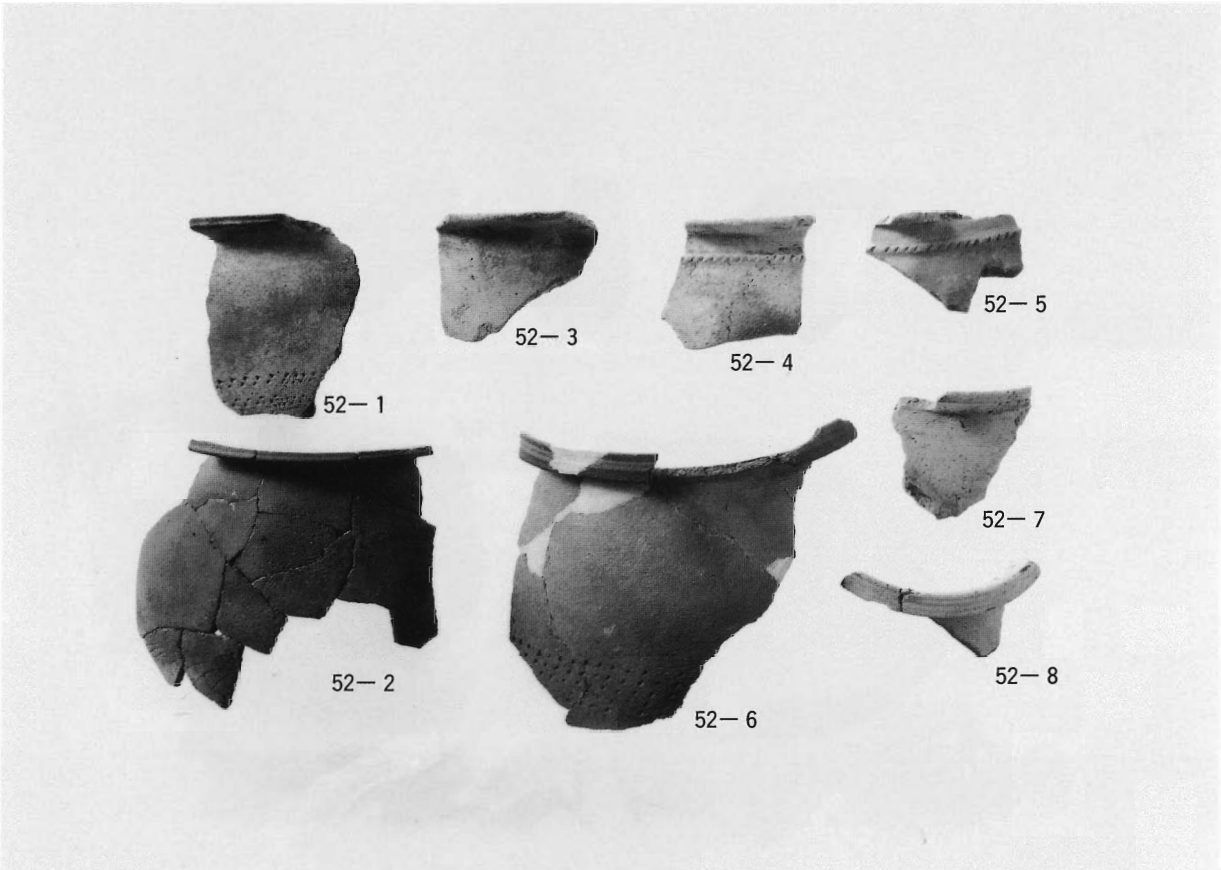
2区　ＳＫ０２・ＳＫ０３　出土遺物



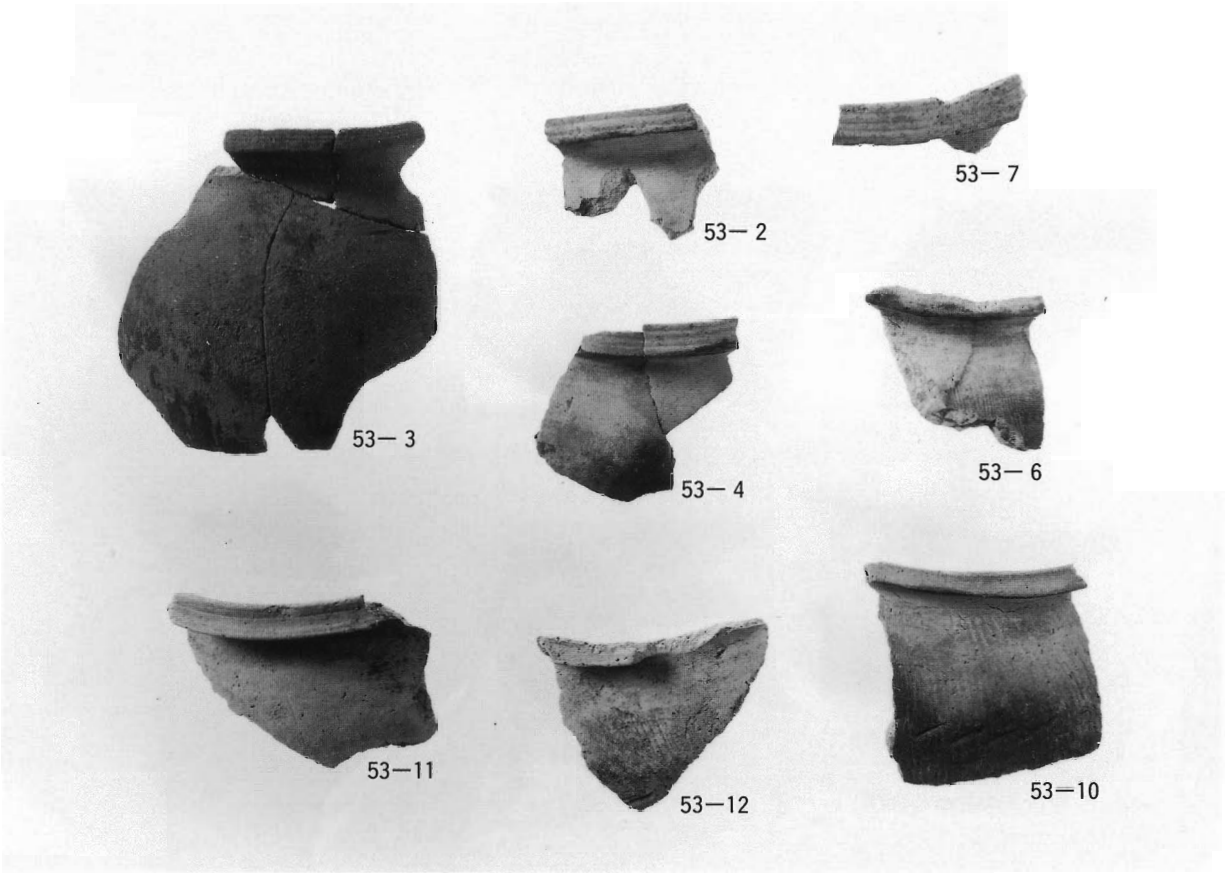
2区　遺構に伴わない出土遺物（縄文土器）



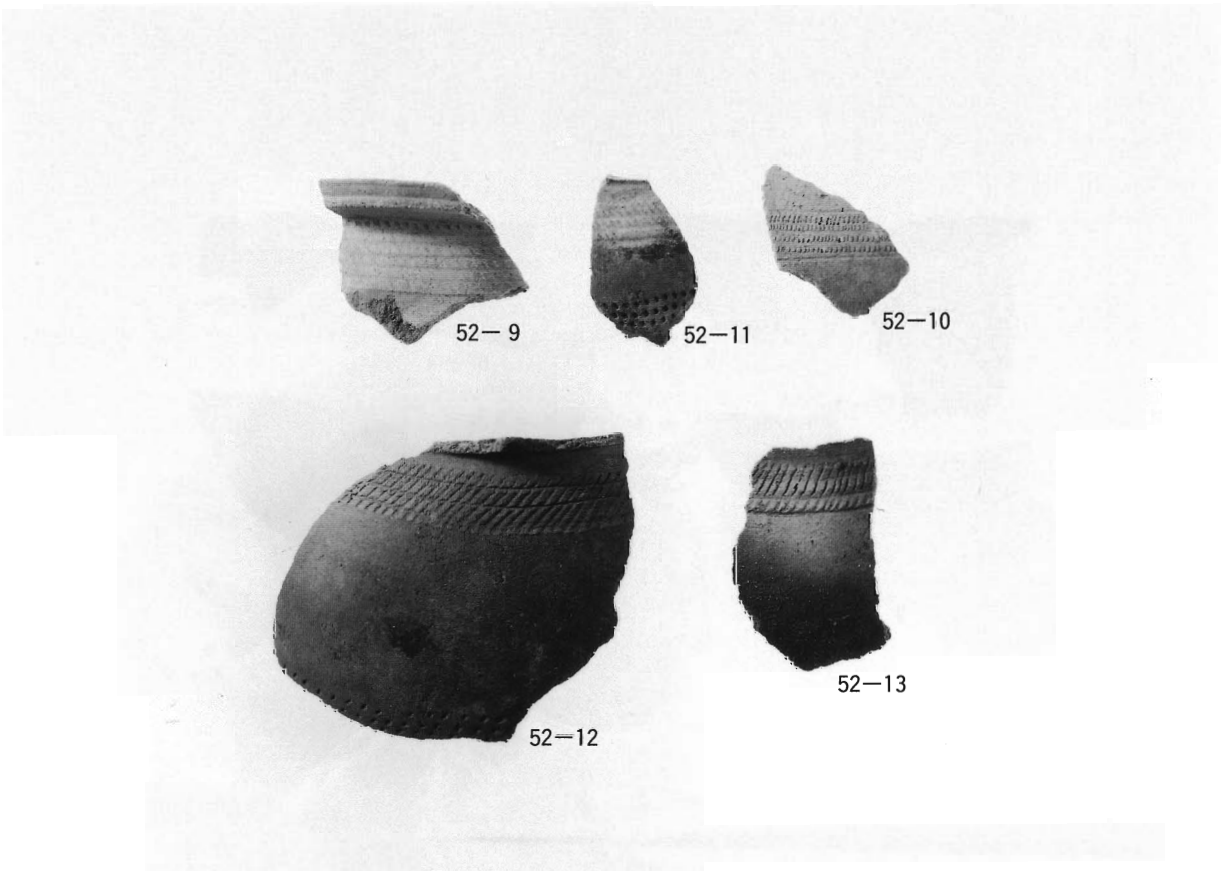
2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



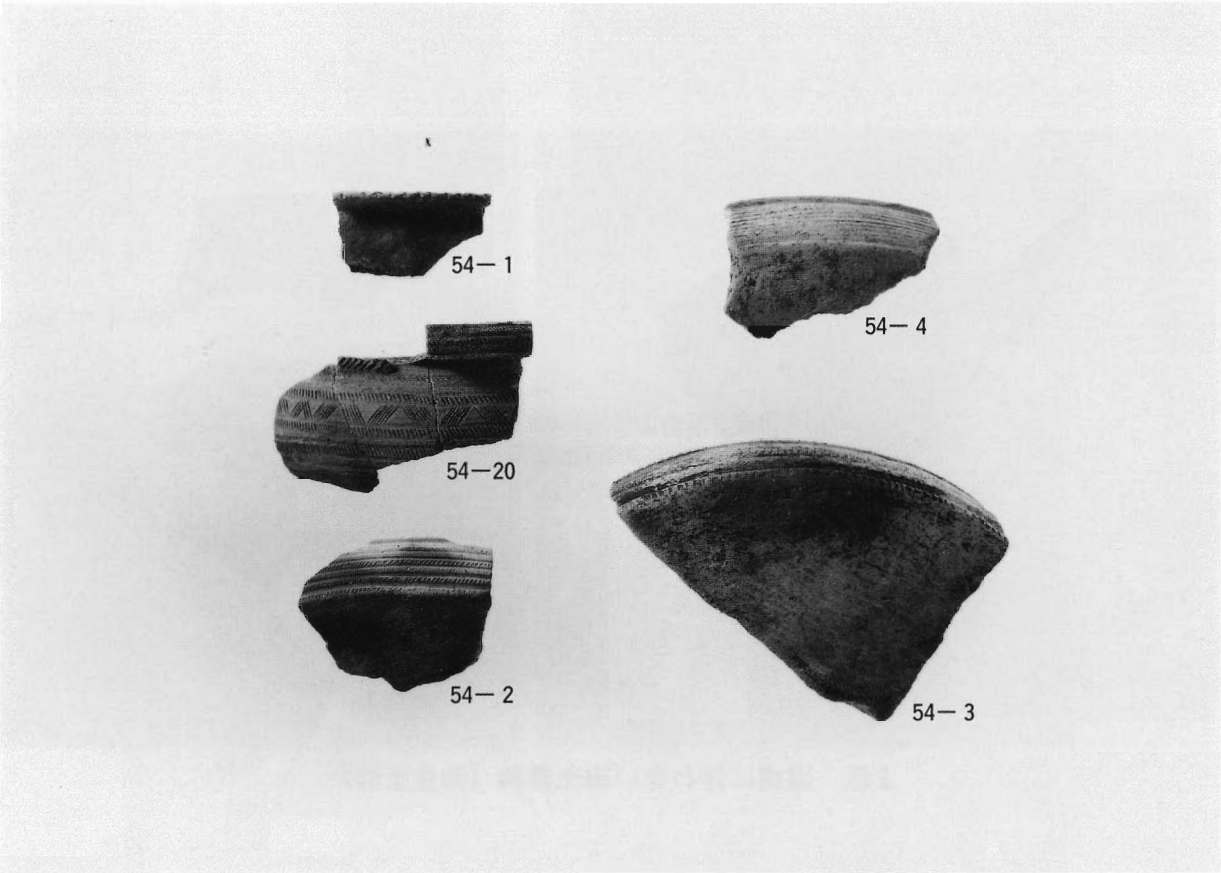
2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



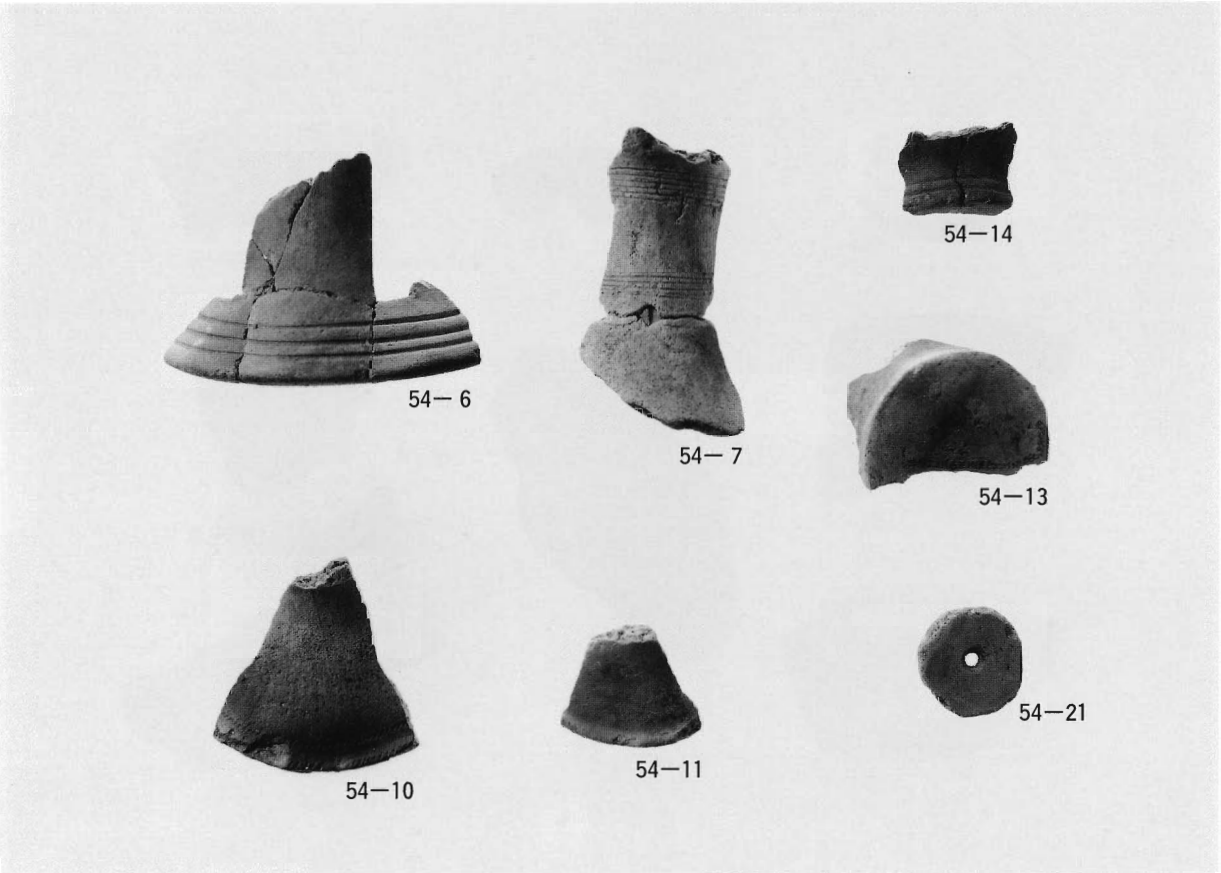
２区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



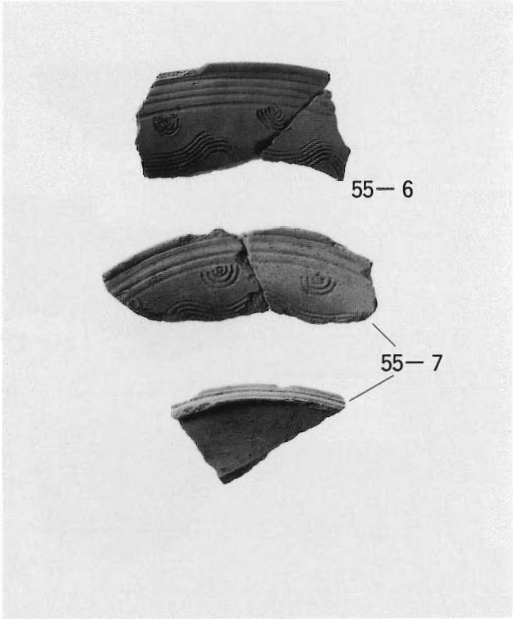
２区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



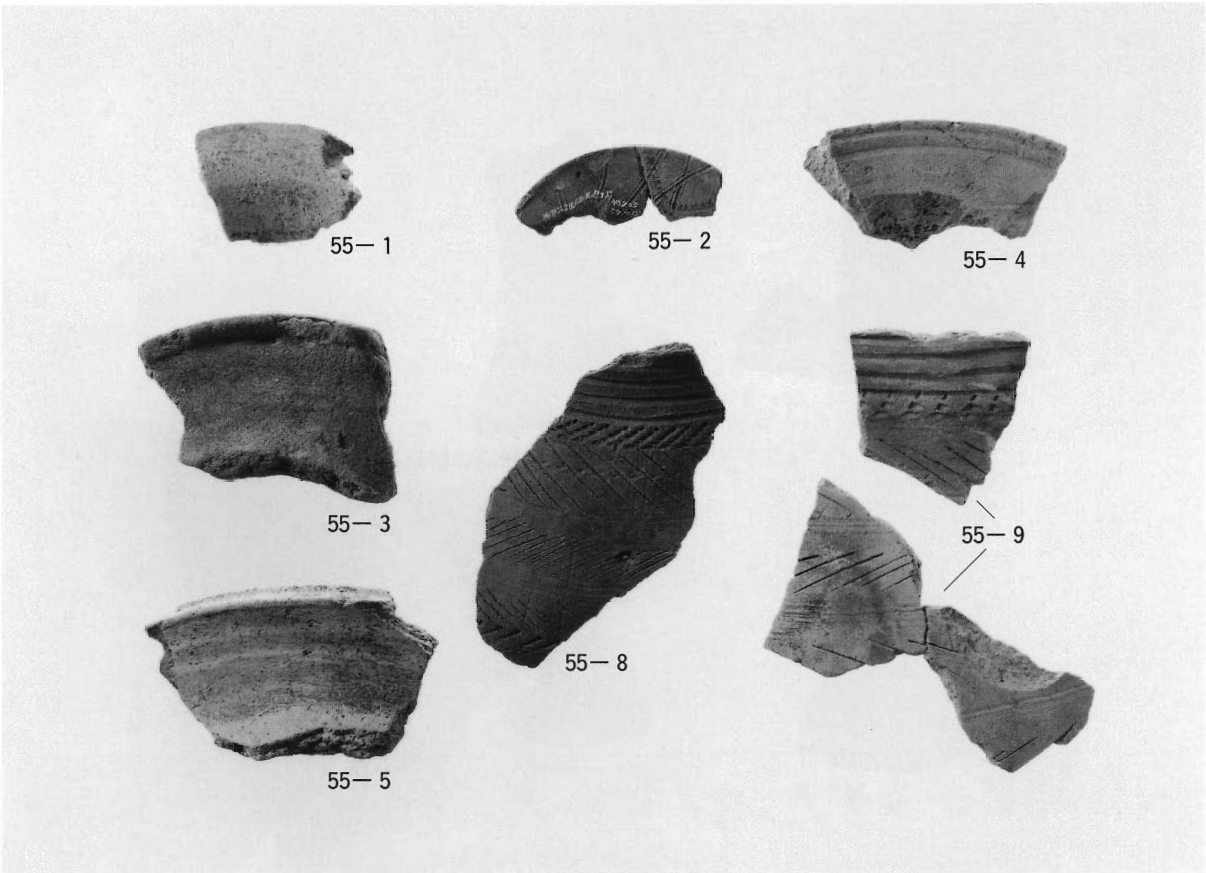
2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



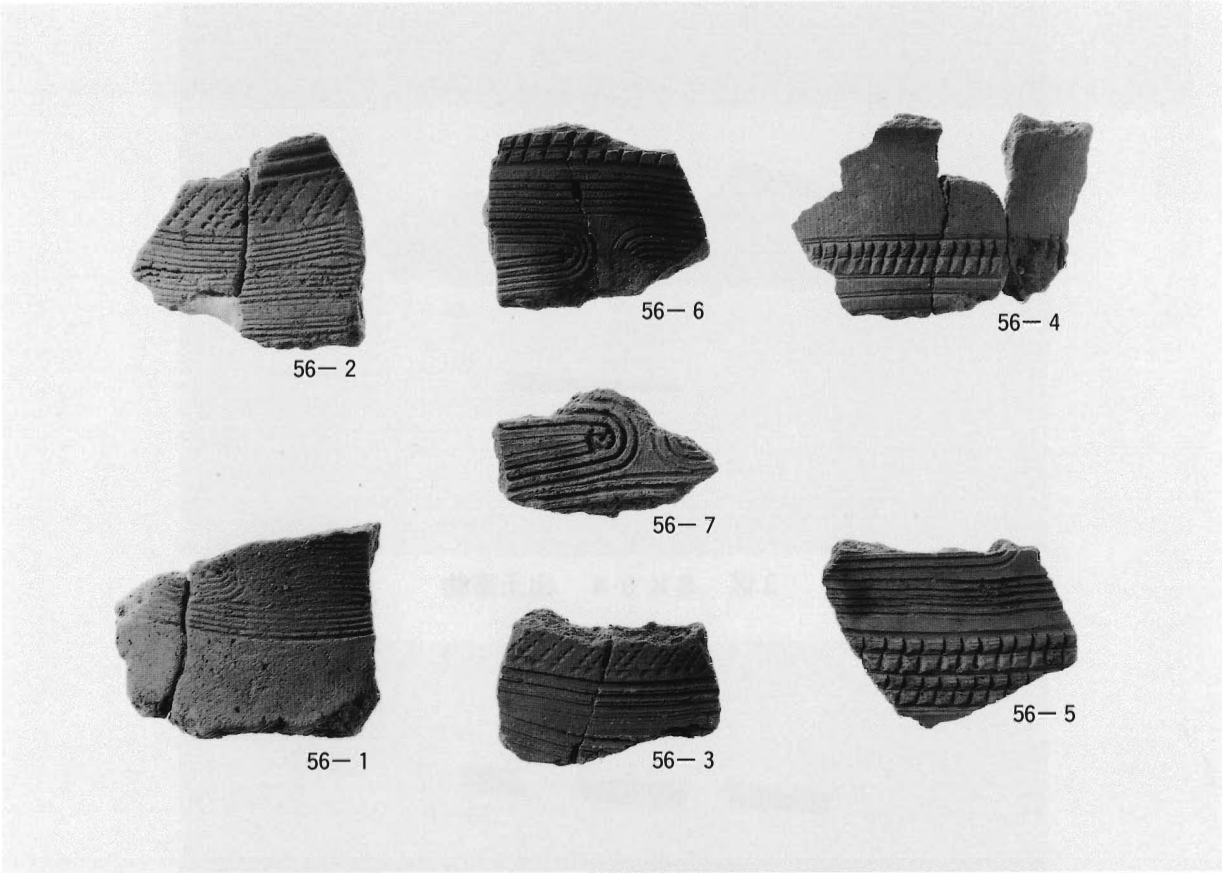
2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）

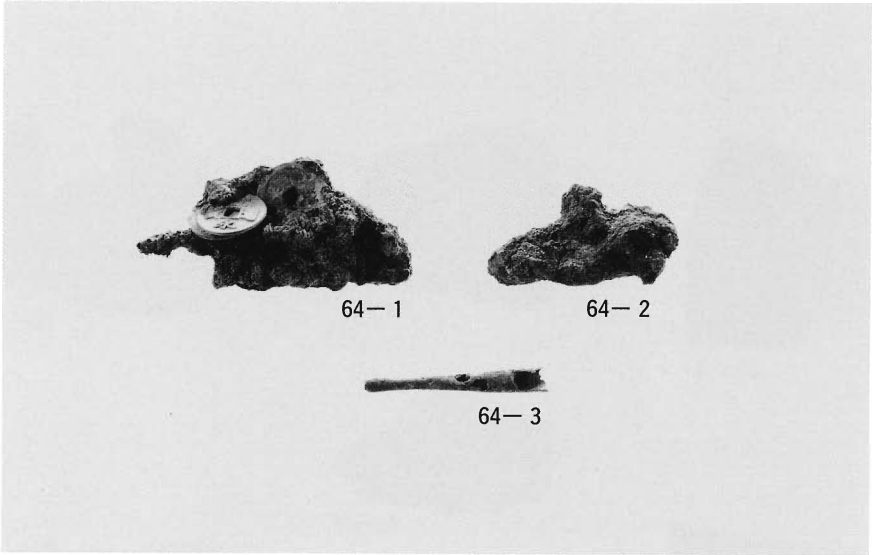


2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）

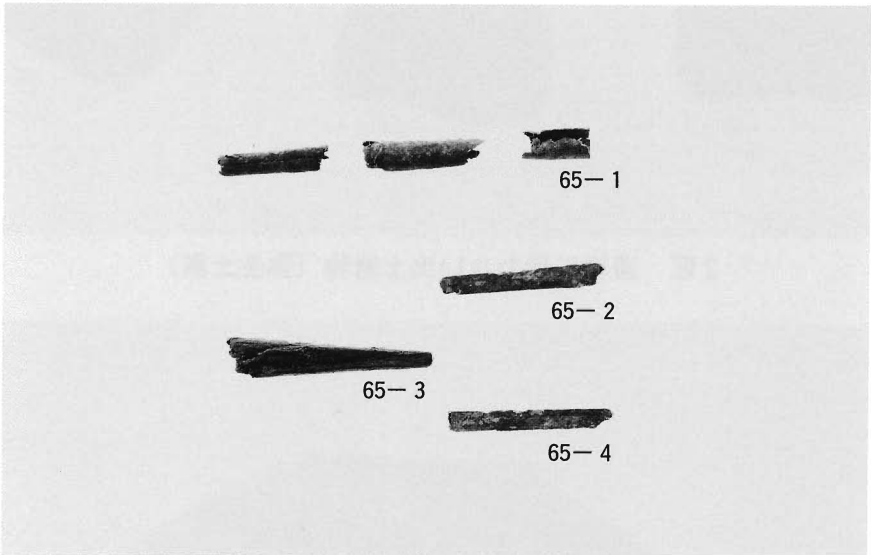


2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）

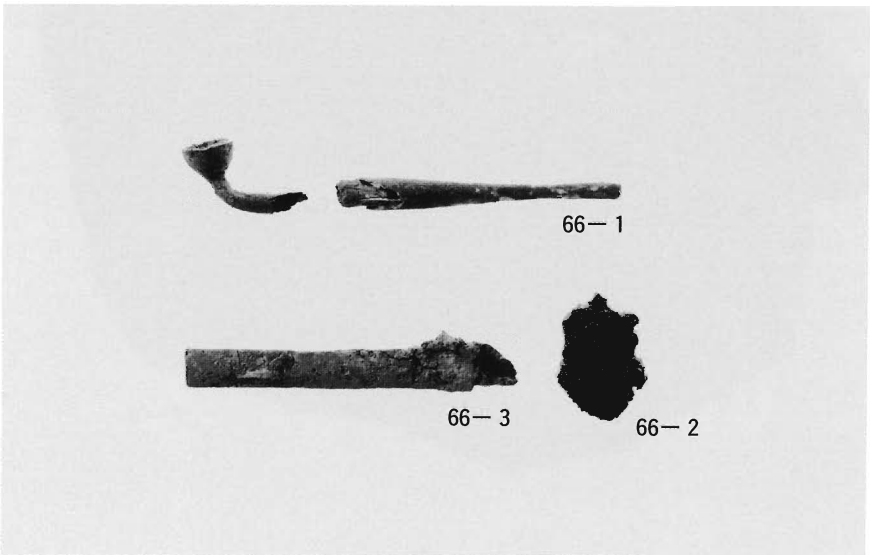
2区　遺構に伴わない出土遺物（弥生土器）



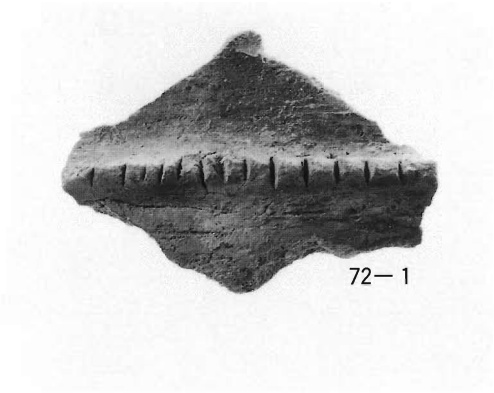
3区　ＳＫ０４　出土遺物

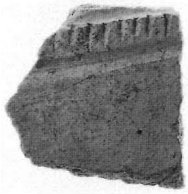


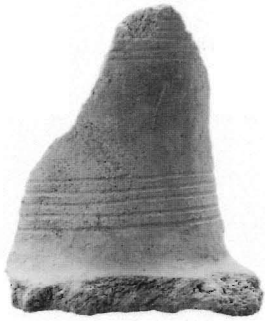
3区　ＳＫ０５　出土遺物

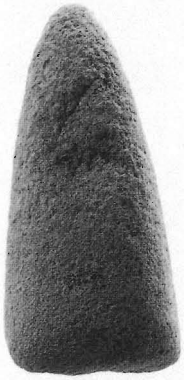


3区　ＳＫ０６　出土遺物


72－1

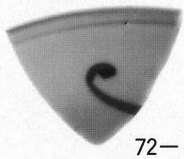

72－4


72－3

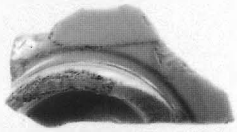

72－13

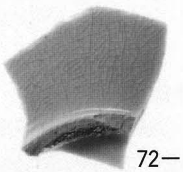
72－12

72－2

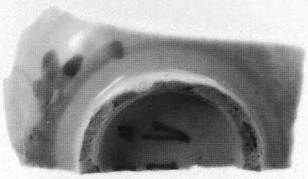

72－5

72－8


72－7


72－6

72－10


72－9

72－11

3区　遺構に伴わない出土遺物

報 告 書 抄 録

フリガナ	カンバラニイセキ
書名	神原Ⅱ遺跡
副書名	1997年の調査成果
巻次	第１分冊
シリーズ名	志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	１３
著者名	田原淳史、寺尾　令
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.jp/section/maibun/
所在地	〒690-0131　島根県松江市打出町33番　TEL0852－36－8608 e-mail maibun@pref.shimane.jp
発行年月日	平成14年（2002年）３月29日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	位置 北緯	位置 東経	調査期間	調査面積	調査原因
カンバラ イセキ 神原Ⅱ遺跡	シマネケン 島根県 イイシグン 飯石郡 トンバラチョウ 頓原町 シヅミ 志津見	32884		32° 59′ 57″	129° 30′ 02″	1997.04 から 1997.12	6500㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
カンバラ イセキ 神原Ⅱ遺跡	集落	弥生時代 奈良時代 江戸時代	建物跡(竪穴･掘立柱) 土坑墓 土坑 ピット	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 陶磁器 石器	第１分冊
	製鉄遺跡				第２分冊